

官報號外

昭和十四年三月十二日

○第七十四回 衆議院議事速記録第二十四號

昭和十四年三月十一日(土曜日)

午後一時三十八分開議

議事日程 第二十三號

昭和十四年三月十一日

午後一時開議

昭和十四年三月十一日

午後一時開議

第一 工業組合法中改正法律案 (政府提出)

第二 大日本航空株式會社法案 (政府提出)

第三 帝國鑄業開發株式會社法案 (政府提出)

第四 船員保險法案 (政府提出)

第五 青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案 (政府提出)

第六 著作権ニ關スル仲介業務ニ關スル法律案 (政府提出)

第七 昭和十三年法律第二十三號中改正法律案 (關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ關スル件) (政府提出)

第八 昭和十二年法律第八十四號中改正法律案 (支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件) (政府提出)

第九 昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案 (政府提出)

第十 昭和七年法律第一號中改正法律案 (滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件) (政府提出)

第十一 支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案 (政府提出)

第十二 災害被害者ニ對スル租稅ノ減免、徵收猶シテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案 (政府提出)

第十三 登錄稅法中改正法律案 (政府提出)

第十四 有價證券移轉稅法中改正法律案 (政府提出)

第十五 海運組合法案 (政府提出)

第十六 造船事業法案 (政府提出)

第十七 裁判所構成法中改正法律案 (政府提出)

第十八 臨時資金調整法中改正法律案 (政府提出)

第十九 產金法中改正法律案 (政府提出)

第二十 滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止ニ關スル法律案 (政府提出)

明治二十五年三月二十一日
第三種郵便物認可

第十七 裁判所構成法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第十八 臨時資金調整法中改正法律案

(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十九 產金法中改正法律案 (政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十 滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止ニ關スル法律案 (政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十一 借地借家臨時處理法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)

第二十二 公證人法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)

第二十三 登錄稅法中改正法律案

第二十四 有價證券移轉稅法中改正法律案

第二十五 海運組合法案

第二十六 造船事業法案

第二十七 裁判所構成法中改正法律案

(支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

(支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)

昭和七年法律第一號中改正法律案

(支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案)

昭和十二年歲出第一豫備

一去九日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ	朝鮮事業公債法中改正法律案	朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案	朝鮮鐵道株式會社所屬金堤慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案	朝鮮鐵道株式會社所屬金堤慶北安東間鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案
大正十四年法律第五十一號中改正法律案 (關東州ノ生産ニ係ル物品ノ輸入稅免除等ニ關スル件)	大正十四年法律第五十一號中改正法律案 (鐵ノ輸入稅免除ニ關スル件)	大正十四年法律第五十一號中改正法律案 (關東州ノ生産ニ係ル物品ノ輸入稅免除等ニ關スル件)	大正十四年法律第五十一號中改正法律案 (關東州ノ生産ニ係ル物品ノ輸入稅免除等ニ關スル件)	大正十四年法律第五十一號中改正法律案 (關東州ノ生産ニ係ル物品ノ輸入稅免除等ニ關スル件)
議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ 一人一回五圓以上ノ酒食遊興禁止ニ關スル建議案	議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ 一人一回五圓以上ノ酒食遊興禁止ニ關スル建議案	議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ 一人一回五圓以上ノ酒食遊興禁止ニ關スル建議案	議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ 一人一回五圓以上ノ酒食遊興禁止ニ關スル建議案	議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ 一人一回五圓以上ノ酒食遊興禁止ニ關スル建議案
提出者 山崎 常吉君 新田義貞公及一黨ノ勤王事蹟ニ付教科書再検討ニ關スル建議案	提出者 鈴木 正吾君 陣 軍吉君 熊谷五右衛門君 長谷 長次君	提出者 土屋 寛君 永山 忠則君 藤田 若水君 望月 圭介君	提出者 名川 倪市君 山道 裏一君 古田喜三太君 作田高太郎君	提出者 木原 七郎君 肥田 琢司君 森田 福市君
提出者 佐藤謙之輔君 今成留之助君	提出者 杉山元治郎君 山田 順策君	提出者 池田 清秋君 村上紋四郎君 庄 晋太郎君	提出者 高橋 守平君 高橋 守平君 鶴岡大鳥間鐵道敷設ニ關スル建議案 國道九號線改修促進ニ關スル建議案	提出者 高橋 守平君 木下成太郎君 末松脩一郎君
提出者 水產時局對策確立ニ關スル建議案	提出者 高木參太郎君 青山 憲二君	提出者 内藤 守正君 小野 寅吉君 豐田 豊吉君	提出者 大野 一造君 田中 邦治君 北 啓吉君	提出者 森 肇君 西川 貞一君 木下成太郎君 田子 一民君
提出者 川崎 克君 田中 万逸君 池本甚四郎君	提出者 青木 精一君 一松 定吉君	提出者 沖島 鎌三君 庄 晋太郎君 小山 谷藏君	提出者 岡田喜久治君 大野 一造君 松尾 三藏君	提出者 岡本實太郎君 三君 塚本 三君
提出者 鶴岡大鳥間鐵道敷設ニ關スル建議案 國道九號線改修促進ニ關スル建議案	提出者 東亞指導者養成機關トシテノ大學設立ニ關スル建議案	提出者 鶴岡大鳥間鐵道敷設ニ關スル建議案 國道九號線改修促進ニ關スル建議案	提出者 牧野 良三君 岡田喜久治君 片岡 恒一君	提出者 田村 秀吉君 秀吉君
提出者 葉煙草貿易價格引上ニ關スル建議案	提出者 木下成太郎君 末松脩一郎君	提出者 樋口善右衛門君 今井 新造君	提出者 手代木隆吉君 柳仲次郎君	提出者 田村 秀吉君 秀吉君
提出者 高木參太郎君 青山 憲二君	提出者 守屋 榮夫君	提出者 鶴岡大鳥間鐵道敷設ニ關スル建議案 國道九號線改修促進ニ關スル建議案	提出者 助川啓四郎君 加藤 知正君	提出者 田村 秀吉君 秀吉君
提出者 東鄉 幸太郎君 田村 秀吉君	提出者 高田 耘平君 寶君	提出者 多田 滿長君 助川啓四郎君	提出者 森 駿君 西川 貞一君 木下成太郎君 田子 一民君 岩瀬 亮君 小見山七十五郎君	提出者 支那各地ニ日本語學校設置ニ關スル建議案 行政裁判制度改善ニ關スル建議案 専門學校程度ノ窓業教育機關設置ニ關スル建議案 檢事局外ニ獨立セル起訴機關特設ニ關スル建議案 田村 秀吉君 秀吉君

德佐高森間鐵道敷設速成ニ關スル建議案	提出者 佐賀縣ニ高等工業學校設置ニ關スル建議案	窪井 義道君	案
池田 秀雄君	中野 邦一君	須永 好君	田原 春次君
愛野時一郎君	田中 亮一君	前川 正一君	北九州工業地帶ニ省線高架線敷設促進ニ關スル建議案
藤生安太郎君	一ノ瀬俊民君	立川 平君	提出者 興信所法制定ニ關スル建議案
大畑港修築ニ關スル建議案	小笠原八十美君	松本治一郎君	須永 好君
刑務所看守優遇ニ關スル建議案	末松偕一郎君	田原 春次君	前川 正一君
提出者 帝國大學肅正ニ關スル建議案	守屋 繁夫君	伊豆七島ニ町村制施行ニ關スル建議案	須永 好君
提出者 山道 裏一君	田子 一民君	松本治一郎君	須永 好君
東 武君	生田 和平君	田原 春次君	前川 正一君
椎尾 辨匡君	窪井 義道君	伊豆七島ニ町村制施行ニ關スル建議案	須永 好君
河上 哲太君	原 夫次郎君	三輪 壽壯君	須永 好君
長野 紗良君	一松 定吉君	淺沼稻次郎君	須永 好君
伊豆 富人君	小林 三郎君	中村 高一君	須永 好君
土佐山田驛ヨリ徳島縣牟岐線海岸ニ至ル 鐵道敷設ニ關スル建議案	(以上三月九日提出) 議案	星 一君	須永 好君
提出者 田村 秀吉君	紅露 昭君	西山 博	須永 好君
生田 和平君	三木 武夫君	高岡 大輔君	須永 好君
秋田 清君	紅露 昭君	井上 良次君	須永 好君
小名濱港第二期修築工事促進ニ關スル建 議案	紅露 昭君	高橋圓三郎君	須永 好君
提出者 釤本 衛雄君	紅露 昭君	東洋各地其ノ他ヘ視察委員團派遣ニ關 スル建議案	須永 好君
橋港修築ニ關スル建議案	紅露 昭君	星 一君	須永 好君
提出者 德島高等工業學校ノ大學昇格ニ關スル建 議案	紅露 昭君	山田 六郎君	須永 好君
奈良市ニ高等工業學校設置ニ關スル建議 案	紅露 昭君	助川啓四郎君	須永 好君
五條新宮間鐵道速成ニ關スル建議案	福井 基三君	河野 密君	須永 好君
提出者 福井 基三君	世耕 弘一君	松本治一郎君	須永 好君
國道十五號線速成並鋪裝ニ關スル建議案	森 榮藏君	松本治一郎君	須永 好君
提出者 野見宿禰公顯彰ニ關スル建議案	福井 基三君	松本治一郎君	須永 好君
由岐漁港修築ニ關スル建議案	森 榮藏君	松本治一郎君	須永 好君
提出者 福井 基三君	藤生安太郎君	松本治一郎君	須永 好君

度量衡制度改正ニ關スル建議案

提出者

東 武君 福井 善二君

山道 裕一君

武君 福井 善二君

德島縣ニ四國帝國大學設置ニ關スル建議案

提出者

山道 裕一君

武君 福井 善二君

小學校教員ノ待遇改善ニ關スル建議案

提出者

伊藤 五郎君 森田重次郎君

紅露 昭君

釜石盛間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者

志賀和多利君 泉 國三郎君

乳牛保護助成ニ關スル建議案

提出者

松尾 孝之君

農漁山村ニゴム靴配給ニ關スル建議案

提出者

小笠原八十美君 泉 國三郎君

東播資源開發ニ關スル建議案

提出者

小林 純治君

北九州ニ大規模ノ港灣修築ニ關スル建議案

提出者

原口初太郎君 若宮 貞夫君

鈴木 英雄君 増永 元也君

汚水煙害防除ニ關スル建議案

提出者

大野 伴陸君 森 幸太郎君

伊那三信鳳來寺豊川各地方鐵道國營ニ關スル建議案

提出者

北原阿智之助君 野溝 勝君

提出者

高田 耘平君 野村 嘉六君

提出者

北原阿智之助君 村上 國吉君

戰時又ハ事變ニ際シ應召セラレタル者及

其ノ家族ノ戸籍上優遇ニ關スル建議案

提出者

小泉 純也君 関野 龍一君

多田 满長君 西岡竹次郎君

塙本 重藏君 前川 正一君

石坂 繁君 井上 良次君

提出者

伊藤 五郎君 森田重次郎君

紅露 昭君

提出者

伊藤 五郎君 森田重次郎君

提出者

關西地方風水害復舊債償還年限延長及同

債利子補給繼續ニ關スル建議案

提出者

本田彌市郎君 池本甚四郎君

小畠虎之助君 西田 郁平君

提出者

田中 邦治君 小山邦太郎君

水戸市ニ文科大學設置ニ關スル建議案

提出者

小畠虎之助君 池本甚四郎君

提出者

鋼材配給統制ニ關スル質問主意書

提出者

(以上三月十日提出) 中村 高一君

提出者

一去九日當任委員理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

決算委員

理事 川俣 清音君 (委員井上良次君)

提出者

去九日理事辭任ニ付其ノ補

提出者

理事 川俣 清音君 (委員井上良次君)

提出者

去九日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル當任

委員左ノ如シ

第九部選出請願委員

池崎 忠孝君

一去九日特別委員理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)外二件委員

昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)外二件委員

昭和十三年法律第六十四號中改正法律案(兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル件)(政府提出)外二件委員

中田 儀直君		武田 德三郎君	昭和十二年法律第五十七號中改正法律案 (錢ノ輸入税免除ニ關スル件)(政府提出)	
南 鼎三君		田中 亮一君	外一件委員	
伊禮 肇君		豊田 收君	辭任深澤豐太郎君 補闕宮脇 長吉君	
田万 潤臣君		今井 新造君	船舶建造融資補給及損失補償法案(政府提出)委員	
船舶建造融資補給及損失補償法案(政府提出)委員		職員健康保險法案(政府提出)委員		佐藤洋之助君
中川 重春君		山本 厚三君	中川 重春君	
木原 七郎君		小林房之助君	木原 七郎君	
則元卯太郎君		佐藤洋之助君	一昨十日平沼内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令	
古島 義英君		板谷 順助君	アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ	
田中源三郎君		芦田 均君	辭任道家齊一郎君 補闕田川大吉郎君	
濱地 文平君		紅露 昭君	一昨十日平沼内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令	
板野 友造君		青木 精一君	アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ	
春名 成章君		小山 亮君	映畫法案(政府提出)委員	
岡崎 憲君		請願委員 小田 榮君 (池崎忠孝君)	映畫法案(政府提出)委員	
福田 恒夫君		小泉 純也君	映畫法案(政府提出)委員	
鶴見 祐輔君		高多壯一郎君	映畫法案(政府提出)委員	
坂下仙一郎君		小林 三郎君	第九部選出	
伊藤 五郎君		星島 二郎君	第七十四回帝國議會厚生省所管事務政府	
岩瀬 亮君		増永 元也君	委員被仰付	
木村 正義君		元也君	委員被仰付	
高岡 大輔君		赤松 克麿君	一昨十日當任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ	
田原 泰次君		三木 武夫君	一昨十日當任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ	
北原阿智之助君		大野 一造君	昭和十三年法律第六十四號中改正法律案 (兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル件)(政府提出)外一件委員	
世耕 弘一君		坂田 道男君	昭和十四年三月九日	
岡崎久次郎君		理事	第一讀會ノ續(委員長報告)	
○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマス		○板谷順助君	第十八臨時資金調整法中改正法律案 (政府提出)	
○議長(小山松壽君) 議事日程變更ノ緊急動議ヲ		只今議題トナリマシタル臨	理事	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		時資金調整法中改正法律案ノ委員會審議ノ	中川 重春君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		經過竝ニ結果ヲ御報告申上ダマス、先づ法	木原 七郎君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		案ノ大要ヲ簡單ニ説明致シマス、今回改正	佐藤洋之助君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		ノ第一點ハ、資金ヲ支那事變處理ノ爲ニ緊	田中源三郎君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		要ニシテ必要ナル方面ニ集中スル目的ヲ以	星島 二郎君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		テ、事業設備ノ新設、擴張、又ハ改良ニ關	木原 泰次君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		シテ、個人及ビ會社以外ノ法人ニモ及ボサ	坂田 道男君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		ントスル案デアリマス、第二點ハ、時局ニ	佐藤洋之助君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		緊要ナル産業資金ガ増大シテ參リマシタノ	高岡 大輔君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		デ、日本興業銀行ガ資金調達力ヲ擴充スル	田原 泰次君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		爲、興業債券ノ發行限度ヲ五億圓ヨリ十億	北原阿智之助君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		圓ニ擴張シ、右ニ關スル元本ノ償還及ビ利	大野 一造君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		息ノ支拂ニ付キマシテ、政府ノ保證限度ヲ	木村 正義君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		擴張セントスルノ案デアリマス、第三點ハ	高岡 大輔君	
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト呼フ者アリ		事變ニ因ル政府撤布資金ノ吸收ニ資スル爲、	田原 泰次君	

貯蓄債券ノ發行限度ヲ一億圓ヨリ五億圓ニ擴張セントスル案デアリマス、委員會ハ數回ニ瓦リマシテ審議ヲ行ヒマシタガ、委員ト政府當局トノ間ニ質疑應答ヲ重ネマシタル中、主ナル問題ニ付キマシテ六點ダケ極メテ簡單ニ概要ヲ申上ゲマス

第一點ハ、本法ノ適用ヲ受ケル會社ヲ昨夏資本金五十萬圓ヨリ二十萬圓ニ引下ゲタコトハ低キニ過ギルト思フ、個人ニテモ二十万圓ノ會社ヲ作ル代リニ、是位ノ資本ヲ集積シテ仕事ヲスルコトハ容易ト思フガ、五十萬圓ヨリ二十萬圓ニ引ゲタ理由如何、之ニ對シマスル政府ノ答辯ハ、資金調整強化ノ意味カラ、物資ノ調整ヲ一步進メル必要ガアツタノデ引下ゲタノデアル、又個人トシテモ二十萬圓ノ資本ヲ集メルニハ、金融機關ノ手ヲ借リナケレバ必ズシモ容易デナイ、ノミナラズ又事業設備ノ方面ヲモ取締ル方針デアル、斯ウ云フ御答辯ガアツタノデアリマス、第二點ハ、事業設備ヲ廣イ意味ニ解釋サレテ居ルガ、五万圓以上ノ事業ニ要スル資金ハ、總テ此ノ資金調整法デ制限ヲ受ケルト云フコトニナルノカ、之ニ對スル政府ノ答辯ハ、此ノ法律ハ資金ト物資トヲ不急不要ノ方面ニ使フコトヲ抑止スル目的デ出來テ居ルノデアルカラ、不急ノモノハ出來ルダケ避ケテ貰ヒタイ、三万圓以上ハ金融機關カラ借リル場合ハ、其ノ権關ノ自治的調整ニ依ル、又自己資金ニ依ル場合ハ、其ノ都度許可ヲ受クルコトニナツテ居ルト云フ答辯デアリマス、第三

點ハ、住宅ト營業店舗ヲ兼ネタル場合モ此ノ適用ノ中ニ含マレテ居ルガ、餘リニ嚴格ナ規定デアル、ウツカリ知ラズニ店舗ヲ住宅ノ積リデ建テテ中止ヲ命ゼラルコトトナルガ、此ノ點ハ今少シク狹ク解釋スベキモノト思フ、殊ニ此ノ法律ノ施行前ト施行後トノ狀態ニ付テハ誤解ヲ招キ易イト思フカラ、餘程注意ヲ要スルト思フガ如何、此ノ質問ニ對スル政府ノ答辯ハ、此ノ資金調整法ヲ強化スル爲ニハ已ムヲ得ヌ、此ノ違反事件ヲ防グ爲ニハ、此ノ法律ヲ廣く國民ニ周知セシムル爲ニ、萬全ノ策ヲ講じタイト云フ答辯デアリマス、第四點ハ、資金調整法ノ第五條ニハ、此ノ法律ノ手續ハ總テ日本銀行ニ取扱ハシメルコトニナツテ居ルノニ、實際ハ更ニ大藏、商工ノ兩官廳ノ諒解ヲ得ナケレバ許可ニナラヌヤウニナツテ居ル現在ノ狀態デハ、日本銀行ニ相當ニ引掛ツテ居ツテ拂ラヌト云フガ如何、之ニ對スル政府ノ答辯ハ、日本銀行ハ金融ノ中心機關デアリ、官廳ヨリハ民間トノ接觸ガ多イカラ、調整ノ效果ヲ圓滑ニヤリタイ考カラデアル、尤モ大部分ノ仕事ハ日本銀行ガ自己ノ判断ニ依ツテ取扱ツテ居ルガ唯重要ナル案件ニ付テハ資金審査委員會ニ掛け原则トシテハ出來ルダケ十日以内ニ片付ケタイ心組ミデ、今日ヤツテ居ルノデアルト云フ答辯デアリマス、第五點ハ、興業銀行ノ貸出ハ時局以來非常ニ膨脹シ、現在ノ資本金ノ二十倍ニモ達シテ居ルガ、將來ニナツテ居ルト云フ答辯デアリマス、第三

點ハ、住宅ト營業店舗ヲ兼ネタル場合モ此ノ法律ニ依ツテ事業資金トシテ使用サレタルコトトナルガ、此ノ點ハ今少シク狹ク解釋スベキモノガ十四億四千六百餘万圓デアリ、更ニ此ノ内興業銀行ノ貸出ガ四億九千餘万圓アリ、將來生産擴充ニ伴ツテ資金ノ付ニ依ルモノガ、此ノ供給ヲ圓滑ナラシムル爲ニ、此ノ方面ノ金融ハ經驗ト技能ニ於テ興業銀行ガ重要ナ役割ヲ爲スコトガ適當ト考ヘル、又銀行ノ現在ノ營業狀態ハ鞏固デアツテ、政府監督シテ居ルカラ、聊モ懸念ハナイト信ズル、斯ウ云フ答辯ガアツタノデアリマス、更ニ第六點ト致シマシテ、投機資金ヲ抑ヘナケレバ思惑ハ絶エナイ、隨テ物價高モ來シテ居ルガ、最近銀行ノ當座預金ガ增加シテ居リ、此ノ預金ガ多ク投機ニ使用サレテ居ルト思フガ、之ガ取締方法ハ如何、之ニ對スル政府ノ答辯ハ、投機ニ因リ物價高ヲ來タシツヅアルコトニ付テハ、金融機關ニ對シ嚴重考カラデアル、尤モ大部分ノ仕事ハ日本銀行ガ自己ノ判断ニ依ツテ取扱ツテ居ルガ唯重要ナル案件ニ付テハ資金審査委員會ニ掛け原则トシテハ出來ルダケ十日以内ニ片付ケタイ心組ミデ、今日ヤツテ居ルノデアルト云フ答辯デアリマス、第五點ハ、興業銀行ニ通牒ヲ發シテ出來ルダケノ努力ヲ拂ツテ居ル、斯ウ云フ答辯デアツタノデアリマス、以上ハ問答ノ主ナルモノノ一部デアリマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ第一讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 本案ノ第一讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

臨時資金調整法中改正法律案

第二讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ日程第十九ヲ繰上ゲ上程シ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナイト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日程第十九、產金法中改正法律案、第一讀會ノ續委員長八角三郎君ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——

第十九 產金法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一產金法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十四年三月九日

委員長 八角 三郎

衆議院議長小山松壽殿

〔八角三郎君登壇〕

○八角三郎君 只今議題トナリマシタ本案委員會ノ經過ノ大要並ニ結果ヲ御報告申上げマス、本法案ノ改正ノ目的ハ、金ノ集中ヲ圖リ以テ本邦ノ對外決済力ノ充實ニ資スル爲、此ノ際民間所在金ノ集中ヲ更ニ徹底スルノ要アルニ顧ミ、政府ハ必要ナル場合ユ金地金、金ノ合金、金ヲ主タル材料トスル物、又ハ金貨幣ヲ所有スル者ニ對シテ、之ヲ處分ニ付テ禁止若クハ制限ヲ爲シ、又ハ之ヲ政府若クハ日本銀行、其ノ他政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジ得ルノ規定ヲ整ヘントスルモノニアリマス、委員會ハ前後四回ニ亘リ極メテ熱心ニ且ツ慎重ニ審議ヲ重ネ、論議ヲ盡シタノニアリマスガ、其ノ質問ノ主ナルモノハ、第一、本案

鑛山監督局ニ技術者乃至ハ熟練鑛夫ヲ存置スル方法ニ關スルモノ、第三、金ノ劃期的増產ヲ圖ラザルベカラザル現狀ニ於テ、產金獎勵、金探鑛等ニ關シ是亦劃期的ノ考慮ヲ拂ハザルベカラザルモノナルガ、是等ニ對スル方策如何、第四、我國河川ノ狀況ニ鑑ミ金增產ニハ砂金採取ヲ最モ簡易ナリトスルガ、之ニ對スル當局ノ措置如何、第五、我國國際收支ノ見透シ如何、第六、金密輸出防止ノ對策如何等ニアリマシテ、之ニ對シ大藏、商工兩省政府委員ヨリ懇切ナル答辯ガアリ

マシタガ、要スルニ我國國際收支ノ現在ニ照シ、本案ハ極メテ時宜ニ適シタルモノナルモ、是ト共ニ金ノ增產ニ付テ更ニ徹底の方策ヲ講ズベシト云フノガ論議ノ中心ニアリマシタ、詳細ハ速記録ニ依リ御諒承ヲ願ヒマス、尙ホ長谷委員ヨリ砂金採取ニ付最モ重要ナル提議ガアリ、速記ヲ中止シテ政府ト委員トノ間ニ懇談ヲ遂げ、政府ヨリハ十分之ヲ研究シ、實行ニ移シ得ベキモノハ速ニ實行政致

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際日程第二十乃至二十二ノ三案ヲ繰上ゲ一括上程シ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開

規決ノ結果満場一致原案通り可決セラレマシタ、以上御報告致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第二十、滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止ニ關スル法律案、第二十一、借地借家臨時處理法中改正法律案(政

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一借地借家臨時處理法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十四年三月八日

委員長 牧野 賤男

衆議院議長小山松壽殿

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第二十、滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止ニ關スル法律案、第二十一、借地借家臨時處理法中改正法律案、第二十二、公

官報號外 昭和十四年三月十二日 衆議院議事速記録第一十四號 產金法中改正ノ件 第二讀會(確定議) 滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止ニ關スル件外一件 五三七

報告書

一公證人法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十四年三月十日

委員長 牧野 賤男

衆議院議長小山松壽殿

(牧野賤男君登壇)

○牧野賤男君 政府提出貴族院送付ノ滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止ニ關スル法律案、該案ニ關スル委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ昭和十二年十一月調印セラレ、マシガ滿洲國ニ於ケル治外法權ノ撤廃、及ビ南滿洲鐵道附屬地行政權ノ委讓ニ關スル日本國、滿洲國間ノ條約ニ依リマシテ、滿洲國ニ於ケル帝國領事官ハ現ニ繫屬セル民事、刑事非訟事件ニ關シテハ、條約實施後ト雖モ引續キ從前ノ通り領事官ヲシテ處理セシメ居リマシタ所、今日ノ情勢ニ於キマシテハ、特ニ領事官ヲシテ取扱ハシムルノ必要ナキニ至リマシタ爲ニ、右領事官ノ管轄ヲ有スル是等ノ事務ハ、爾後之ヲ朝鮮總督府裁判所(間島ニ於ケル刑事案件一件)又ハ關東法院(民事、刑事案件件)ニ移管セントスル趣旨ニアリマス、委員會ニ於キマシテハ、治外法權撤廻後ノ滿洲國ノ種類、件數、朝鮮ニ於ケル裁判官ノ任用待遇ニ關シ、及ビ滿洲國ト第三國トノ治外法權ヲ有シナイコトニナツタノデアラザレバ、

斯、又別ニ有限會社法ガ制定セラレマシ

ス、委員會ニ於キマシテハ、既往現在ニ於キマスル事件ノ狀況ニ付テ相當緻密ノ質問段ノ異論モアリマセヌ、即チ滿場一致ヲ以テ可決致シタ次第アリマス

○服部崎市君 直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第三、帝國鑄業開發株式會社法案、第一讀會ヲ開キマス——商工政務次官今井健彦君

○議長(小山松壽君) 帝國鑄業開發株式會社法案(政府提出)

第三 帝國鑄業開發株式會社法案(政府提出)

第一章 總則

第一條 帝國鑄業開發株式會社ハ重要鑄物(金鑛及砂金ヲ除ク以下之ニ同ジ)ノ資源ノ開發ヲ促進シ其ノ増産ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

ノ本案ナク假差押假處分十數件アルノミニ付テ御報告申上ゲマス、御承知ノ通り商法改正案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 帝國鑄業開發株式會社法案(政府提出)

第三 帝國鑄業開發株式會社法案(政府提出)

第一章 總則

外法權撤廻ニ關スル質問ガアリマシタガ、別ニ本案ノ内容ニ付テノ疑義ハナイノデアスルコトト相成ツタノデアリマス、隨テ公理マシテ、一見極メテ明瞭デアリマスル爲デアリマス

次ニ政府提出貴族院送付ノ借地借家臨時處理法中改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ニ付テ御報告申上ゲマス、該法案ハ借地果ニ付テ御報告申上ゲマス、該法案デアリマス、

次ニ政府提出貴族院送付ノ借地借家臨時處理法中改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ニ付テ御報告申上ゲマス、該法案ハ借地

ス、即チ該法律ノ有效期限ヲ十箇年延期スルト云フ法律案デアリマス、關東震災地區ニ於キマスル假設建築物除却期限ノ延期、即チ「バラック」取拂延期ニ伴ヒマシテ、是ヨリ生ズル所ノ事件ヲ支配スル借地借家臨時處理法デアリマスカラ、此ノ取拂ガ延期シニナリマスルト同時ニ、此ノ法律モ延期シテ置ク方ガ適當デアルト云フ案デアリマス、

ス、委員會ニ於キマシテハ、既往現在ニ於キマスル事件ノ狀況ニ付テ相當緻密ノ質問段ノ異論モアリマセヌ、即チ滿場一致ヲ以テ可決致シタ次第アリマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第三、帝國鑄業開發株式會社法案、第一讀會ヲ開キマス——商工政務次官今井健彦君

○議長(小山松壽君) 帝國鑄業開發株式會社法案(政府提出)

第三 帝國鑄業開發株式會社法案(政府提出)

第一章 總則

第一條 帝國鑄業開發株式會社ハ重要鑄物(金鑛及砂金ヲ除ク以下之ニ同ジ)ノ資源ノ開發ヲ促進シ其ノ増産ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

ノ本案ナク假差押假處分十數件アルノミニ付テ御報告申上ゲマス、御承知ノ通り商法改正案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 帝國鑄業開發株式會社法案(政府提出)

第三 帝國鑄業開發株式會社法案(政府提出)

第一章 總則

店ヲ東京市ニ置ク

帝國鑄業開發株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ支店又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得

第三條 帝國鑄業開發株式會社ノ資本ハ三千萬圓トシ内千五百萬圓ハ政府ノ出資トス

帝國鑄業開發株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第四條 帝國鑄業開發株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニ限り之ヲ所有スルコトヲ得

第五條 帝國鑄業開發株式會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ三十年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第六條 帝國鑄業開發株式會社ニ非ザルモノハ帝國鑄業開發株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二章 役員

第七條 帝國鑄業開發株式會社ニ社長副社長各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク。

第八條 社長ハ帝國鑄業開發株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副社長ハ社長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副社長及理事ハ社長ヲ補助シ帝國鑄業開發株式會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ帝國鑄業開發株式會社ノ業務ヲ

監査ス

第九條 社長及副社長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ四年トス

理事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命ジ其ノ任期ヲ三年トス

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二年トス

第十條 社長、副社長及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 營業

第十一條 帝國鑄業開發株式會社ハ左ノ營業ヲ營ムモノトス

一 重要鑄物ヲ目的トスル鑄業（砂鑄業ヲ含ム以下之ニ同ジ）

二 重要鑄物ニ關スル鑄床ノ調査

三 重要鑄物ヲ目的トスル鑄業ニ對スル技術ニ關スル指導

四 重要鑄物ノ賣買又ハ其ノ斡旋

五 重要鑄物ヲ目的トスル鑄業又ハ製

鑄業ノ爲必要ナル器具、機械、材料又ハ設備ノ賣買

六 重要鑄物ヲ目的トスル鑄業又ハ製

鑄業ニ對スル資金ノ融通又ハ投資

ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

上必要ナル諸事業ヲ營ムコトヲ得

第十二條 日本興業銀行ハ前條第一項第

六號ノ事業ニ關シ帝國鑄業開發株式會

社ノ業務ノ一部ヲ代理スルコトヲ得

帝國鑄業開發株式會社日本興業銀行ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシメントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十三條 帝國鑄業開發株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ五倍ヲ限り鑄業開發債券ヲ發行スルコトヲ得

鑄業開發債券ヲ發行スル場合ニ於ケル株主總會ノ決議ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十四條 鑄業開發債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十五條 政府ハ鑄業開發債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十六條 鑄業開發債券ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ得

第十七條 鑄業開發債券ノ所有者ハ帝國鑄業開發株式會社ノ財產ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十八條 帝國鑄業開發株式會社ハ社債借換ノ爲一時第十三條ノ制限ニ依ラズ鑄業開發債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以内ニ其ノ

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リスベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於

第十九條 帝國鑄業開發株式會社ハ毎營業年度ニ準備金下シテ資本ノ缺損ヲ補

フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第二十條 政府ハ帝國鑄業開發株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十一條 帝國鑄業開發株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條 定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼス

第二十三條 帝國鑄業開發株式會社ハ毎營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十四條 政府ハ帝國鑄業開發株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ重要鑄物ノ增産上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ重要鑄物ノ增産上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於

第五章 準備金

第十九條 帝國鑄業開發株式會社ハ毎營業年度ニ準備金下シテ資本ノ缺損ヲ補

フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金

額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第六章 監督及助成

第二十條 政府ハ帝國鑄業開發株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十一條 帝國鑄業開發株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條 定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼス

第二十三條 帝國鑄業開發株式會社ハ毎營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十四條 政府ハ帝國鑄業開發株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ重要鑄物ノ增産上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ重要鑄物ノ增産上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於

第二十五條 政府ハ帝國鑄業開發株式會社監理官ヲ置キ帝國鑄業開發株式會社

ノ業務ヲ監視セシム

第二十六條 帝國鑛業開發株式會社監理官ハ何時ニテモ帝國鑛業開發株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

帝國鑛業開發株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ帝國鑛業開發株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

帝國鑛業開發株式會社監理官ハ何時ニテモ帝國鑛業開發株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

帝國鑛業開發株式會社監理官ハ何時ニテモ帝國鑛業開發株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

述スルコトヲ得

第二十七條 政府帝國鑛業開發株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條 帝國鑛業開發株式會社ハ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先

述スルコトヲ得

第二十九條 帝國鑛業開發株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第三十條 帝國鑛業開發株式會社ハ毎

營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ

超過シタル當該營業年度ノ利益金ト看

做ス

第二項ノ規定ニ依リ補給金ヲ償還シ尙

残餘アリタルトキハ之ヲ前項ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ

超過シタル當該營業年度ノ利益金ト看

做ス

第二項ノ規定ニ依ル積立金ハ後營業年

度ニ於ケル第一項ノ規定ニ依ル補給金ノ計算ニ付テハ之ヲ配當シ得ベキ利益

金ト看做ス

第三十條 帝國鑛業開發株式會社ノ每營

業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割

合ニ達セルトキハ政府ハ初營業年度

營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂

込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割

合ニ達セルトキハ政府ハ初營業年度

及爾後五年間ヲ限リ之ニ達セシムベキ

金額ヲ補給スベシ但其ノ額ハ初營業

年度ヲ除キ每營業年度ニ於テハ政府以

外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ相當スル鑛業開發債券及借入金ノ利息額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ミタル株金額ハ利益配當方總

所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對ノ超過スル利益金額ハ利益配當方總ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有

スル株式ノ拂込ミタル株金額又政府ノ

金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先

述スルコトヲ得

第二十七條 政府帝國鑛業開發株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條 政府帝國鑛業開發株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十九條 政府帝國鑛業開發株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第三十條 政府帝國鑛業開發株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第三十一條 帝國鑛業開發株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得稅及營業収益稅ヲ免除ス

第三十二條 北海道、府縣及市町村其ノ他ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得稅及營業収益稅ヲ免除セラレタ

第三十三條 帝國鑛業開發株式會社ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十四條 帝國鑛業開發株式會社ノ社員ノ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ハ利益配當方總ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先述スルコトヲ得

第三十五條 第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第三十六條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條 政府ハ設立委員ヲ命ジ帝國鑛業開發株式會社ノ設立ニ關スル一切事務ヲ處理セシム

第三十九條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政

府ノ認可ヲ受クベシ

第四十條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第四十一條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第百二十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第四十二條 設立委員株主ノ募集ヲ終リ

三 第十三條ノ規定ニ違反シ鑛業開發ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキ

四 第十八條ノ規定ニ違反シ鑛業開發債券ヲ發行シタルトキ

五 第二十四條ノ規定ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

六 第二十九條ノ規定ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

七 第三十條ノ規定ニ違反シタルトキ

八 第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

九 第三十二條ノ規定ニ違反シタルトキ

十 第三十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

十一 第三十四條ノ規定ニ違反シタルトキ

十二 第三十五條ノ規定ニ違反シタルトキ

十三 第三十六條ノ規定ニ違反シタルトキ

十四 第三十七條ノ規定ニ違反シタルトキ

十五 第三十八條ノ規定ニ違反シタルトキ

十六 第三十九條ノ規定ニ違反シタルトキ

十七 第四十條ノ規定ニ違反シタルトキ

十八 第四十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

十九 第四十二條ノ規定ニ違反シタルトキ

タルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ
其ノ検査ヲ受クベシ

第四十三條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受

ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂

込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ

遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第四十四條 創立總會ニ於テハ第九條ノ

規定ニ準ジ理事候補者ノ選舉及監事ノ

選任ヲ行フベシ

第四十五條 創立總會終結シタルトキハ

設立委員ハ其ノ事務ヲ帝國鑛業開發株

式會社社長ニ引渡スベシ

第四十六條 本法施行ノ際帝國鑛業開發

株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商

號ト爲ス會社ハ本法施行後六月以内ニ

其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第三十五條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ

前項ニ掲タル者ニ適用セズ

第四十七條 登錄稅法第六條第一項第十

一號中「又ハ產金振興債券」ヲ「產金振

興債券又ハ鑛業開發債券」ニ改ム

〔政府委員今井健彦君登壇〕

○政府委員(今井健彦君) 只今議題トナリ
マシタ帝國鑛業開發株式會社法案ノ提案ノ

理由ヲ御説明申上ゲマス、銅鉛、亞鉛、錫

シク申述ベルマデモナク、國防上並ニ產業

上ノ基礎的資材デアリマシテ、隨テ之ガ供

給ヲ確保致シマスルコトハ、國防上並ニ產

業上極メテ緊要ナル事柄デアリマス、翻ツ

テ我國ニ於ケル是等重要鑛物ノ需給狀態ニ
付テ之ヲ見マスルニ、今次ノ支那事變發生

以來、其ノ需要ノ增加ハ特ニ著シキモノガ

アルノデアリマシテ、是等重要鑛物ノ國內

諸般ノ情勢ニ鑑ミ、昨年第七十三回帝國議

會ノ御協賛ヲ經マシテ、重要鑛物增產法ヲ

制定施行シ、之ヲ樞軸ト致シマシテ、重要

鑛物ノ增產促進ニ關スル種々ノ方策ヲ實施

シテ居ル次第デアルノデアリマスガ、何分

ニモ之ガ需要ノ增加ハ極メテ急激ナルモノ

デアリマシテ、斯ル實情ニ即應シ、併セテ

長期建設ノ將來ニ備ヘンガ爲ニハ、更ニ新

ナル増產達成ノ方策ヲ樹立シ、速ニ之ヲ實

施シテ、是等重要鑛物供給ノ增加ニ努ムル

コトガ不可缺ノ要務デアルト認メラルノ

デアリマス、而シテ是等重要鑛物ノ增產實

現ノ方策ト致シマシテハ、種々考へ得ラレル

ノデアリマスルガ、先づ第一ニ本邦ニ於ケ

ル是等鑛物資源ノ賦存狀態ヨリ之ヲ見マシ

テ、所謂休眠鑛區ノ積極的開發ヲ促進致シ

マスルト共ニ、低品位鑛石ノ活用ヲ實現致

シマスコトガ、有效且ツ緊要ナル事柄デア

ルト存ズルノデアリマス、今日各鑛山ニ於

キマシテハ、極力其ノ生産力擴充ニ努メツ

ツアルノデアリマシテ、此ノ方面カラ大イ

シク申述ベルマデモナク、國防上並ニ產業

上ノ基礎的資材デアリマシテ、隨テ之ガ供

給ヲ確保致シマスルコトハ、國防上並ニ產

業上極メテ緊要ナル事柄デアリマス、翻ツ

利用ヲ圖リマスコトハ、我國ノ實情ト致シ
マシテハ、何トシテモ之ヲ實施シナケレバ

トガ絶對ニ必要デアリマス、即チ國家ノ施

設ニ並行シテ探鑛調査等ヲ汎ク行ヒ、以テ

國內鑛物資源ノ遺憾ナキ利用ニ資スルコト

ガ緊要デアルト存ズルノデアリマス、以上

ノ外、當面ノ是等重要鑛物ノ飛躍的ナル需

要增加ニ對處シテ、生產ノ增加ヲ圖ツテ

參リマスガ爲ニハ、鑛石ノ取引條件等ニ一

層ノ公明化ヲ期シ、或ハ鑛物增產計畫ノ遂

行上必要テル資金ノ調達ニ便宜ヲ圖リ、其

ノ他特ニ中小鑛山ニ於ケル作業能率ノ向上

ニ努ムル等ノ事柄ヲ、實現致サナケレバナ

ラスト考へルノデアリマス、併シナガラ是

等ノ事業ハ、其ノ性質上何レモ公正ナル國

家的ノ機關ニ依ツテ經營セラレルコトガ必

要デアルノデアリマシテ、之ヲ單ナル民間

ノ企業ニ期待スルコトハ不可能デアルト思

料セラレルノデアリマス、是レ茲ニ新ニ法

律ニ依リ半官半民ノ特殊會社タル帝國鑛業

開發株式會社ヲ設立シテ、是等ノ事業ニ當

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、

日程第五、青年學校令ニ依リ就學セシメラ

ルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案、第一

讀會ヲ開キマス——廣瀬厚生大臣

第五 青年學校令ニ依リ就學セシメラ

ルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案、第一

(政府提出) 第一讀會

リマス、何卒御審議ノ上御協賛アランコト
ヲ希望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス
ベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮詢致シマス

法律第五十七號中改正法律案外一件委員ニ
併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ

提出致シマス、即チ日程第五乃至第十四ノ
十案ヲ繰上げ上程シ、逐次其ノ審議ヲ進メ
ラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、

日程第五、青年學校令ニ依リ就學セシメラ

ルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案、第一

讀會ヲ開キマス——廣瀬厚生大臣

第五 青年學校令ニ依リ就學セシメラ

ルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案、第一

(政府提出) 第一讀會

青年人就業時間ニ關スル法律案

者ノ就業時間ニ關スル法律案

第一讀會

工場法、鑛業法ニ基キテ發スル命令又ハ
商店法中就業時間數ノ制限ニ關スル規定
ヲ青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ
者ニシテ十六歳未滿ノモノニ付適用スル
場合ニ於テハ其ノ者ガ履修スベキ義務課
程タル一日ノ教授及訓練時間ハ之ヲ就業
時間ト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣廣瀬久忠君登壇〕

○國務大臣(廣瀬久忠君) 只今議題トナリ

マシタ青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、青年學校ノ義務制ハ昭和十四年度ヨリ實施サレル豫定デアリマス、隨テ工場、鑛山、商店等ニ働く者モ、青年學校ニ就學セシメラルル山又ハ商店ニ働くテ居リマス十六歳未滿ノ者ニ付テハ、既ニ工場法、鑛業法ニ基ク命令、又ハ商店法ニ於テ就業時間ノ制限ヲ設け、年少者ニ對シ特別ノ保護ヲ圖ツテ居ルノデアリマス、然ルニ是等ノ者ニ付テ國家ガ青年學校ノ就業ヲ義務トシテ命ズル場合ニ於テ、其ノ者ノ就業時間ニ對シ新ニ制限ヲ設ケナイト致シマスレバ、勢ヒ是等ノ年少者ハソレドヽノ法令ニ於テ許サレテ居リマス最長時間ノ労働ニ加フルニ、更ニ今回ノ青年學校義務制ニ依ル教育ヲ受クルコトトナルノデアリマシテ、其ノ結果ハ明ニ年少者ニ心身ノ負擔ヲ加重セシメルノデアリマス

一面ニ於テ青年學校ヲ義務制ト致シマス所以ハ、社會ノ實務ニ從事スル青年ノ教育ヲ青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ニシテ十六歳未滿ノモノニ付適用スル場合ニ於テハ其ノ者ガ履修スベキ義務課程タル一日ノ教授及訓練時間ハ之ヲ就業時間ト看做ス

國情ニ鑑ミ極メテ緊要ナコトト考ヘラレタカラデアリマス、而シテ是ガ教育ノ效果ヲ舉ガマス爲ニハ、就學セシメラルベキ者ニ對シマシテ、適當ナル保護ヲ與フルノ必要ガアルノデアリマス、以上ノヤウナ趣旨カラ、

青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ新ニ制限ヲ加ヘル必要ヲ認ヌ、茲ニ本法案ヲ提出シタ次第デアリマス、本法案ノ内容ハ、工場法、鑛業法ニ基ク命令、又ハ商店法ニ於テ定メラレテ居リマス就業時間數ノ制限ニ關スル規定ヲ、青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ニシテ、十六歳未滿ノ者ニ適用スル場合ニ於テハ、青年學校ニ於ケル教授及ビ訓練時間ハ、之ヲ就業時間ト同一ニ取扱フコトト致シタノデアリマス、以上ハ本法案ノ概要デアリマス、何卒慎重御審議ノ上御協賛アランコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮詢致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出青年學校教育費國庫補助法案委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認ヌマ

ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第

六、著作権ニ關スル仲介業務ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——木戸内務大臣

一面ニ於テ著作権ニ關スル仲介業務ニ關スル法律案ノ第一讀會ニ譲間スペシ前項ノ規

第六 著作権ニ關スル仲介業務ニ關スル法律案(政府提出)

著作権ニ關スル仲介業務ニ關スル法律

第一條 本法ニ於テ著作権ニ關スル仲介業務ト稱スルハ著作物ノ出版、翻譯、興行、放送、映畫化、寫調其ノ他ノ方法ニ依ル利用ニ關スル契約ニ付著作権者ノ爲ニ代理又ハ媒介ヲ業トシテ爲スヲ謂フ

著作権ノ移轉ヲ受ケ他人ノ爲ニ一定ノ目的ニ從ヒ著作物ヲ管理スルノ行爲ヲ

業トシテ爲スハ之ヲ著作権ニ關スル仲介業務ト看做ス

前二項ノ著作物ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 仲介人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ業務報告書及會計報告書ヲ主務大臣ニ提出スル

第六條 主務大臣ハ何時ニテモ仲介人ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ其ノ帳簿書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第七條 主務大臣ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ仲介人ノ事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ其ノ業務及財產ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ

第三條 前條ノ許可ヲ受ケタル者(以下仲介人ト稱ス)ハ命令ノ定ムル所ニ依リ著作物使用規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

前項ノ認可ノ申請アリタルトキハ主務大臣ハ其ノ要領ヲ公告ス

第八條 主務大臣ハ仲介人ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務執行ノ方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 仲介人本法若ハ本法ニ基キテ發

スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違

反シタルトキ又ハ其ノ業務ニ關シ公益

行ヲ業トスル者ノ組織スル團體其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ前項ノ要領ニ付見ヲ具申スルコトヲ得

主務大臣第一項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ公告ノ日ヨリ一月ヲ經過シタル後著作権審査會ニ譲問スベシ前項ノ規定ニ依リ意見ノ具申アリタルトキハ著作権審査會ニ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第四條 仲介人ハ義務ノ範圍又ハ業務執行ノ方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第五條 仲介人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ業務報告書及會計報告書ヲ主務大臣ニ提出スル

第六條 主務大臣ハ何時ニテモ仲介人ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ其ノ帳簿書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第七條 主務大臣ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ仲介人ノ事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ其ノ業務及財產ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ

第三條 前條ノ許可ヲ受ケタル者(以下仲介人ト稱ス)ハ命令ノ定ムル所ニ依リ著作物使用規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

前項ノ認可ノ申請アリタルトキハ主務大臣ハ其ノ要領ヲ公告ス

第八條 主務大臣ハ仲介人ノ業務又ハ財

產ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業

務執行ノ方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他必要

ナル命令ヲ爲スコトヲ得

ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ第二條ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得
第十條 第二條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ著作権ニ關スル仲介業務ヲ爲シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十一條 仲介人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第二條又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル業務ノ範圍ヲ超エ業務ヲ爲シタルトキ
二 第九條ノ規定ニ依ル業務ノ停止又ハ制限ニ違反シタルトキ
第十二條 仲介人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第一條又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル業務ノ執行方法ニ依ラズシテ業務ヲ爲シタルトキ
二 第三條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル著作物使用料規程ニ依ラズシテ業務ヲ爲シタルトキ
三 第五條ノ規定ニ依ル業務報告書若ハ會計報告書ヲ提出セズ又ハ之ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキ
四 第六條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ帳簿書類ヲ提出セザルトキ
五 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ

第十四條 法人又ハ人の代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人の業務ニ關シ第十條乃至第十二條ノ罰則ハ得ズ
至第十二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人の自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第十五條 第十條乃至第十二條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ著作権ニ關スル仲介業務ヲ爲ス者又ハ其ノ業務ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ三月ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ業務ヲ爲スコトヲ得
前項ニ掲タル者前項ノ期間内ニ第二條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ
○國務大臣侯爵木戸幸一君 只今上程ニ
○議長(小山松壽君) 服部サンノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ――日程第七乃至第十四ハ便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

法律案ノ提案理由ヲ御説明申上げマス
○國務大臣侯爵木戸幸一君 文化ノ發達茲ニ之ガ普及ヲ期スル爲ニハ、著作者ノ権利ヲ尊重スルト共ニ、又著
第十一支那事變ニ關スル特別賜金ト
第十二昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲
公債發行ニ關スル件)政府提出
第一讀會

第十三條 第七條ノ規定ニ依ル臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百

圓以下ノ罰金ニ處ス
第十四條 法人又ハ人の代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人の業務ニ關シ第十條乃至第十二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人の自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
至第十二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人の自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第十五條 第十條乃至第十二條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ著作権ニ關スル仲介業務ヲ爲ス者又ハ其ノ業務ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ三月ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ業務ヲ爲スコトヲ得
前項ニ掲タル者前項ノ期間内ニ第二條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ
○國務大臣侯爵木戸幸一君 只今上程ニ
○議長(小山松壽君) 服部サンノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ――日程第七乃至第十四ハ便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

法律案ノ提案理由ヲ御説明申上げマス
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第七、昭和十三年法律第二十
三號中改正法律案、日程第八、昭和十二年
法律案(政府提出)
第一讀會

第十一支那事變ニ關スル特別賜金ト
第十二昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲
公債發行ニ關スル件)政府提出
第一讀會

第十三條 第七條ノ規定ニ依ル臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百

圓以下ノ罰金ニ處ス
第十四條 法人又ハ人の代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人の業務ニ關シ第十條乃至第十二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人の自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
至第十二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人の自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第十五條 第十條乃至第十二條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ著作権ニ關スル仲介業務ヲ爲ス者又ハ其ノ業務ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ三月ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ業務ヲ爲スコトヲ得
前項ニ掲タル者前項ノ期間内ニ第二條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ
○國務大臣侯爵木戸幸一君 只今上程ニ
○議長(小山松壽君) 服部サンノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ――日程第七乃至第十四ハ便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

法律案ノ提案理由ヲ御説明申上げマス
○議長(小山松壽君) 文化ノ發達茲ニ之ガ普及ヲ期スル爲ニハ、著作者ノ権利ヲ尊重スルト共ニ、又著
第十一支那事變ニ關スル特別賜金ト
第十二昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲
公債發行ニ關スル件)政府提出
第一讀會

第十三條 第七條ノ規定ニ依ル臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百

圓以下ノ罰金ニ處ス
第十四條 法人又ハ人の代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人の業務ニ關シ第十條乃至第十二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人の自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
至第十二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人の自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第十五條 第十條乃至第十二條の罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ著作権ニ關スル仲介業務ヲ爲ス者又ハ其ノ業務ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ三月ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ業務ヲ爲スコトヲ得
前項ニ掲タル者前項ノ期間内ニ第二條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ
○國務大臣侯爵木戸幸一君 只今上程ニ
○議長(小山松壽君) 服部サンノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ――日程第七乃至第十四ハ便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

法律案ノ提案理由ヲ御説明申上げマス
○議長(小山松壽君) 文化ノ發達茲ニ之ガ普及ヲ期スル爲ニハ、著作者ノ権利ヲ尊重スルト共ニ、又著
第十一支那事變ニ關スル特別賜金ト
第十二昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲
公債發行ニ關スル件)政府提出
第一讀會

第十三條 第七條ノ規定ニ依ル臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百

第一條 政府ハ北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亘り震災其ノ他ノ被害甚大ナル災害アリタル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ災害ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅及災害ニ因ル被害物件ニ對シ課セラルベキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得	本法ハ昭和十三年中ニ生ジタル災害ヨリ之ヲ適用ス
第二條 政府ハ前條ノ災害アリタル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ災害ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ課稅標準ノ決定又ハ更訂ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得	登錄稅法中改正法律案 第六條第一項第四號ヲ左ノ如ク改ム
第三條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ第一條ノ災害アリタル地方ニ於テ納付スペキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ課稅ニ關スル申告及申請並ニ納期ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得	株式合資會社資本增加 同項第七號ヲ左ノ如ク改ム
第四條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ第一條ノ災害アリタル地方ニ於テ納付スペキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得	但シ社債ノ轉換ニ因ル資本增加 增資拂込株金額 及財產ヲ目的トスル株金以外ノ千分ノ五
第五條 第一條ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除セラルル國稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレザルモノト看做ス	但シ社債ノ轉換ニ因ル資本增加 ノ場合ニ於テハ其ノ社債ニ付第十一號ノ規定ニ依リ納メタル登録稅額ヲ控除ス
第六條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス	八ノ二 有限會社設立
第七條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス	八ノ三 有限會社資本增加 千分ノ五
第八條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス	增出資ノ價格 千分ノ五
第九條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス	同項第十一號中「商法第二百四條ノ拂込」ヲ「商法第三百三條又ハ其ノ準用規定ニ依ル拂込」ニ改ム
第十條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス	灾害被害者ニ對スル租稅ノ減免、徵收猶豫等ニ關スル法律案
第十一條 災害被害者ニ對スル租稅ノ減免、徵收猶豫等ニ關スル法律案	本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第十二條 災害被害者ニ對スル租稅ノ減免、徵收猶豫等ニ關スル法律案	附則

同項第十四號ノ次ニ左ノ四號ヲ加フ	十八ノ三 清算人ノ職務代行者ノ選任、解任又ハ變更
十四ノ二 社員ノ業務執行權ノ喪失	每一件 金十圓
十四ノ三 取締役又ハ監查役ノ職務執行ノ停止	每一件 金十圓
十四ノ四 取締役又ハ監查役ノ職務代行者ノ選任	每一件 金十圓
十四ノ五 取締役又ハ無限責任社員ノ職務ヲ行フ監査役ノ選任	每一件 金十圓
十四ノ六 取締役又ハ無限責任社員ノ職務ヲ行フ監査役ノ選任	每一件 金十圓
同項第十五號但書中「商法施行法」ノ下ニ「又ハ商法中改正法律施行法」ヲ加フ	每一件 金十圓
同項第十六號ノ二ヲ左ノ如ク改ム	每一件 金十圓
十六ノ一 會社ノ繼續ノ登記	每一件 金十圓
十六ノ二 會社ノ繼續ノ登記	每一件 金十圓
十六ノ三 合併ヲ無効トスル判決力確 定シタル場合ニ於ケル合併ニ因リ消 滅シタル會社ニ付テノ回復ノ登記	每一件 金十圓
十六ノ四 會社設立ノ無効又ハ取消 同項第十八號ヲ左ノ如ク改ム	每一件 金七圓
十八ノ一 商法第百二十三條又ハ其ノ準用 規定ニ依ル登記	每一件 金一圓
十八ノ二 清算人ノ職務執行ノ停止、 其ノ取消又ハ變更	每一件 金一圓
十八ノ三 清算人ノ職務執行ノ喪失	每一件 金十圓
十八ノ四 取締役又ハ監査役ノ職務執行ノ停止	每一件 金十圓
十八ノ五 取締役又ハ監査役ノ職務代行者ノ選任	每一件 金十圓
十八ノ六 取締役又ハ無限責任社員ノ職務ヲ行フ監査役ノ選任	每一件 金十圓

第六條ノ三第一項第四號ノ次ニ左ノ一號 ヲ加フ	四ノ二 商法第二十六條第二項ノ登記
第十九條ノ三ヲ第十九條ノ四トシ以下第 十九條ノ十二迄ヲ順次一條宛繰下グ 又ハ登錄ニ付テハ登錄稅ヲ課セス	每一件 金五圓
同項第十五號但書中「商法施行法」ノ下ニ 「又ハ商法中改正法律施行法」ヲ加フ	每一件 金五圓
同項第十六號ノ二ヲ左ノ如ク改ム	每一件 金十圓
十六ノ一 會社ノ繼續ノ登記	每一件 金十圓
十六ノ二 會社ノ繼續ノ登記	每一件 金十圓
十六ノ三 合併ヲ無効トスル判決力確 定シタル場合ニ於ケル合併ニ因リ消 滅シタル會社ニ付テノ回復ノ登記	每一件 金十圓
十六ノ四 會社設立ノ無効又ハ取消 同項第十八號ヲ左ノ如ク改ム	每一件 金七圓
十八ノ一 商法第百二十三條又ハ其ノ準用 規定ニ依ル登記	每一件 金一圓

有價證券移轉稅法中改正法律案 商法中改正法律施行法第五十五條ニ規定 スル社債ノ登記ニ付テハ登錄稅法第六條 第一項第十一號ノ改正規定ニ拘ラズ仍從 前ノ例ニ依ル	附 則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム 商法中改正法律施行法第五十五條ニ規定 スル社債ノ登記ニ付テハ登錄稅法第六條 第一項第十一號ノ改正規定ニ拘ラズ仍從 前ノ例ニ依ル	本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム 商法中改正法律施行法第五十五條ニ規定 スル社債ノ登記ニ付テハ登錄稅法第六條 第一項第十一號ノ改正規定ニ拘ラズ仍從 前ノ例ニ依ル
リ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルコト致シ マシタル所、之ガ會計上ノ處理ニ關シマシ テ、昭和十三年法律案第二十三號中改正ヲ 必要ト致シマスルノデ、本法律案ヲ提出致 シマシタ次第アリマス	リ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルコト致シ マシタル所、之ガ會計上ノ處理ニ關シマシ テ、昭和十三年法律案第二十三號中改正ヲ 必要ト致シマスルノデ、本法律案ヲ提出致 シマシタ次第アリマス
度豫算ノ定ムル所ニ依リ、外地特別會計ヨ リ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルコト致シ マシタル所、之ガ會計上ノ處理ニ關シマシ テ、昭和十三年法律案第二十三號中改正ヲ 必要ト致シマスルノデ、本法律案ヲ提出致 シマシタ次第アリマス	度豫算ノ定ムル所ニ依リ、外地特別會計ヨ リ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルコト致シ マシタル所、之ガ會計上ノ處理ニ關シマシ テ、昭和十三年法律案第二十三號中改正ヲ 必要ト致シマスルノデ、本法律案ヲ提出致 シマシタ次第アリマス
次ニ昭和十二年法律第八十四號中改正法 律案ニ付テ説明致シマス、支那事變ニ關ス ル經費ニ付キマシテハ、第七十一回、第七 十二回及ビ第七十三回ノ各帝國議會ノ協賛 ヲ經マシテ、其ノ財源ニ充ツル爲ノ公債發 行ヲ爲シ得ル權能ヲ得テ居ルノデアリマス	次ニ昭和十二年法律第八十四號中改正法 律案ニ付テ説明致シマス、支那事變ニ關ス ル經費ニ付キマシテハ、第七十一回、第七 十二回及ビ第七十三回ノ各帝國議會ノ協賛 ヲ經マシテ、其ノ財源ニ充ツル爲ノ公債發 行ヲ爲シ得ル權能ヲ得テ居ルノデアリマス

○國務大臣(石渡莊太郎君登壇) リマシタ諸法律案ニ付キマシテ提出ノ理由 ハ、一般會計及ビ各特別會計ヨリノ繰入金	ヲ說明致シマス 先づ昭和十三年法律案第二十三號中改正 ニ付キマシテハ、之ヲ公債財源ニ依ルコトト ニ於キマシテ臨時軍事費ノ一部ニ充ツル爲 致シマスル爲、昭和十二年法律第八十四號中 ノ公債發行限度ヲ増額シマシテ、百四億三 十万圓トスル必要ガアリマスノデ、本法律 案ヲ提出致シマシタ次第アリマス 次ニ昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ 充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案ニ付 テ說明致シマス、昭和十四年度歲入歲出總 豫算ニ伴フ一般會計歲入不足ノ補填ニ付キ マシテハ、之ニ關スル法律案ヲ今期議會ニ 提出シテアリマスガ、今回別途提出致シマ シタ同年度歲入歲出總豫算追加第一號ニ計 上セル經費ノ所要財源ノ總額九億千五十餘 萬圓ヨリ、增稅其ノ他ノ普通歲入ヲ以テ充當 スベキ分一億八千二百四十餘萬圓ト、滿洲 事件ニ關スル經費支辨ノ爲ノ公債法ニ依ル 公債金ヲ以テ充當スベキ分三億六千四百七十 餘萬圓ト差引キ致シマシタ殘額、三億六千 三百二十餘萬圓ニ付キマシテハ、公債 ニ依ルコト致シテ居リマスノデ、本法律 案ヲ提出致シタ次第アリマス
事費ノ追加ヲ必要ト致シマスル所、其ノ所 要財源中六億八千九十九餘萬圓ニ付キマシテ ハ、一般會計及ビ各特別會計ヨリノ繰入金	次ニ昭和七年法律第一號中改正法律案ニ 付テ説明致シマス、昭和十四年度ニ於キマ シテ、滿洲事件ニ關スル經費トシテ必要ナ ル金額三億六千九百十餘萬圓ヨリ、普通歲入 ヲ以テ支辨スベキ豫定ノ金額四百三十餘萬 圓ヲ差引キマシタル殘餘ノ三億六千四百七 十餘萬圓ニ付キマシテハ、從來ノ如ク之ヲ 公債財源ニ依ルコト致シマシタル所、昭 和十二年歲度ニ於ケル滿洲事件費ニシテ、公

債財源ニ依ルコトト豫定シテ居リマシタ
内、決算上不用ト相成ツタ金額等ガ千七百
十餘万圓アリマスル爲、之ヲ差引致シマシ
テ三億四千七百六十萬圓ダケ、現行ノ昭和
七年法律第一號ニ依ル公債ノ發行限度ヲ増
加スル必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提
出致シマシタ次第デアリマス

次ニ支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交
付スル爲公債發行ニ關スル法律案ニ付テ説
明致シマス、支那事變ニ關スル勤務ニ從事
シ、之ガ爲死歿致シマシタル陸海軍軍人、
軍屬等ノ遺族ニ對シマシテ、賜與セラレマ
スル特別賜金ニ付キマシテハ、昭和十三年
八月以降、當該豫算ヲ以テ大藏省預金部又
ハ日本銀行ヨリ公債ヲ買上げマシテ、之ヲ
交付スルコト致シテ參リマシタガ、右ハ
寧口交付公債發行ノ方法ニ依ルノヲ適當ト
認メマシテ、之ガ爲ニハ公債發行ニ關スル
法律ノ制定ヲ必要ト致シマスルノデ、本法
律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス

次ニ災害被害者ニ對スル租稅ノ減免、徵
集猶豫等ニ關スル法律案ニ付テ説明致シマ
ス、從來相當廣汎ナル地域ニ亘リマシテ、
震災其ノ他ノ被害甚大ナル災害ガアリマシ
タ場合ニ於キマシテハ、其ノ都度法律又ハ
緊急勅令ヲ制定シテ、租稅ノ減免、徵集猶
豫等ヲ行ツテ參ツタノデアリマスガ、從來
致スト云フコトデハ、災害ノ發生致シマシ
タ時日ノ關係等ニ依リマシテ、十分敏速ニ
シテ適切ナル措置ヲ講ジ難イ憾ガアツタノ

デアリマス、隨ヒマシテ此ノ際災害發生ノ
場合ニ對處スル爲ノ根據法ヲ制定致シテ置
キマシテ、被害甚大ナル災害ノ發生致シマ
シタ場合ニ於テハ、命令ノ定ムル所ニ依リ、
直チニ租稅上適切ナル救濟措置ヲ講ジ得ル
ヤウニ致シテ置クコトヲ適當ト認ヌタ次第
デゴザイマシテ、又衆議院ニ於ケル御要望
ニモ副フ所以デアルト考ヘテ居ルノデゴザ
イマス、茲ニ此ノ法律案ヲ提出致シタ次第
デゴザイマス

次ニ登錄稅法中改正法律案ニ付テ説明致
シマス、商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル
法人ガ登記ヲ受クルトキハ、御承知ノ通り
トニモナツテ居ルノデアリマス、昨年ノ第七
十三回帝國議會ノ御協賛ヲ經テ公布ニナリ
マシタ商法中改正法律竝ニ有限會社法ニ依
リマシテ、商法上ノ會社ハ從來ヨリ登記スル
事項ガ增加シ、又新ニ認メラレマシタ有限
會社ハ、商法上ノ會社ト略、同様ノ登記ヲ
要スルコトニナツタノデアリマス、是等ノ
新ナル登記事項ニ付キマシテハ、從來ノ登
記ニ對スル課稅トノ權衡上、課稅スルコト
ヲ適當ト認メマシテ、本法律案ヲ提出致シ
マシタ次第デアリマス

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ此ノ際日程第十七ヲ線
上げ上程シ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ
望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ此ノ際日程第十七ヲ線
上げ上程シ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ
望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

二十圓以下ノ地方債證券、勸業債券等ニ付
テ説明致シマス、御承知ノ如ク、額面金額
キマシテハ、現在有價證券移轉稅ヲ課セ
ナイコトニナツテ居ルノデアリマスガ、政
府ニ於キマシテハ國債消化ノ一助トシテ、

最近小額面ノ國債ヲ發行スルコトニ致シテ
居リマスノデ、額面金額二十圓以下ノ國債
直チニ租稅上適切ナル救濟措置ヲ講ジ得ル
ヤウニ致シテ置クコトヲ適當ト認ヌタ次第
デゴザイマシテ、又衆議院ニ於ケル御要望
ニモ副フ所以デアルト考ヘテ居ルノデゴザ
イマス、茲ニ此ノ法律案ヲ提出致シタ次第
デゴザイマス

○議長(小山松壽君) 各案ノ審査ヲ付託ス
ベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮詢致シマス

○議長(小山松壽君) 各案ノ審査ヲ付託ス
ベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮詢致シマス

○議長(小山松壽君) 各案ノ審査ヲ付託ス
ベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮詢致シマス

○政府委員(倉元要一君) 只今議題トナリ
マシタ裁判所構成法中改正法律案ニ付キマ
シテ、其ノ提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲタイ
ト存ジマス、現行法ニ於キマシテハ、破産
事件ハ總テ區裁判所ノ管轄ト相成ツテ居ル
ノデゴザイマス、然ルニ御承知ノ如ク商法
ノ會社篇ガ改正サレマシタ結果、株式會社
ノ整理又ハ特別清算ノ手續カラ破算手續ニ
移ツテ行ク場合ガ新ニ認メラレマシタガ、
株式會社ノ整理及ビ特別清算ニ關スル事件
ハ、其ノ性質ニ鑑ミマシテ、地方裁判所ノ
管轄ニ屬セシムルコトヲ必要トシ、隨テ此
ノ整理又ハ特別清算ノ手續カラ破算ニ移リ
マシタ場合ニハ、ヤハリ整理又ハ特別清算
ヲ取扱ヒマシタ當該地方裁判所ノ管轄ト致
サネバナラナイノデアリマス、仍テ現行法
ニ一つノ例外ヲ認メルコトトナリマシタカ
ラ、其ノ趣旨ノ改正ヲ致サントスルノガ、

律案、第一讀會ヲ開キマス——司法政務次
官倉元要一君

第十七 裁判所構成法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

裁判所構成法中改正法律案

第十四條ノ二中「區裁判所ハ」ノ下ニ「他
ノ法律ニ特別ノ規定アルモノヲ除ク外」

ノ法律ニ規定アルモノヲ除ク外」

ヲ加フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(政府委員倉元要一君登壇)

○政府委員(倉元要一君) 只今議題トナリ
マシタ裁判所構成法中改正法律案ニ付キマ
シテ、其ノ提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲタイ
ト存ジマス、現行法ニ於キマシテハ、破産
事件ハ總テ區裁判所ノ管轄ト相成ツテ居ル
ノデゴザイマス、然ルニ御承知ノ如ク商法
ノ會社篇ガ改正サレマシタ結果、株式會社
ノ整理又ハ特別清算ノ手續カラ破算手續ニ
移ツテ行ク場合ガ新ニ認メラレマシタガ、
株式會社ノ整理及ビ特別清算ニ關スル事件
ハ、其ノ性質ニ鑑ミマシテ、地方裁判所ノ
管轄ニ屬セシムルコトヲ必要トシ、隨テ此
ノ整理又ハ特別清算ノ手續カラ破算ニ移リ
マシタ場合ニハ、ヤハリ整理又ハ特別清算
ヲ取扱ヒマシタ當該地方裁判所ノ管轄ト致
サネバナラナイノデアリマス、仍テ現行法
ニ一つノ例外ヲ認メルコトトナリマシタカ
ラ、其ノ趣旨ノ改正ヲ致サントスルノガ、

即チ本案デゴザイマス、其ノ詳細ニ付キマ

シテハ他ノ機會ニ十分ニ御説明申上ゲル

積リデアリマスガ、何卒十分御審議ノ上本

案ニ對シ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ切望致

ス次第デゴザイマス（拍手）

○議長（小山松壽君） 本案ノ審査ヲ付託ス

ベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮詢致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出人事調停法

案委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

○議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異

議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市君 日程第一ハ本日ハ審議ヲ延

期セラレントヲ望ミマス

○議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異

議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第

二、大日本航空株式會社法案ノ第一讀會ヲ

開キマス——鹽野遞信大臣

第二 大日本航空株式會社法案（政府

提出） 第一讀會

大日本航空株式會社法案

大日本航空株式會社法

第一條 大日本航空株式會社ハ航空輸送

事業ノ振興發展ヲ圖ルヲ目的トスル株

式會社トス

第二條 帝國（關東州及南洋群島ヲ含ム

以下同ジ）内各地間ニ於ケル航空輸送事業

事業及帝國內ニ起點ヲ有スル國際航空

輸送事業ハ大日本航空株式會社ノ外之

ヲ營ムコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ム

ル帝國内各地間ニ於ケル航空輸送事業

ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 大日本航空株式會社ノ資本ハ一

億圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増

加スルコトヲ得

第四條 政府ハ三千七百二十五萬圓ヲ限

リ大日本航空株式會社ニ出資スベシ

政府ハ金錢以外ノ財產ヲ以テ出資ノ目

的ト爲スコトヲ得

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ

株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ

得

第五條 大日本航空株式會社ノ株金ノ第

一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ル

コトヲ得

政府ハ金錢以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有

スル株式ノ第二回以後ノ株金拂込ニ充

ツルコトヲ得

第六條 大日本航空株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又

ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務執

務執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ

半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人

又ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限リ之

ヲ所有スルコトヲ得

第七條 大日本航空株式會社ニ非ザルモノハ大日本航空株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二章 役員

第八條 大日本航空株式會社ニ總裁副總裁各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第九條 總裁ハ大日本航空株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定款ノ定期ム所ニ從ヒ大日本航空株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ大日本航空株式會社ノ業務ヲ監查ス

第十條 總裁及副總裁ハ勅裁ヲ經テ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命ジ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第十一條 總裁、副總裁及業務ヲ分掌ス

第十六條 大日本航空株式會社債ヲ募集セントスルトキ又ハ借入金ヲ爲サン

トスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十七條 定款ノ變更、利益金ノ處分、

合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受ク

ルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十八條 大日本航空株式會社ハ每營業

年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受

クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十九條 政府ハ大日本航空株式會社ノ

第三章 業務

第十二條 大日本航空株式會社ハ航空輸送事業ノ經營並ニ航空輸送事業調整ノ爲ニスル投資、融資及助成ヲ爲スモノ

トス

大日本航空株式會社ハ政府ノ認可ヲ受

ケ前項ノ事業ノ外本會社ノ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營ムコトヲ得

第十四條 準備金及航空事故損失填補積立金

第十三條 大日本航空株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ

爲利益金額ノ百分ノ五以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第十五條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ヲ監督ス

第十六條 大日本航空株式會社債ヲ募

集セントスルトキ又ハ借入金ヲ爲サン

トスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十七條 定款ノ變更、利益金ノ處分、

合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受ク

ルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十八條 大日本航空株式會社ハ每營業

年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受

クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十九條 政府ハ大日本航空株式會社ノ

業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ爲

第二十條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ニ關シ軍事上又ハ事業調整上其ノ他公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スペキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協

前項ノ命今ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スペキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協

前項ノ命今ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ命今ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ命今ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ命今ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ命今ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ命今ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ命今ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ命今ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ命今ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

第二十五條 大日本航空株式會社ハ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額シ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第二十六條 大日本航空株式會社ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第二十一條 政府ハ大日本航空株式會社ノ監理官ヲ置キ大日本航空株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十二條 大日本航空株式會社監理官ハ必要ト認ムトキハ政府ハ初營業年度及ハ何時ニテモ大日本航空株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

第二十三條 政府ハ大日本航空株式會社ニ命ジテ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

第二十四條 大日本航空株式會社ノ利潤ヲ超ニルコトヲ得ズ

第二十五條 大日本航空株式會社ノ決議ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 大日本航空株式會社ノ債権ヲ募集スル場合ニ於ケル株主總會ノ決議ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 大日本航空株式會社ノ營業收益税ヲ免除ス

第二十八條 大日本航空株式會社ハ商法ニ規定スル制限ヲ超ニルコトヲ得ズ

第二十九條 政府ハ大日本航空株式會社ノ債権ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第三十條 大日本航空株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第三十一條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタ

第三十二條 大日本航空株式會社ガ左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登錄稅ノ額ハ左ノ額トス

ル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第二十六條 大日本航空株式會社ハ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第二十八條 大日本航空株式會社ハ商法ニ規定スル制限ヲ超ニルコトヲ得ズ

第二十九條 政府ハ大日本航空株式會社ノ債権ヲ募集スルコトヲ得

第三十條 大日本航空株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第三十一條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタ

第三十二條 大日本航空株式會社ガ左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登錄稅ノ額ハ左ノ額トス

第一 第四條第二項ノ規定ニ依ル政府ノ出資及第五條第二項ノ規定ニ依ルノ登錄稅ノ額ハ左ノ額トス

第二回以後ノ株金拂込

第二回以後ノ株金拂込ニ基ク不動產又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得

第二回以後ノ株金拂込ニ基ク不動產又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得

第三十三條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太及南洋群島ニ於ケル大日本航空株式會社ニ對スル課稅ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 罰則

第三十四條 大日本航空株式會社本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上五千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

第三十五條 大日本航空株式會社ノ總裁、副總裁及業務ヲ分掌スル理事第十一条ノ規定ニ違反シ他ノ職務又ハ商業ノ事務ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタルト

第三十六條 非訟事件手續法第二百六條

第三十七條 大日本航空株式會社ノ營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルコトヲ得

第三十八條 大日本航空株式會社ノ營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルコトヲ得

第三十九條 政府ハ定期航空輸送事業ヲ

乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

第三十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條 昭和十三年十一月一日航空法第三十六條ノ許可ヲ受ケタル大日本航空株式會社(以下許可會社ト稱ス)ハ

命令ノ定ムル所ニ依リ株主總會ノ決議ヲ以テ大日本航空株式會社ト爲ルコト

資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ

要ス
許可會社第一項ノ決議ヲ爲シタルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ
第三十九條 前條ノ認可ヲ爲シタルトキハ政府ハ設立委員ヲ命ジ許可會社ヲ大日本航空株式會社ト爲ス爲ニ必要ナル一切ノ事務ヲ處理セシム
前項ノ設立委員ノ中少クトモ二人ハ許可會社ノ取締役ノ中ヨリ之ヲ命ズルコトヲ要ス

設立委員ノ任命アリタル後ハ取締役ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ會社ノ常務ニ屬セザル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
第四十條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ
政府前項ノ規定ニ依ル認可ヲ爲サントスルトキハ政府ノ出資ノ目的タル金錢

以外ノ財產ノ價格及之ニ對シテ與フル

株式ノ數ニ付政府航空出資評價委員會ノ議ヲ經ベシ

政府航空出資評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ總株式ヨリ許可會社ノ株式ニ引當テラルベキ株式及政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第四十二條 株式申込證ニハ商法第二百一十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ノ外定款認可ノ年月日ヲ記載スベシ

第四十三條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受クベシ

第四十四條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク各新株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

第四十五條 前條ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第四十六條 創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事候補者ノ選舉及監事ノ選任ヲ行フベシ

第四十七條 創立總會終結シタルトキハ

設立委員竝ニ許可會社ノ取締役及監查役ハ各其ノ事務ヲ大日本航空株式會社ノ總裁ニ引渡スベシ

第四十八條 大日本航空株式會社ノ成立ノトシ許可會社ノ權利義務ハ大日本航空株式會社ニ於テ之ヲ承繼ス

第四十九條 前條ノ規定ニ依リ許可會社ガ大日本航空株式會社ト爲リタルトキハ所得稅法、營業收益稅法、法人資本稅法及臨時利得稅法ノ適用ニ關シテハ許可會社ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ト看做シ大日本航空株式會社ハ之ヲ合併ニ因リテ設立シタル法人ト看做ス

第五十條 政府第五條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格ニ付政府航空出資評價委員會ノ議ヲ經ベシ

○國務大臣(鹽野泰彥君) 只今議題トナリマシタ大日本航空株式會社法案ニ付キマシテ、其ノ提案ノ理由ヲ御説明申上げタイト存ジマス
〔國務大臣鹽野泰彥君登壇〕

第五十一條 第三十八條第一項ノ決議ニキ場合又ハ其ノ決議が效力ヲ生ゼザル場合ニ於テハ大日本航空株式會社ノ設立及開業準備ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 第二條及第七條ノ規定ハ大日本航空株式會社が成立スル迄之ヲ適用セズ

第五十三條 政府第五條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格ニ付政府航空出資評價委員會ノ議ヲ經ベシ

第五十四條 政府第五條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格ニ付政府航空出資評價委員會ノ議ヲ經ベシ

第五十五条 政府第五條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格ニ付政府航空出資評價委員會ノ議ヲ經ベシ

第五十六条 政府第五條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格ニ付政府航空出資評價委員會ノ議ヲ經ベシ

第五十七条 政府第五條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格ニ付政府航空出資評價委員會ノ議ヲ經ベシ

第五十八条 政府第五條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格ニ付政府航空出資評價委員會ノ議ヲ經ベシ

第五十九條 政府第五條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格ニ付政府航空出資評價委員會ノ議ヲ經ベシ

第六十条 政府第五條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格ニ付政府航空出資評價委員會ノ議ヲ經ベシ

第六十一条 政府第五條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格ニ付政府航空出資評價委員會ノ議ヲ經ベシ

第六十二条 政府第五條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格ニ付政府航空出資評價委員會ノ議ヲ經ベシ

我國ト特ニ密接ナル關係ヲ有シマスル支那、南洋、太平洋方面ニ於キマシテモ、既ニ列強ハ著々ト其ノ地歩ヲ固メ、其ノ航空網ハ我國ヲ包圍スルノ態勢ニアルノデアリマス、是ニ於キマシテ我ガ國際航空路ノ開設ハ、政府ノヨリ厚キ保護ノ下ニ官民協力シ、力ヲ新ニシテ之ニ當ラナケレバ、其ノ實效ヲ收メ得ナイ狀態ニ置カレテ居リマス、又一方滿洲事變及ビ支那事變以來、我國ノ東亞ニ於ケル地位ハ愈、強化セラレ、日滿支ヲ一體トシタル共榮ノ基礎漸ク堅キヲ加ヘツツアルノデアリマスガ、東亞ニ於ケル新秩序ノ建設ヲ促進シ、經濟上及ビ政治上ニ於ケル互助連環ノ關係ヲ一層鞏固ナラシムルガ爲ニハ、日滿支三國間ノ航空連絡ノ整備擴充ヲ圖ルト共ニ、大陸ニ於ケル航空輸送事業ノ興隆ヲ助成シ、各航空會社間ノ有機的連繫調整ヲ確保致シマスコトガ緊急ノ要務ト考フルノデアリマス、政府モ既ニ是等ノ點ニ留意シ、情勢ノ急需ニ應ジテ、取敢ズ昨年十二月一日、日本航空輸送株式會社及ピ國際航空株式會社ヲ統合シ、資本金二千五百五十萬圓ヲ以テ現在ノ大日本航空株式會社ヲ設立致シタノデアリマス、併シナガラ航空輸送事業ノ如ク收益性乏シク、而モ國家的使命ノ重要ナル事業ニアリマシテハ、之ヲ單ナル民間會社ニ委スルコトナク、須ク官民協力シテ資本ヲ集中シ、之ニ特別ナル保護助成ヲ與フルト共ニ、十分ナル指導監督ヲ加フベキデアリマス、此ノ故ヲ以テ政府ニ於キマシテハ、今回新ニ大日本航空株

式會社法ヲ制定シ、現在ノ會社ヲ母體トシテ半官半民ノ組織ニ依ル資本金一億圓ノ特殊會社ヲ設立セシメ、政府ハ之ニ對シテ三千七百二十五万圓ヲ出資スルト共ニ、補助金ノ支給、株式配當金ノ補給、社債ノ元利支拂保證、租稅ノ免除等、特別ノ保護助成ヲ與ヘ、且ツ之ニ對シテ適切ナル指導監督ヲ爲スコトシタ次第デアリマス、以上ガ今般大日本航空株式會社法案ヲ提案スルコト致シマシタ理由ノ大要デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ賜ランコトヲ切望シテ已マザル次第デアリマス(拍手)○議長(小山松壽君)質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——永田良吉君
(永田良吉君登壇)

○永田良吉君 只今議題トナリマシタ大日本航空株式會社法案ニ付キマシテ、鹽野遞信大臣ニ質問致シタイノデアリマスガ、時間ノ都合上此ノ案ノ内容ニ付キマシテ一二御尋シタイト思ヒマス
先づ第一ニ當法案ノ第七條ニ付キマシテ御尋致シマスガ、第七條ニ「大日本航空株式會社ニ非ザルモノハ大日本航空株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ」トアリマスルガ、尙ホ其ノ他ニナノ法案ノ中ニハ、他ノ今マデヤツテ居ル民間會社ハ航空輸送ガ出來ナイヤウナコトニナツテ居リマス、即チ大阪カラ高松別府線、或ハ日本海方面、其ノ他伊豆方面トカ、又土佐ニ行ク線路、此ノ四ツノ會社等ハ、此ノ大日本航空會社ガ出來マスト、營業ガ出

來ナイコトニナツテ居ルノデアリマス、是等ハ民間航空ノ進展上ニ大變ナ壓迫ト支障ヲ來シハセヌカト思フノデアリマス、此ノ點ヲ遞信大臣ニ第一ニ御尋ヲ致シテ置キマス、斯ニハ附隨シテ居ルノデアリマス、先づ支拂保證、租稅ノ免除等、特別ノ保護助成ヲ與ヘ、且ツ之ニ對シテ適切ナル指導監督ヲ爲スコトシタ次第デアリマス、以上ガ任期ヲ五年トス」トアリマスガ、遞信大臣裁及副總裁ハ勅裁ヲ經テ政府の命ジ其ノ任期ヲ五年トス」トアリマスガ、遞信大臣ハ今度ノ大日本航空會社ヲ半官半民デヤツトト致シマシタ理由ノ大要デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ賜ランコトヲ切望シテ居ル、斯ウ云フ半官半民ノ會社ニ付テ從業者ニ付シタ上ニ又「ボーナス」ヲ貰フ、サウシス、此ノ點ニ付テ御尋ヲシタイト思フノデアリマスルガ、昨年ノ議會デモ、發送電會社ノ共ハ色々ト忌ハシイコトヲ聞クノデアリマス、此ノ點ニ付テ御尋ヲシタイト思フノデアリマスルガ、昨年ノ議會デモ、發送電會社ノ重役ニ關シテ、遞信省ノ官吏ガ遞信省ヲ辭メテカラ、五箇年間ハ此ノ會社ニ就職スルメテカラ、五箇年間ハ此ノ會社ニ就職スルコトヲ許サヌト云フヤウナ決議モアツタヤウニ記憶致シテ居リマス、今回ノ大日本航空會社ノ設置ニ當リマシテモ、失禮デスガ、余り航空ニ理解ノナイヤウナ遞信省ノ官吏上リノ者ヲ、此ノ航空會社ニ持ツテ來テ貰ツテハ困ル、航空ハ日進月歩デ寸秒ヲ争フ機敏ナ活動的ナモノデアリマスカラ、サウ云フ方面ニ官吏ノ古株ヲ持ツテ來テ、今マデ監督ノ位置ニアツタ者ガ被監督ノ會社ノ重役トシテ色々ナコトヲ爲スガ如キハ、一云フ名目ノ下ニ居ツテ、サウシテ新シク出来ントスル會社ノ嫁入會社ニノサバリ返ツテ居ツテハ、航空上ノ進展ニ大變ナ支障ガアリハシナイカ、私ハ全部惡イトハ言ヒマセス、偶ニハ偉イ方モ居ラツシヤイマスケレドモ、大體監督ノ位置ニアツタ人ガ、其處ヲ辭メタ以上ハ、一番實務ニ携ハル其ノ被監督ノ會社ノ重役ナンカニナルト云フコトハ、從來此ノ議場ニ於テ幾タビカ唱ヘラ

航空輸送ノ如キハ、世界ノ中デ日本ガ一番遅レテ居ルノデアル、遅レテ居ル仕事ヲ進メナケレバナラヌ會社ニ、頭ノ古イ遅レタ奴ヲ置イタラ益、遅レルコトハ分ツテ居ル、左様ナ不明ナコトハ、而モ此ノ戰爭ノアル非常時ニ相應シカラヌコト思フノデアリマス、先ニ監野遞信大臣ハ民間航空ノ使命ニ付テ、或ハ經濟上、交通上、國防上ノコトヲ仰シヤイマシタガ、現在日本ノ民間航空ガ左様ナル貧弱ナモノデアルト云フコトヲ自ラ茲ニ辯解シテ居ラレル、然ルニ今回ノ事變ヲ見テモ、日本ノ陸海軍ノ空軍ハ世界ノ脅威トナツテ居リマス、立派ナ勵キラシテ居リマス、然ルニ民間航空ノ現在ノ輸送狀態ヲ見マスト、洵ニ寒心ニ堪ヘザルモノガアルノデアリマス、私ハツイ數日前モ大阪カラ東京ニ乘ツテ參リマシタガ、從來大阪東京間ニ於テハ一日三回モ四回飛行ンデ居ツタ、今ハ之ヲ止メテ一日タツタ二回飛ンデ居ル、戰爭ガアル場合ニハ夜モ晝モ十回モ、三十回モ三十六回モ飛ブベキデアル、ソソナコトハシナイデ之ヲ停止シテ居ル、ナゼソソナコトニシテ居ルカト役員ニ聽イテ見ルト、イヤ機材ガアリマセヌト言フ、飛行機ガナイ航空會社ナンカアルモノカ、今度ノ一億圓ノ會社モ飛行機ノナイ航空會社デハ私ハ贊成シマセヌ、是等ハ多ク支那ノ方ノ陸軍ノ補助ニ行ツタモノト思ヒマスケレドモ、ソレハ國防上皆召集セラレルノデアルカラ已ムヲ得ナイ、已ムヲ得ナイトハ云ヘ、補充ハスベキモノト思フ、

ソレ等ヲ補充シナイデ居ル、而モ滑稽ナコトニハ、皆サン御覽下サイ、鐵道案内ト云フモノガアリマス、其ノ第一頁ニ日本航空輸送會社ノ輸送系統ノ時間表ガアリマス、ソレニハ明ニ午前十一時大阪發、午後一時ニハ東京ニ著クヤウニ、チャント時間表ガ載ツテ居ル、私ハ急用ガアツタカラ、ソレヲ汽車ノ中デ見テ、大阪デ飛降リテ飛行場ニ行ツテ見ルト、豈ニ圖ランヤ飛行機ハ飛バナイ、大變ナ損害ヲシタ、汽車デ行ケバ宜カツタノラ、而モ自動車賃ヲ拂ツテ馬鹿ヲ見タ、ソレデモ懲りズニ漸ク午時一時ノ飛行便ニ乗リマシタガ、アア云フ鐵道案内ノ如キハ、一般民衆ノ燈臺トシテ間違ヒガアルベキモノデハナイ、若シ飛行ヲ停止シテ居ラレルナラ、ナゼアノ廣告ヲ御取消ニナラナイカ、甚ダ日本ノ民間航空會社ハ不親切デアル

〔議長退席、副議長著席〕
之ヲ監督セラレル上ノ人ハ眼ガ見エナイ、又モウ一ツ怪シカラヌコトガアル、此處ニ私ハ證據品ヲ持ツテ來テ居リマスカラ、遞信大臣ハ能ク御覽下サイ、斯ウ云フ日本定期航空案内ト云フノガ、其處ノ櫻田本郷町カラモ、亦日本全國ノ航空會社カラ出テ居ル、是ハ飛行機ニ乗ル人ガ皆貴フ、之ニハチヤント大阪ヲ午前十一時ニ出ルト書イテアル、書イテ居ツテ、行ツテ見ルト出ナシ、サウシテアノ飛行場ハ元木津川尻ニアツタ、私ハ自動車ニ乗ツタラ運轉手ガ木津川尻ノ方ヘ走ツテ行ク、何處ヘ行クノカト尋

トニハ、皆サン御覽下サイ、鐵道案内ト云フモノガアリマス、其ノ第一頁ニ日本航空輸送會社ノ輸送系統ノ時間表ガアリマス、ソレニハ明ニ午前十一時大阪發、午後一時ニハ東京ニ著クヤウニ、チャント時間表ガ載ツテ居ル、私ハ急用ガアツタカラ、ソレヲ汽車ノ中デ見テ、大阪デ飛降リテ飛行場ニ行ツテ見ルト、豈ニ圖ランヤ飛行機ハ飛バナイ、大變ナ損害ヲシタ、汽車デ行ケバ宜カツタノラ、而モ自動車賃ヲ拂ツテ馬鹿ヲ見タ、ソレデモ懲りズニ漸ク午時一時ノ飛行便ニ乗リマシタガ、アア云フ鐵道案内ノ如キハ、一般民衆ノ燈臺トシテ間違ヒガアルベキモノデハナイ、若シ飛行ヲ停止シテ居ラレルナラ、ナゼアノ廣告ヲ御取消ニナラナイカ、甚ダ日本ノ民間航空會社ハ不親切デアル
ノ驛ニモ東京ノ驛ニモ斯ウ云フ航空案内ハナイ、タツタ一箇所アルケレドモ、サウ云フノハ何處ニアルカ分ラナイ、コンナ貧弱ナコトヲシテ、宣傳ヲシナイデ、オ役人ガ上ノ方ニノサバリ返ツテ居ル、大阪ヘ行ツテ見ルト、タツタ一日ニ二遍飛ブ爲ニ澤山ナ人ガ遊ンデ居ル、戰時力何カ分リハシナイ、私ハ斯ウ云フ狀態デハ歎キ悲シム者デアリマス、飛ブノラス止メタ場合ニハ、チャント時間表ヲ消スベキデアル、斯ウ云フ風ニチャント筋ガ引張ツテ明示シテアル、永田良吉ハ決シテ嘘ハ言ヒマセヌ、嘘ヲ言ツタラ私ハ此處デ腹ヲ切ル、斯ウ云フノハ遞信大臣ハ眼ガ見エヌ、上司ノ眼ヲ皆欺イテ居ル、又國民ヲモニテ來タノハ四人乗リノヨチノスル飛行機デアリマス、私ハ實ニ怖カツタ、飛行機ニハ相當體驗ヲ持ツテ居ルケレドモ、恰モ小サイ坊チヤンニオンブサレテ行クヤウナ氣持ガシタ、ヅシンノト落ナル、ソレニ婦人ガ乗ツテ居ツタガ、大分蒼クナツテ居ツタヤウデアリマス、此ノ間ノ立川ノ時ヨリ大分ヒドイ、斯ウ云フ狀態デハイケナイアル、詰リ人ヲ得ナケレバ何ニモナラナイ、宜シク遞信省ハ民間航空ヲ監督セラレル重大責任ガアルカラ、躬ヲ以テ此ノ責ニ當ラナケレバナラヌ、又其ノ上ニアルベキ新シイ若イ腕ノアル者ヲドシ、引上ゲテ

此ノ衝ニ當ラシマルコトガ、眞ニ日本民間航空ヲ進展セシムル私ハ捷徑デハナイカラ

思フノデアリマス(拍手)尙ほ次ニモウ一ツヲカシナ事ガアル、是モ實際デゴザイマスカラ、實際論デヤラナケレバイカヌ、オ客ニシニ斯ウ地圖ヲ以テ「コース」ヲ教ヘテ居ル、之ヲ飛行機ニ乗ル場合ニ渡ス、私ハ此

ノ驛ニモ東京ノ驛ニモ斯ウ云フ航空案内ノコースヲ乗ツテズツト行キマシタラ、モウ小田原ヲ越エルト、今羽田ノ飛行場ハ

ドル」ガ来ルノニアノ飛行機ガ羽田デハ飛ベナイ、陸軍ノ立川ニ引張ツテ行ツタ、立川カラ東京ヘ來ルニハ隨分掛リマス、一體

ノヤウナ優秀ナ飛行機ガ飛ベナイ、私ノ乗

ツテ來タノハ四人乗リノヨチノスル飛行機デアリマス、私ハ實ニ怖カツタ、飛行機ニハ相當體驗ヲ持ツテ居ルケレドモ、恰モ

小サイ坊チヤンニオンブサレテ行クヤウナ氣持ガシタ、ヅシンノト落ナル、ソレニ

婦人ガ乗ツテ居ツタガ、大分蒼クナツテ居ツタヤウデアリマス、此ノ間ノ立川ノ時ヨリ大分ヒドイ、斯ウ云フ狀態デハイケナイ

カラ、アレ等ハ大阪カラ少クトモ「ダグラス」

ノ十三人乗カ十八人乗位ノ大キナ飛行機ヲ

モノデハナイ、尙ホ又回數ガヲカシイ、モ

ツト夜間モ出サナケレバ嘘デアル、アレハ婦人虐待、

オ客サン虐待デ、アンナ苛酷ナコトヲスル

モノデハナイ、尙ホ又回數ガヲカシイ、モ

ツト夜間モ出サナケレバ嘘デアル、戰地ニハ

ノ人カラ何カ便リガアリハシナイカト、戰地ニ行ツテ居ル將兵ハ郷里カラノ便リヲ湯水ヨリモ待ツテ居ル、サウ云フ便リニ對シテハ、モツト日本航空輸送會社ハ頻繁ニ飛行機ヲ、東京カラ福岡、上海トドシ／＼支那内地ニ飛バシテ、郵便物デモ早ク届ケテ、將兵ヲ慰メルヤウニシナケレバナラヌ、サウ云フコトハ日本ノ航空會社ハナサラヌ、戰時ニ際シテ却テ飛行機ハ飛バヌデ、回數ヲ減少シテ居ル、斯ウ云フヤウナヲカシナコトヲヤツ所ハ世界中何處ニモナイト私ハ思フ、非常ナル矛盾デアルト思フ、又「コース」ニシテモ今羽田ニハ行カヌノダカラ、行カヌ所ハ線路ヲ明ニ消シテシマヘバ宜イ、ソレヲ消サズニ其ノ儘ニオ客サンニ配ツテ居ル、是ナンカモ監督ノ人ガ目ガ利カヌ、不親切ダト云フ證據ナノデアル、是ハ今度鹽野サンガ監督ノ局ニ當ラレマスルカラ、十分斯ウ云フ怠慢ナ者ハドシ／＼突飛バシテシマツテ、本當ニ航空ニ理解ノアル腕ノアル者ヲ其ノ局ニ當ラセんケレバ、如何ニ一億ヤ二億ノ會社ヲ作ツテモ、リハセヌカト思フノデアリマス、此ノ點ヲ私ハ特ニ遞信大臣ニ申上ゲテ、其ノ御決心ヲ承リタイト思フノデアリマス

ソレカラモウ一ツ申シテ置キマス、非常ニ不都合ナコトガアル、今マデ日本ノ民間航空輸送會社ノ大日本航空輸送會社ハ、最近初遊覽飛行モ多少認メラレテ居ツタ、那内地ニ飛バシテ、郵便物デモ早ク届ケテ、將兵ヲ慰メルヤウニシナケレバナラヌ、サウ云フコトハ日本ノ航空會社ハナサラヌ、戰時ニ際シテ却テ飛行機ハ飛バヌデ、回數ヲ減少シテ居ル、斯ウ云フヤウナヲカシナコトヲヤツ所ハ世界中何處ニモナイト私ハ思フ、非常ナル矛盾デアルト思フ、又「コース」ニシテモ今羽田ニハ行カヌノダカラ、行カヌ所ハ線路ヲ明ニ消シテシマヘバ宜イ、ソレヲ消サズニ其ノ儘ニオ客サンニ配ツテ居ル、是ナンカモ監督ノ人ガ目ガ利カヌ、不親切ダト云フ證據ナノデアル、是ハ今度鹽野サンガ監督ノ局ニ當ラレマスルカラ、十分斯ウ云フ怠慢ナ者ハドシ／＼突飛バシテシマツテ、本當ニ航空ニ理解ノアル腕ノアル者ヲ其ノ局ニ當ラセんケレバ、如何ニ一億ヤ二億ノ會社ヲ作ツテモ、リハセヌカト思フノデアリマス、此ノ點ヲ私ハ特ニ遞信大臣ニ申上ゲテ、其ノ御決心ヲ承リタイト思フノデアリマス

ハ大阪デモ東京デモ遊覽飛行ハヤラヌ、何故ヤラヌカト云フト割ガ惡イカラデアル、政府ノ補助ガ澤山來ル、中々日本航空輸送會社モ狡イコトヲ考ヘタモノデス、若シ遊覽飛行ヲヤツテ人ヲ殺スト文句ガ出ルカラ、遊覽飛行ハヤラヌ、遊覽飛行モヤランケレバイカヌ、而モ夜間飛行モヤランケレモノハ夜間飛行モヤラナケレバナラヌ、一日二回ヤ三回デハ何ニモナラヌ、少クトモ三十分、一時間交替ニドシ／＼飛行機ヲ出ス、サウンシテ料金モ方法ニ依ツテハ今ノ二十五圓以下ニ下ゲル方法ガアル、オ客サンガ滿員ダカラト言フガ、行ツテ見レバ滿員デハナイ、ドウモアノ受付ナンカニハ横柄ナ奴ガ居ル、「モダン・ガール」カ何カ知ラヌガ、飛行機ハ空イテ居ルカト言フト、モウ滿員デゴザイマスト言フ、折角人ガ乗ツテヤラウト思ツテ行ツタノニ滿員ダト言フガ、滿員デヤナイ、待ツテ居レバ乗ラヌ人ガ居ルノダ、一體飛行機ニ乗ル人ハ親方病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ隨時大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ随时大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ

見マシタガ、何處ニモコンナ不親切、不用意ナ會社ハアリマセヌ、モツト飛行機モ澤バ補助ガ澤山來ル、中々日本航空輸送會社モ狡イコトヲ考ヘタモノデス、若シ遊覽飛行ヲヤツテ人ヲ殺スト文句ガ出ルカラ、遊覽飛行ハヤラヌ、遊覽飛行モヤランケレバイカヌ、而モ夜間飛行モヤランケレモノハ夜間飛行モヤラナケレバナラヌ、一日二回ヤ三回デハ何ニモナラヌ、少クトモ三十分、一時間交替ニドシ／＼飛行機ヲ出ス、サウンシテ料金モ方法ニ依ツテハ今ノ二十五圓以下ニ下ゲル方法ガアル、オ客サンガ滿員ダカラト言フガ、行ツテ見レバ滿員デハナイ、ドウモアノ受付ナンカニハ横柄ナ奴ガ居ル、「モダン・ガール」カ何カ知ラヌガ、飛行機ハ空イテ居ルカト言フト、モウ滿員デゴザイマスト言フ、折角人ガ乗ツテヤラウト思ツテ行ツタノニ滿員ダト言フガ、滿員デヤナイ、待ツテ居レバ乗ラヌ人ガ居ルノダ、一體飛行機ニ乗ル人ハ親方病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ随时大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ随时大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ

永田モ貧弱ナ者デスガ、世界ヲ一遍廻ツテ見マシタガ、何處ニモコンナ不親切、不用意ナ會社ハアリマセヌ、モツト飛行機モ澤バ補助ガ澤山來ル、中々日本航空輸送會社モ狡イコトヲ考ヘタモノデス、若シ遊覽飛行ヲヤツテ人ヲ殺スト文句ガ出ルカラ、遊覽飛行ハヤラヌ、遊覽飛行モヤランケレバイカヌ、而モ夜間飛行モヤランケレモノハ夜間飛行モヤラナケレバナラヌ、一日二回ヤ三回デハ何ニモナラヌ、少クトモ三十分、一時間交替ニドシ／＼飛行機ヲ出ス、サウンシテ料金モ方法ニ依ツテハ今ノ二十五圓以下ニ下ゲル方法ガアル、オ客サンガ滿員ダカラト言フガ、行ツテ見レバ滿員デハナイ、ドウモアノ受付ナンカニハ横柄ナ奴ガ居ル、「モダン・ガール」カ何カ知ラヌガ、飛行機ハ空イテ居ルカト言フト、モウ滿員デゴザイマスト言フ、折角人ガ乗ツテヤラウト思ツテ行ツタノニ滿員ダト言フガ、滿員デヤナイ、待ツテ居レバ乗ラヌ人ガ居ルノダ、一體飛行機ニ乗ル人ハ親方病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ随时大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ随时大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ

見マシタガ、何處ニモコンナ不親切、不用意ナ會社ハアリマセヌ、モツト飛行機モ澤バ補助ガ澤山來ル、中々日本航空輸送會社モ狡イコトヲ考ヘタモノデス、若シ遊覽飛行ヲヤツテ人ヲ殺スト文句ガ出ルカラ、遊覽飛行ハヤラヌ、遊覽飛行モヤランケレバイカヌ、而モ夜間飛行モヤランケレモノハ夜間飛行モヤラナケレバナラヌ、一日二回ヤ三回デハ何ニモナラヌ、少クトモ三十分、一時間交替ニドシ／＼飛行機ヲ出ス、サウンシテ料金モ方法ニ依ツテハ今ノ二十五圓以下ニ下ゲル方法ガアル、オ客サンガ滿員ダカラト言フガ、行ツテ見レバ滿員デハナイ、ドウモアノ受付ナンカニハ横柄ナ奴ガ居ル、「モダン・ガール」カ何カ知ラヌガ、飛行機ハ空イテ居ルカト言フト、モウ滿員デゴザイマスト言フ、折角人ガ乗ツテヤラウト思ツテ行ツタノニ滿員ダト言フガ、滿員デヤナイ、待ツテ居レバ乗ラヌ人ガ居ルノダ、一體飛行機ニ乗ル人ハ親方病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ随时大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ随时大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ

見マシタガ、何處ニモコンナ不親切、不用意ナ會社ハアリマセヌ、モツト飛行機モ澤バ補助ガ澤山來ル、中々日本航空輸送會社モ狡イコトヲ考ヘタモノデス、若シ遊覽飛行ヲヤツテ人ヲ殺スト文句ガ出ルカラ、遊覽飛行ハヤラヌ、遊覽飛行モヤランケレバイカヌ、而モ夜間飛行モヤランケレモノハ夜間飛行モヤラナケレバナラヌ、一日二回ヤ三回デハ何ニモナラヌ、少クトモ三十分、一時間交替ニドシ／＼飛行機ヲ出ス、サウンシテ料金モ方法ニ依ツテハ今ノ二十五圓以下ニ下ゲル方法ガアル、オ客サンガ滿員ダカラト言フガ、行ツテ見レバ滿員デハナイ、ドウモアノ受付ナンカニハ横柄ナ奴ガ居ル、「モダン・ガール」カ何カ知ラヌガ、飛行機ハ空イテ居ルカト言フト、モウ滿員デゴザイマスト言フ、折角人ガ乗ツテヤラウト思ツテ行ツタノニ滿員ダト言フガ、滿員デヤナイ、待ツテ居レバ乗ラヌ人ガ居ルノダ、一體飛行機ニ乗ル人ハ親方病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ随时大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ随时大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ

見マシタガ、何處ニモコンナ不親切、不用意ナ會社ハアリマセヌ、モツト飛行機モ澤バ補助ガ澤山來ル、中々日本航空輸送會社モ狡イコトヲ考ヘタモノデス、若シ遊覽飛行ヲヤツテ人ヲ殺スト文句ガ出ルカラ、遊覽飛行ハヤラヌ、遊覽飛行モヤランケレバイカヌ、而モ夜間飛行モヤランケレモノハ夜間飛行モヤラナケレバナラヌ、一日二回ヤ三回デハ何ニモナラヌ、少クトモ三十分、一時間交替ニドシ／＼飛行機ヲ出ス、サウンシテ料金モ方法ニ依ツテハ今ノ二十五圓以下ニ下ゲル方法ガアル、オ客サンガ滿員ダカラト言フガ、行ツテ見レバ滿員デハナイ、ドウモアノ受付ナンカニハ横柄ナ奴ガ居ル、「モダン・ガール」カ何カ知ラヌガ、飛行機ハ空イテ居ルカト言フト、モウ滿員デゴザイマスト言フ、折角人ガ乗ツテヤラウト思ツテ行ツタノニ滿員ダト言フガ、満員デヤナイ、待ツテ居レバ乗ラヌ人ガ居ルノダ、一體飛行機ニ乗ル人ハ親方病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ随时大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ随时大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ

見マシタガ、何處ニモコンナ不親切、不用意ナ會社ハアリマセヌ、モツト飛行機モ澤バ補助ガ澤山來ル、中々日本航空輸送會社モ狡イコトヲ考ヘタモノデス、若シ遊覽飛行ヲヤツテ人ヲ殺スト文句ガ出ルカラ、遊覽飛行ハヤラヌ、遊覽飛行モヤランケレバイカヌ、而モ夜間飛行モヤランケレモノハ夜間飛行モヤラナケレバナラヌ、一日二回ヤ三回デハ何ニモナラヌ、少クトモ三十分、一時間交替ニドシ／＼飛行機ヲ出ス、サウンシテ料金モ方法ニ依ツテハ今ノ二十五圓以下ニ下ゲル方法ガアル、オ客サンガ満員ダカラト言フガ、行ツテ見レバ満員デハナイ、ドウモアノ受付ナンカニハ横柄ナ奴ガ居ル、「モダン・ガール」カ何カ知ラヌガ、飛行機ハ空イテ居ルカト言フト、モウ満員デゴザイマスト言フ、折角人ガ乗ツテヤラウト思ツテ行ツタノニ満員ダト言フガ、満員デヤナイ、待ツテ居レバ乗ラヌ人ガ居ルノダ、一體飛行機ニ乗ル人ハ親方病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ随时大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ病氣トカナントカ、非常ニ急グ人ガ多イ、サウ云フ際ニハ随时大阪カラデモ、東京カラデモ御用立ヲスルヤウナ飛行機ノ用意ガ

送事業ニ付テノ御注意、又ハ御非難モ多々
伺ヒマシタ、洵ニ遺憾ナガラ未ダ十分ナル
機能ヲ發揮致シテ居リマセス、是ハ今次事
變ノ爲ニ多クノ器材ガ其ノ方面ニ使ハレマ
シテ、民間航空輸送事業ノ方ニハ器材ノ不
足ヲ來シ、又人員ノ上ニ於キマシテモ其ノ
感ガアルノデアリマス、之ニ付キマシテハ
此ノ國策會社ヲ起シマシテ、是カラ大イニ
器材ノ整備、人員ノ充實ヲ圖ツテ、サウシ
テ我國ノ民間航空事業ト云フモノヲ擴張シ
ヨウト意圖致シテ居ルヤウナ次第デアリマ
ス、隨テ十四年度ノ豫算ノ上ニ於キマシテ
モ、飛行場ノ擴張トカ、或ハ飛行路ノ設備
ノ擴充ト云フコトニ對シテ、相當ノ豫算ヲ
組ンデ居ルヤウナ次第デアリマス、廣告等
ニ付キマシテハ、尙ホ御注意ニ依リマシテ
十分ニ考慮致スコトニ致シマス(拍手)
○副議長(金光庸夫君) 笠井重治君

(笠井重治君登壇)

○笠井重治君 只今上程セラレマシタ大日
本航空輸送株式會社法案ニ關シテ質疑ヲ致
シマス前ニ、私ハ民間航空ノ現狀ニ付テ簡
單ニ意見ヲ申上げマシテ、然ル後ニ政府ノ
御方針ニ付テ伺ヒタイト思ツテ居リマス
タルコトハ、國民ト共ニ甚ダ遺憾ニ存ジテ
居ツタ所デアリマス、然ルニ今回政府ガ現
下ノ世界的情勢ニ鑑ミテ、我ガ帝國航空輸
送事業ノ飛躍的發展ヲ企圖センガ爲ニ、且
又東亞ノ新事態ニ即應シテ、眞ニ東亞新秩
序建設ノ爲ニ日滿支航空關係ノ連環ヲ一層

送事業ニ付テノ御注意、又ハ御非難モ多々
伺ヒマシタ、洵ニ遺憾ナガラ未ダ十分ナル
機能ヲ發揮致シテ居リマセス、是ハ今次事
變ノ爲ニ多クノ器材ガ其ノ方面ニ使ハレマ
シテ、民間航空輸送事業ノ方ニハ器材ノ不
足ヲ來シ、又人員ノ上ニ於キマシテモ其ノ
感ガアルノデアリマス、之ニ付キマシテハ
此ノ國策會社ヲ起シマシテ、是カラ大イニ
器材ノ整備、人員ノ充實ヲ圖ツテ、サウシ
テ我國ノ民間航空事業ト云フモノヲ擴張シ
ヨウト意圖致シテ居ルヤウナ次第デアリマ
ス、隨テ十四年度ノ豫算ノ上ニ於キマシテ
モ、飛行場ノ擴張トカ、或ハ飛行路ノ設備
ノ擴充ト云フコトニ對シテ、相當ノ豫算ヲ
組ンデ居ルヤウナ次第デアリマス、廣告等
ニ付キマシテハ、尙ホ御注意ニ依リマシテ
十分ニ考慮致スコトニ致シマス(拍手)
○副議長(金光庸夫君) 笠井重治君

笠井重治君登壇)

抑、歐米各國ノ航空輸送ノ事業ヲ見マス
ト、歐洲大戰以後顯著ナル發達ヲ見テ居リ
マス、世界大戰中ハ各國方空軍ノ充實ニ全
力ヲ傾倒シテ參リマシタガ、戰爭ガ終戻ノ
後ニハ、是等ノ飛行機ヲ民間航空ニ使ヒマ
シタ、而シテ其ノ後ハ各國トモ空軍ノ進歩
發達ト並行シテ民間航空ノ改善ヲ致シテ參
リマシタ、斯ノ如クニシテ民間航空ハ平時
ニ於テハ航空輸送ノ任ニ當リ、一旦緩急ア
ル場合ニハ空軍ノ補足ヲ爲スト云フ計畫ノ
情勢ヲ見マスト、世界各國ハ啻ニ航空輸送
ノミナラズ、航空機ヲ各般ノ事業ニ使ツテ
居リマス、旅客輸送、郵便飛行ハ固ヨリデ
アリマスケレドモ、或ハ貿易、見本ノ運搬、
或ハ貨物ノ運搬、或ハ地質ノ調査、油田、
礦物其ノ他ノ調査ニ使用シテ居リマス、或
ス、斯ノ如クニシテ航空事業ノ發達方文化
ノ進歩ニ如何ニ重大ナ關係アルモノデアル
カト云フコトハ、茲ニ論ズル必要ガアリマ

緊密ナラシメンガ爲ニ、強力ナル一大國策
會社ヲ創立セントスル計畫ヲ見マシタコト
ハ、國家ノ爲ニ慶賀ノ至リニ堪ヘマセス、幸
運、政府ハ其ノ資本金ノ三分ノーラ出資シ
テ、他ノ三分ノ二ヲ民間ヨリ募集シ、政府
ハ之ニ對シテ年ニ六分ノ利子ヲ保證スルト
ノコトニナツテ居リマス

田君ノ言ハレタヤウニ、一方ニハ一部ノ官吏
ノ古手ガ其ノ局ニ當ツテ居ツテ、民間航空
事業ノ機能ヲ發揮シナカツタコトニ基因致
シマシタ、是レ即チ昭和四年ニ創立セラレ
タル日本航空輸送會社ノ進歩發達ヲセザル
原因デアツタ存ジマス、又他ノ原因ハ、
我國ソレ自體方或ハ氣象的ニ惠マレテ居ラ
ナイ、或ハ地域ガ狹小デアル故ニ、飛行機
ニ乘ツテ危險ヲ冒シテ行クヨリモ、寧ロ汽
車、汽船デ行ツタ方が宜シイ、ト云フヤウ
ナコトノ爲デアツタカモ知レマセス、第三
ノ原因ハ、我國ニ於ケル航空事業ニ對スル
技術ノ進歩セザル點、及ビ世界的ノ刺戟ノ
ナイ點、其ノ他一般國民ガ航空知識ノ乏シイ
コトニ原因シテ居リマス、斯様ナルコトニ依ツテ
我國航空事業ガ進歩シナカツタノデアリマス、
所ガ日支事變ニ於テ今日ノ如キ非常ナル日
本航空界ノ進歩發展ヲ見マシタ、我國ハ四
面環海デハアリマスルガ、大陸ニ於ケル吾
吾日本國民ノ進歩發達ト云フモノハ實ニ大ニ
ナツテ來マシタ、我國ノ將來ハ大陸ニアリ
マス、斯様ナル情勢ニ於テ、本國ト大陸ト
ヲ結ビ、東京ト新京トヲ結ビ、東京ト北京
佛蘭西ノ航空路ヘ既ニ五万三千三百四十五

セヌ、即チ今日ノ民間航空事業ノ發達カラ
見マシテモ、空中ヲ制スル者ハ世界ヲ制服
スルモノデアルコトガ明瞭デアリマス、幸
ニ今次支那事變ニ於ケル我空軍ノ各方面
ニ於ケル活躍ハ、世界各國民ヲ驚歎セシメ
タコトハ、國民ノ齊シク感謝ヲ致シテ居ル
所デアリマス、所ガ今日マデノ我國航空事
業ノ發達シナイ跡ヲ述ツテ見ルト、只今永
久コトニナツテ居リマス

私ハ昨年歐米各國ヲ約三万「キロ」翔破シ、
ノ古手ガ其ノ局ニ當ツテ居ツテ、民間航空
事業ノ機能ヲ發揮シナカツタコトニ基因致
シマシタ、是レ即チ昭和四年ニ創立セラレ
タル日本航空輸送會社ノ進歩發達ヲセザル
原因デアツタ存ジマス、又他ノ原因ハ、
我國ソレ自體方或ハ氣象的ニ惠マレテ居ラ
ナイ、或ハ地域ガ狹小デアル故ニ、飛行機
ニ乘ツテ危險ヲ冒シテ行クヨリモ、寧ロ汽
車、汽船デ行ツタ方が宜シイ、ト云フヤウ
ナコトノ爲デアツタカモ知レマセス、第三
ノ原因ハ、我國ニ於ケル航空事業ニ對スル
技術ノ進歩セザル點、及ビ世界的ノ刺戟ノ
ナイ點、其ノ他一般國民ガ航空知識ノ乏シイ
コトニ原因シテ居リマス、斯様ナルコトニ依ツテ
我國航空事業ガ進歩シナカツタノデアリマス、
所ガ日支事變ニ於テ今日ノ如キ非常ナル日
本航空界ノ進歩發展ヲ見マシタ、我國ハ四
面環海デハアリマスルガ、大陸ニ於ケル吾
吾日本國民ノ進歩發達ト云フモノハ實ニ大ニ
ナツテ來マシタ、我國ノ將來ハ大陸ニアリ
マス、斯様ナル情勢ニ於テ、本國ト大陸ト
ヲ結ビ、東京ト新京トヲ結ビ、東京ト北京
佛蘭西ノ航空路ヘ既ニ五万三千三百四十五

杆ニ達シテ居リマス、伊太利ハ「エチオビヤ」ノ「アヂスアベバ」ト結ブ爲ニ、伊太利ノ航空界ト云フモノハ非常ニ進歩シテ參リマシテ、伊太利ノ如キモ既ニ三万七千七八百杆ノ航空路ヲ持ツテ居リマス、和蘭ニ於テ見ルナラバ、和蘭ハ本國ハ極ク狹小ナレドモ、蘭領印度ニ厖大ナル地域ヲ持ツテ居リマシテ「ケー・エル・エム」會社ヲ組織致シマシテ、今日ハ既ニ二万六千四百七十二杆ノ航空路ヲ持ツテ居リマス。

之ニ反シテ我國ノ現状ハドウデアルカト言フナラバ、國內ニ於テハ或ハ東京札幌間、或ハ東京新潟間、東京カラ臺灣、東京新嘉坡間、東京大連ト云フモノヲ結付けテ、僅ニ一万八百六十八杆ニ達シテ居ル、今度計畫シテ居リマス所ノ、本年四月カラ開始スル南洋方面ノ航空路、或ハ東京天津、又東京北京ニ通ズル航空路ヲ合セテ、辛ウジテ二万杆ニシカ達シテ居ランデアリマス、故ニ我國ガ大陸ニ雄飛ゼントスルナラバ、先づ東亞ニ於ケル航空権ヲ獲得シテ、東亞諸國ニ通ズル所ノ航空路ヲ開設セナケレバナラナイ、「ソ聯邦ニ於テハ業ニ已ニ七万五百五十杆ノ航空路ヲ持ツテ、モスコイカラ浦鹽マデ毎日飛行機ガ通ツテ居リマス、吾々ハ此ノ世界航空界ノ現状ヲ見テ傍観坐視スルコトハ出來マセヌ、如何ニ航空ガ國家ノ進運ニ重大デアルカト云フコトヲ痛感セザルヲ得ナイノアリマス、事變前マデハ南京政府ガ日本ノ要求ヲ容レズシテ、日支航空連絡ニ反對シマシタ、昭

和六年ニ於テ南京政府ガ辛ウジテ我ガ外務省ノ要求ヲ容レテ、日支間ニ於ケル所ノ航空條約ガ成立シ、ヤウトシマシガ不幸中絶致シマシタ、然ルニモ拘ラズ南京政府ハ亞米利加ノ「パン・アメリカン・エアーウェース」會社ニ對シテハ四割九分ノ株ヲ持タセテ、自ラガ五割一分ヲ持ツテ中國航空公司ヲ作ツタ、又獨逸ノ「ユンケル」會社ヲシテ參加セシメテ、サウシテ一方ニ於テハ歐亞航空公司ト云フモノヲ作り、是等ハ皆非常ニ成功致シマシタガ、幸ニ今回ノ事變ニ因ツテ我國ノ民間飛行機ガ、東京、福岡ヲ通じテ北京、天津、上海、南京ニ乘込ムコトニ曩ニ北支ニ惠通公司ガ創立セラレテ居リマツタハ、我ガ皇軍ノ健闘ニ因ルモノトシタガ、今回大日本航空會社ト連絡スルノデハナイカト思ツテ居リマス、之ニ關シテ鹽野遞相ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ツテ居リマス。

尙ホ續イテ次ノ數項ニ付テ鹽野遞信大臣ニ對シテ御尋ヲ申上ゲタイト思ヒマス、我國ハ既ニ南京、北京マデ航空路ヲ開設致シテ居リマス故ニ、百尺竿頭一步ヲ進メテ、亞細亞ノ各國ト連絡ヲ致スベキデアル、先づ東京盤谷間ノ定期航空路ヲ開始シ、東亞ニ於テハ日本ガ航空界ノ勇者デアルト云フコトヲ、現實ニ證明ヲ致シタイト思フ、斯様ニシテ東亞各國ヲ連絡シタル後、更ニ進シマスガ、政府ニ於テハ其ノ意思アリヤ否

シ、先年東京朝日新聞社ガ訪歐飛行ヲ爲シ、最近讀賣新聞社ガ暹羅ニ飛行致シマシタ、斯様ニシテ我國民ノ國際航空界ニ於ケル技術ヲ世界ニ紹介シテ居リマス故ニ、スナラバ、桑港ヲ出テ横濱、神戸、上海、香港ニ至ルニハ、船デ航海スルナラバ快速船デ二十五日ヲ要シマス、然ルニ「パン・アメリカン・エアーウェース」會社ノ飛行艇ニ乗船デ、桑港ヲ出發シテ五日目ニ香港ニ到著ルト、桑港ヲ出發シテ五日目ニ香港ニ到著マスト、既ニ獨逸ノ「ルフトハンザ」會社等ト連絡ヲ付ケツツアルト云フコトデアリマスガ、此ノ點ハ如何デアリマスカ、遞信大臣マスト、既ニ獨逸ノ「ルフトハンザ」會社等ト連絡ヲ付ケツツアルト云フコトデアリマスガ、此ノ點ハ如何デアリマスカ、遞信大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、更ニ進シテ現存ノ會社ト連絡スベキデアル、例ヘバ佛蘭西ノ「エアー・フランス」會社ガ河内マデ線路ヲ延長シテ居リマス、或ハ革吉利ノシタガ、今回大日本航空會社ト連絡スルノシタガ、今回大日本航空會社ト連絡スルノデハナイカト思ツテ居リマス、之ニ關シテ鹽野遞相ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ツテ居リマス。

尙ホ續イテ次ノ數項ニ付テ鹽野遞信大臣ニ對シテ御尋ヲ申上ゲタイト思ヒマス、我國ハ既ニ南京、北京マデ航空路ヲ開設致シテ居リマス故ニ、百尺竿頭一步ヲ進メテ、亞細亞ノ各國ト連絡ヲ致スベキデアル、先づ東京盤谷間ノ定期航空路ヲ開始シ、東亞ニ於テハ日本ガ航空界ノ勇者デアルト云フコトヲ、現實ニ證明ヲ致シタイト思フ、斯様ニシテ東亞各國ヲ連絡シタル後、更ニ進シマスガ、政府ニ於テハ其ノ意思アリヤ否

シ、斯様ニシテ我國民ノ國際航空界ニ於ケル技術ヲ世界ニ紹介シテ居リマス故ニ、スナラバ、桑港ヲ出テ横濱、神戸、上海、香港ニ至ルニハ、船デ航海スルナラバ快速船デ二十五日ヲ要シマス、然ルニ「パン・アメリカン・エアーウェース」會社ノ飛行艇ニ乗船デ、桑港ヲ出發シテ五日目ニ香港ニ到著ルト、桑港ヲ出發シテ五日目ニ香港ニ到著マスト、既ニ獨逸ノ「ルフトハンザ」會社等ト連絡ヲ付ケツツアルト云フコトデアリマスガ、此ノ點ハ如何デアリマスカ、遞信大臣マスト、既ニ獨逸ノ「ルフトハンザ」會社等ト連絡ヲ付ケツツアルト云フコトデアリマスガ、此ノ點ハ如何デアリマスカ、遞信大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、更ニ進シテ現存ノ會社ト連絡スベキデアル、例ヘバ佛蘭西ノ「エアー・フランス」會社ガ河内マデ線路ヲ延長シテ居リマス、或ハ革吉利ノシタガ、今回大日本航空會社ト連絡スルノシタガ、今回大日本航空會社ト連絡スルノデハナイカト思ツテ居リマス、之ニ關シテ鹽野遞相ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ツテ居リマス。

ウエース」トモ昨年來交渉ヲシテ居リマシタコトヲ知ツテ居リマス、其ノ後其ノ交渉ガドウナリマシタカ、若シ成立シナカツタナラバ、ドウカ今後是ガ實現セラレマスヤウニ、鹽野源信大臣ノ御盡力ヲ御願致シマス、是ガ私ノ質問ノ第二點アリマス

斯様ニシテ太平洋ノ横斷航空路ガ設置セラビ、且ツ歐亞連絡ガ出來マスナラバ、我國ガ太平洋ノミナラズ、世界ニ於ケル航空路ノ元締トナルコトガ出來マス、併シ遺憾ナガラ我國ハ世界ノ航空路カラ外レテ居リマス、米國デ毎月出版スル航空地圖ヲ見マスト、日本ハ此ノ中ニ載セラレテ居リマセヌ、斯様ナル状態ニアリマスルカラ、ドウガ一刻モ早ク、國家ノ進運ノ爲ニ、我ガ帝國ノ外交進展ノ爲ニ、我國ノ世界的雄飛ノ爲ニ、是非トモ航空事業ノ發達ヲ期シテ戴キタイト思ツテ居リマス

所ガ之ニ付テ今日マデ我ガ日本ハ聊カ鎖國的態度ヲ執ツテ參リマシタ、即チ外國ノ飛行機ガ日本ニ乗入ヲサレルト、日本ノ要塞地帶ナドヲ見ラレルカラ、是ハイケナイト云フコトデ反對ノ態度ヲ執ツテ參リマシタガ、斯様ナル考ハ過去ノ考ヘ方デアリマス、例へバ外國ニ例ヲ取リマスト、伯林カラ倫敦ニ入りマスノニハ要塞地帶ヲ通リマス、日本ニ於テモ出來ルト思ツテ居リマス、今日マデハ我ガ海軍當局ニ於テ斯様ナ意見ヲ持ツテ居ツタサウデアリマスケレドモ、先般私ガ豫算總會ニ於テモ海軍大臣ニ意見ヲ聽イタ所ガ、海軍省ニ於テモ斯ウ云フコトハ改メテ、今後各國ト相互的ノ連絡ヲ取ラ利加ノ沿岸ニ乘込ミ、且ツ日本ノ飛行機ガ巴里ニ行クトナリマスレバ、佛蘭西ノ飛行機モ東京ニ來イ、亞米利加ノ飛行機モ東京ニ來イ、斯様ナ相互關係ヲ作ラナケレバナラストト思ヒマスガ、此ノ點ニ付テ遞信大臣ハ如何ヤウニ御考ニナツテ居ラレルカ、是非私ノ質問ノ第三點アリマス（「簡單」）呼フ者アリ）アトハ極ク簡単デアリマス、スカラ御安心下サイ

次ノ第四點ハ、今回ノ會社ハ一億圓ノ資本ヲ持ツテ居リマス、サウシテ大日本航空株式會社ハ、先程遞信大臣モ言ハレタ通りニ、一億圓ノ資本ヲ有スルコトニナリマス、現在此ノ會社ハ一千五百五十万圓ノ資本ニテ、其ノ中ノ日本航運輸送會社ハ昭和四年ニ一千五百万圓ノ資本ヲ以テ設立サレマンタ、所ガ昨年十月三十一日ニ五百萬圓ノ資本ヲ有スト稱スル國際航空會社ヲ合併シテ、現物出資ノ下ニ二千五百五十万圓ノ大日本航空會社ト云フモノヲ設立致シマシタ、今回ハ此ノ大日本航空株式會社ヲ一億圓ノ國策會社ト致スノデアツテ、是ハ洵ニ結構デアリマス、所ガ吾々ガ政府當局ニ注意ヲ御願シタイコトハ、既ニ永田君ガ指摘サレタ所ノ點アリマス、是マデノ會社ハ未ダ内

於テモ、或ハ又其ノ商賣ノ運營ニ於キマシテモ、民間航空ノ機能ヲ十分ニ發揮ヲ致シテ居リマセヌ、斯ルガ故ニ只今永田君ガ言ハレタヤウナ非難ガ巷間頻々トシテ傳ヘラレマス、民間航空會社デアリナガラ、旅客ニ對シテハ不親切デアツテ、オ前等ガ乗りタイナラバ乗レ、嫌ナラ止セト云フ態度ヲ執ツテ居ル、民間航空會社デアルカラ、成ベク多クノ旅客ニ満足ヲ與ヘテ、其ノ使命ヲ達成セナケレバナラヌノデアリマスガ、遺憾ナガラ今日マデ會社ノ衝ニ當ツテ居ル人々ガ、官僚ノ古手ノ方ガ多數居リマスノデ、彼等ハ是マデノ官吏トシテノ横暴ナル態度ヲ改メズニ、ヤハリ彼等ガ習慣トシテ來タ所ノ横柄ナル態度ヲ執ツテ旅客ニ接スルガ故ニ、旅客ハ不満ヲ感ゼザルヲ得マセヌ、隨テ會社ガ其ノ任ヲ完ウシテ居ラナイト云フコトハ、事實ガ之ヲ證明致シテ居ルノデアリマス、斯ルガ故ニドウカ今回此二千五百五十万圓ノ會社ヲ一億圓ノ國策會社ニ致シマスナラバ、遞信當局ハ十分此ノ點ニ御注意セラレ、會社ノ陣容ヲ御整ヘ下サツテ、以テ民間航空會社ノ使命ヲ貫徹致シマスコトニ御注意アランコトヲ希望シマス、即チ内部ノ人事刷新、且ツ機關士、操縱士等ノ訓練ノ足ラナイコトニ基因スルモノデアリマスカラ、ドウカノマシタ、サウシテ一月十七日ニ上海ヲ出是等ノ點ハ能ク改善ヲ願ヒタイト思ツテ居リマス、例ヘバ私此ノ間上海ニ飛行往復致カ等、斯様ナルコトニ付テハ十分ノ御盡力ヲ願ヒタイ、私カラ見マスナラバ、二千五百五十万圓ノ會社ヲ一舉ニシテ一億圓ニスルト云フコトハ多過ギルト思フ、之ヲ世界ノ例ニ取ツテ見テモ、獨逸ノ「ルフト・オ・ビーコン」ノ設備モナク、「ラヂオ・コ

ンバス」ノ施設モナイ、航空觀測モ困難デアル、ソソナコトデ民間航空會社ガ其ノ使命ヲ達スルコトガ出來マスカ、故ニ此ノ際我國ノ陸上設備ヲ完璧ニシテ、眞ニ我國ガ東亞ノ航空界ノ中心デアルト云フコトヲ世界ニ證明致シタイコトヲ希望シマス、故ニ以上ノ二點ニ付テハ十分御注意ヲ願ツテ、サウシテ眞ニ我國民間航空ノ發達ノ爲ニ政府ノ御盡力ヲ願フ次第デアリマス、尙ホ澤山御質問モ申上げタインデアリマスルガ、時間ガアリマセヌカラ、後ハ委員會ニ讓リマシテ、本會社ノ設立ニ依ツテ我國ノ民間航空界ガ一新セラレ、國家有事ノ場合ニハ眞ニ國防ノ先頭ニ立ツテ働くコトガ出來マスヤウニ、御注意アランコトヲ希望致シマス(拍手)

〔國務大臣鹽野季彦君登壇〕
○國務大臣(鹽野季彦君) 笠井君ニ御答致シマス、第一、國際航空路ノ開設ニ付テノ御質問デアリマシタガ、此ノ國際航空路ヲ擴張致シマスルコトハ洵ニ御同感デアリマス、之ニ付キマシテハ、先づ歐洲トノ連絡ドウト云フ御意見デアリマスガ、是モ御同感デアリマス、之ニ付キマシテハ政府ハ相當工夫ト實行トニ著手致シテ居ルノデアリマスガ、マダ之ヲ公表スル時期デハナインヲ遺憾ト致シマス、太平洋横斷ノ航路ニ付キマシテモ、亦之ヲ政府モ希望致シテ居ルノデアリマスルガ、先づ其ノ前提ト致シ

ンバス」ノ施設モナイ、航空觀測モ困難デアル、ソソナコトデ民間航空會社ガ其ノ使命ヲ達スルコトガ出來マスカ、故ニ此ノ際我國ノ陸上設備ヲ完璧ニシテ、眞ニ我國ガ東亞ノ航空界ノ中心デアルト云フコトヲ世界ニ證明致シタイコトヲ希望シマス、故ニ以上ノ二點ニ付テハ十分御注意ヲ願ツテ、サウシテ眞ニ我國民間航空ノ發達ノ爲ニ政府ノ御盡力ヲ願フ次第デアリマス、尙ホ澤山御質問モ申上げタインデアリマスルガ、時間ガアリマセヌカラ、後ハ委員會ニ讓リマシテ、本會社ノ設立ニ依ツテ我國ノ民間航空界ガ一新セラレ、國家有事ノ場合ニハ眞ニ國防ノ先頭ニ立ツテ働くコトガ出來マスヤウニ、御注意アランコトヲ希望致シマス(拍手)

次ニ本會社ハ資本金ガ一億圓デアツテ、多過ギルト云フヤウナ御話デアリマスルガ、現在ニ於テ二千五百五十万圓ノ上ニ七千餘万圓ノ増資ヲスルコトニナリマス、其ノ中政府カラ現物出資トシテ五百五十万圓相當ノ器材ヲ提供致シマス、サウシテ其ノ残リ三千餘万圓ノ金ヲ以テ出資ヲシテ參ルト云フ考デアリマスルガ、其ノ器材ニ依リマシテ、此ノ會社ガ活潑ナル活動ヲ開始シ得ルト考ヘテ居ルノデアリマス、併シナガラ御說ノヤウニ航空路ノ設備ノ充實、又乗員ノ養成ト云フコトガ出來ナケレバ、其ノ器材ヲモ十分ニ活動サセルコトガ出來マセヌ、是ニ於テ政府ハ既ニ昭和十三年度カラ乗員養成ノ爲ニ設備ヲ致シテ居リマスルコトハ御承知ノ通リデアリマシテ、尙ホ明年度、十四年度ニ於テキマシテモ、養成所ヲ五箇所増スコトニ豫算ノ上ニ計上致シタヤウナ次第ゴザイマス、先づ政府ハ此ノ航空輸送事業ニ伸展發達ノ爲ニ全力ヲ擧ゲテ努力ヲ感デアリマス、之ニ付キマシテハ政府ハ相當工夫ト實行トニ著手致シテ居ルノデアリマスガ、マダ之ヲ公表スル時期デハナインヲ遺憾ト致シマス、太平洋横斷ノ航路ニ付キマシテモ、亦之ヲ政府モ希望致シテ居ルノデアリマスルガ、先づ其ノ前提ト致シ

マシテ、御説ノヤウニ「グアム島ニ於テ、サウシテ眞ニ我國民間航空ノ發達ノ爲ニ政府ノ御盡力ヲ願フ次第デアリマス、併シナガラ之ニ付キマシテハ、未ダ此處ニ發表スル譯ニハ參リマセヌ

マシテハ御注意ノ通りニ、此ノ點ニ於キマシテハ十分ニ注意ヲ致シ、慎重ニ處置致シタイト考ヘテ居リマス(拍手)

○富吉榮二君(富吉榮二君登壇)

マシテハ御注意ノ通りニ、此ノ點ニ於キマシテハ十分ニ注意ヲ致シ、慎重ニ處置致シタイト考ヘテ居リマス(拍手)

マシテ、御説ノヤウニ「グアム島ニ於テ、サウシテ眞ニ我國民間航空ノ發達ノ爲ニ政府ノ御盡力ヲ願フ次第デアリマス、併シナガラ之ニ付キマシテハ、未ダ此處ニ發表スル譯ニハ參リマセヌ

マシテハ御注意ノ通りニ、此ノ點ニ於キマシテハ十分ニ注意ヲ致シ、慎重ニ處置致シタイト考ヘテ居リマス(拍手)

マシテハ御注意ノ通りニ、此ノ點ニ於キマシテハ十分ニ注意ヲ致シ、慎重ニ處置致シタイト考ヘテ居リマス(拍手)

マシテハ御注意ノ通りニ、此ノ點ニ於キマシテハ十分ニ注意ヲ致シ、慎重ニ處置致シタイト考ヘテ居リマス(拍手)

氣象ノ觀測及ビ整備員トシテノ必要ナル技術員ノ養成ト云フコトハ、極メテ困難ノコトナリト私共ハ専門家カラ承ソテ居リマス、一朝一夕ニ出來ナイ此ノ問題ヲ、今日カラ十分考へテソレヲ實行シナケレバナラヌ、度持ヘタカラ、ソレデヤツテ行クノダト云フヤウニ仰シヤルカモ知レマセヌケレドモ、是ハ當局自ラガ製造技術ト優秀機製作ノ工業化ヲ圖ル云々ト云フコトヲ書カレテ居リマスノデ、今私が御尋シタサウシタ「エキパート」ノ養成ニハナリマセヌ、又政府大學ノ航空科、例へバ東京、大阪、九大或ハ又濱松ノ高等工業學校ノ航空科ヲ以テサウ云フ方面ノ技術員ヲ養成スルノダト御答辯ニナルカモ知レマセヌケレドモ、此處デハ所謂専門的ナ知識ハ授ケマスケレドモマルデ玩具ミタイナ機械ヲ以テシテ、全ク役ニハ立タナイノアリマス、此處等ヲ卒業シタ諸君ハ失禮デアリマスルガ多クハ遞信省ノ役人ニナツタリ、或ハ軍人ニナツタリ、航空會社ノ幹部ニナツタリスルノデアリマシテ、直接飛行機ヲ操縦スル機乗員トシテノ補助機關デアリマス、最モ重大ナル役割ヲ果ス技術員ニナルヤウニ思ヒマスルガハ、非常ニ缺ケテ居ルヤウニ思ヒマスルガ之ニ對スル當局ノ御意見ヲ承リタイ

第二點ト致シマシテハ航空工業ノ指導方針デアル、即チ今次ノ事變ニ因リマシテ我國ノ航空工業ハ、先刻來ノ笠井君ノ御詰ニ

モゴザイマシタルガ如ク、非常ニ發展致シフコトデ、中島飛行機ニ致シマシテモ、三菱重工業ニ致シマシテモ、總て今日軍需會社トシテ相當有力ナ地位ヲ確保致シマシタコトハ私共認メマス、サリナガラ私共ガ専門家ノ御意見ヲ承リマスルト、マダ其ノ機械ノ眞ノ能力トカ、或ハ耐久力ト云フヤウナ點ニ於テハ、著シク缺ケテ居ルト云フコトデアリマス、是ハ先般モ此ノ議場ニ於キマスル軍用自動車ノ検査法ノ問題ニ於キマシテ、同僚中村君カラ日本ノ國產自動車ハ駄目ヂヤナイカト云フヤウナ御話ガアリマシタガ私モサウ聞イテ居ル、直グガタ〜ニナツテ使ヘナクナツテシマフ、甚ダ見掛ケハ宜シイガ、實際ノ所ドウモ耐久力ガナイ、斯ウ云フヤウナコトヲ承ツテ居リマスルガ、飛行機等ニ於テモソレガ言ヘルノデハナイカト思フ、要スルニ近代產業ノ中権デアリマス所ノ是等ノ方面ニ於キマシテ、ナゼソレナラバ日本デ作ツタ飛行機モ、自動車ノ機械モ、ソンナニ惡イカト云フ點ハ、吾々ガ非常ニ考へテ見ナケレバナラヌ點デアル、ソレハ材料ガ拙イノデアルカト言ヒマスルナラバ、勿論ソレモ言ヘマセウ、併シ私ハ一般的ナ材料ニ付テハ左程缺如シテハ居ナイト思フ、私ヲシテ言ハシムレバ、所謂眞ノ品物ヲ作ル所ノ、先づ根本ニナリマスル精密ナ工作機械ガ日本ニナイト云フコトデアルト思フ、モウ一ツハ此ノ技術ニ依ル特株材質ガナイト云フコトデアル、ソレカラ

モゴザイマシタルガ如ク、非常ニ發展致シマシタ、即チ算盤ノ上ノ勘定ガ採レルト云フコトデ、中島飛行機ニ致シマシテモ、三菱重工業ニ致シマシテモ、總て今日軍需會社トシテ相当有力ナ地位ヲ確保致シマシタコトハ私共認メマス、サリナガラ私共ガ専門家ノ御意見ヲ承リマスルト、マダ其ノ機械ノ眞ノ能力トカ、或ハ耐久力ト云フヤウナ點ニ於テハ、著シク缺ケテ居ルト云フコトデアリマス、是ハ先般モ此ノ議場ニ於キマスル軍用自動車ノ検査法ノ問題ニ於キマシテ、同僚中村君カラ日本ノ國產自動車ハ駄目ヂヤナイカト云フヤウナ御話ガアリマシタガ私モサウ聞イテ居ル、直グガタ〜ニナツテ使ヘナクナツテシマフ、甚ダ見掛ケハ宜シイガ、實際ノ所ドウモ耐久力ガナイ、斯ウ云フヤウナコトヲ承ツテ居リマスルガ、飛行機等ニ於テモソレガ言ヘルノデハナイカト思フ、要スルニ近代產業ノ中権デアリマス所ノ是等ノ方面ニ於キマシテ、ナゼソレナラバ日本デ作ツタ飛行機モ、自動車ノ機械モ、ソンナニ惡イカト云フ點ハ、吾々ガ非常ニ考へテ見ナケレバナラヌ點デアル、ソレハ材料ガ拙イノデアルカト言ヒマスルナラバ、勿論ソレモ言ヘマセウ、併シ私ハ一般的ナ材料ニ付テハ左程缺如シテハ居ナイト思フ、私ヲシテ言ハシムレバ、所謂眞ノ品物ヲ作ル所ノ、先づ根本ニナリマスル精密ナ工作機械ガ日本ニナイト云フコトデアルト思フ、モウ一ツハ此ノ技術ニ依ル特株材質ガナイト云フコトデアル、ソレカラ

モゴザイマシタルガ如ク、非常ニ發展致シマシタ、即チ算盤ノ上ノ勘定ガ採レルト云フコトデ、中島飛行機ニ致シマシテモ、三菱重工業ニ致シマシテモ、總て今日軍需會社トシテ相当有力ナ地位ヲ確保致シマシタコトハ私共認メマス、サリナガラ私共ガ専門家ノ御意見ヲ承リマスルト、マダ其ノ機械ノ眞ノ能力トカ、或ハ耐久力ト云フヤウナ點ニ於テハ、著シク缺ケテ居ルト云フコトデアリマス、是ハ先般モ此ノ議場ニ於キマスル軍用自動車ノ検査法ノ問題ニ於キマシテ、同僚中村君カラ日本ノ國產自動車ハ駄目ヂヤナイカト云フヤウナ御話ガアリマシタガ私モサウ聞イテ居ル、直グガタ〜ニナツテ使ヘナクナツテシマフ、甚ダ見掛ケハ宜シイガ、實際ノ所ドウモ耐久力ガナイ、斯ウ云フヤウナコトヲ承ツテ居リマスルガ、飛行機等ニ於テモソレガ言ヘルノデハナイカト思フ、要スルニ近代產業ノ中権デアリマス所ノ是等ノ方面ニ於キマシテ、ナゼソレナラバ日本デ作ツタ飛行機モ、自動車ノ機械モ、ソンナニ惡イカト云フ點ハ、吾々ガ非常ニ考へテ見ナケレバナラヌ點デアル、ソレハ材料ガ拙イノデアルカト言ヒマスルナラバ、勿論ソレモ言ヘマセウ、併シ私ハ一般的ナ材料ニ付テハ左程缺如シテハ居ナイト思フ、私ヲシテ言ハシムレバ、所謂眞ノ品物ヲ作ル所ノ、先づ根本ニナリマスル精密ナ工作機械ガ日本ニナイト云フコトデアルト思フ、モウ一ツハ此ノ技術ニ依ル特株材質ガナイト云フコトデアル、ソレカラ

モゴザイマシタルガ如ク、非常ニ發展致シマシタ、即チ算盤ノ上ノ勘定ガ採レルト云フコトデ、中島飛行機ニ致シマシテモ、三菱重工業ニ致シマシテモ、總て今日軍需會社トシテ相当有力ナ地位ヲ確保致シマシタコトハ私共認メマス、サリナガラ私共ガ専門家ノ御意見ヲ承リマスルト、マダ其ノ機械ノ眞ノ能力トカ、或ハ耐久力ト云フヤウナ點ニ於テハ、著シク缺ケテ居ルト云フコトデアリマス、是ハ先般モ此ノ議場ニ於キマスル軍用自動車ノ検査法ノ問題ニ於キマシテ、同僚中村君カラ日本ノ國產自動車ハ駄目ヂヤナイカト云フヤウナ御話ガアリマシタガ私モサウ聞イテ居ル、直グガタ〜ニナツテ使ヘナクナツテシマフ、甚ダ見掛ケハ宜シイガ、實際ノ所ドウモ耐久力ガナイ、斯ウ云フヤウナコトヲ承ツテ居リマスルガ、飛行機等ニ於テモソレガ言ヘルノデハナイカト思フ、要スルニ近代產業ノ中権デアリマス所ノ是等ノ方面ニ於キマシテ、ナゼソレナラバ日本デ作ツタ飛行機モ、自動車ノ機械モ、ソンナニ惡イカト云フ點ハ、吾々ガ非常ニ考へテ見ナケレバナラヌ點デアル、ソレハ材料ガ拙イノデアルカト言ヒマスルナラバ、勿論ソレモ言ヘマセウ、併シ私ハ一般的ナ材料ニ付テハ左程缺如シテハ居ナイト思フ、私ヲシテ言ハシムレバ、所謂眞ノ品物ヲ作ル所ノ、先づ根本ニナリマスル精密ナ工作機械ガ日本ニナイト云フコトデアルト思フ、モウ一ツハ此ノ技術ニ依ル特株材質ガナイト云フコトデアル、ソレカラ

ツテ繩張リ争ヒヲヤツタリ、或ハ配當ガ少
イト言ツテ喧嘩ヲシタリ、ソンナコトデハ
逆モ航空事業ハ發展スルモノデハナイカ
ラ、宜シクサウ云フ所ニ思ヲ致サレテ、航
空工業ヲ指導シテ戴キタイ

第三ニ海洋航空デアリマス、民間航空ニ
從來ノヤリ方モ、總テ陸海軍ノ指導ガナケ
レバ何モ出來ナカツタ、遞信省ノ航空局ナ
ドト云フモノハ、失禮ナ話アルガ、ソレ
自體トシテハ何ノ仕事モ出來ナカツタ、私
ハワレデハ駄目ダト思フ、民間航空ハ民間
航空ソレ自體トシテ、獨立シタ氣魄ト獨立
シタ方針トニ依ツテ進マレテ、一朝風雲急
ナル時ニハ、直チニ軍ノ用ニ役立ツト云フ
ヤウナニシナケレバナラヌノデアツテ、軍
ガ是ダケノ要求ヲスルカラ仕方ガナイ、豫
算ヲ出シテ、議會ヲ通過セシメテ、之ヲヤ
ラウド云フヤウナ、マルデ他人ノ禪デ相撲
デアル、是ニ於テ航空政策ノ確立ガ必要デ
アルト私ハ思フノデアリマス、世界ヲ通ジ
テ優秀ナル品物デアルトカ、品物ノ値段ガ
安イトカ云フヤウナコトニ依ル自由貿易主
義ガ行詰ツテシマツタコトハ、私ガ言フマ
デモナク、博學ノ諸君ガ能ク御承知ノ通り
デアリマス、政府亦御承知ノ通りデアリマ
ス、品物ヲ何處ヘデモ勝手ニ持ツテ行ツテ
賣ルト云フヤウナコトハ、決シテ出來ナク

ナツタ、不買同盟ガ起リ、關稅ノ吊上ヲヤ
ツテ日貨ハ排斥サレル、要スルニ現在ノ貿易
政策ハ政治的影響ニ支配セラレテ、自由貿易
主義ハ既ニ最早其ノ範圍ガ著シク縮小セシ
メラレタモノナリト私ハ解釋致シテ居ル、ソコデ
デドウシテモ此ノ航空政策ハ所謂經濟的ナ
モノノ上ニ立ツテ來ナケレバナラヌ、ソコデ
我國ノ貿易政策ハ從來ノ如キ饑餓輸出デア
ツテハナラヌ、航空經濟ノ上ニ立ツ協同體
制的ナルモノニナラナケレバナラヌ、例ヘ
バ通信、或ハ「サンブル」、貿易業者、視察
員ノ急速ナル輸送ト云フヤウナコトガ、非
常ニ重大ニナツテ來タ、サウ云フ時ニ飛行
機ガナクテ、先程カラ申上ダタヤウナ狀態
デハ、國家ノ發展ハ望マレナイ、ソコデ一
體政府ハ今後ノ日本ノ航空政策ハ、大陸ノ
ミニ主眼點ヲ置カレル積リデアルカ、勿論
ソレニ付テ御意見トシテハ色々アリマシタ
ガ、此ノ點ニ付テ私ハ日本ノ航空政策トシ
テハ、ドウシテモ海洋航空政策ヲ執ルベキ
デアルト思ヒマス、勿論大陸ニ於ケル航空
ガ重大デアルコトハ私ガ申上ダクテモ分
シマシテ、海國日本ノ名ヲ世界ニ轟カシ、
帆船時代カラ汽船ノ時代ニ移リ(モウ時間
ガナイゾ)ト呼フ者アリ)マダ時間ハアル、
シマシテ、海國日本ノ名ヲ世界ニ轟カシ、
帆船時代カラ汽船ノ時代ニ移リ(モウ時間
ガナイゾ)ト呼フ者アリ)世界
運が發展致シタカト申シマスナラバ、是ハ
要スルニ我ガ國民ガ常ニ海ニ依ツテ鍛錬サ
レ、海ノ氣流ヲ知リ、航海術ヲ學ンデ來タ

カラデアリマス、此ノ點ニ於テ私ハ海洋航
空ノ見地ニ立ツテ、現在ノ大學ニ航空科ヲ
置クコトモ一應必要デアリマスガ、ソレヨ
リモット大事ナコトハ、遞信省ノ管轄ニ屬
スル商船學校ノ中ニ、航空科及ビ航空機關
科ヲ御置キニナルコトガ、最モ適切ナリト
確信致シテ居ルノデアリマスガ、ソレニ對
スル當局ノ御見解ヲ承リタイノデアリマス
更ニ文部當局ニ簡單ニ御伺致シマスガ、
今マデノ教育方針ハ概略シテ言フナラバ、
所謂英雄教育デアリ、英才教育デアツタ、
即チ福助教育デアル、頭ダケ大キクテ足ノ
立タナイヤウナ者ヲ造ツテ來タ、斯ウ云フ
コトデハ政府ガ如何ニ鯢立チラシテモ航空
小サイ教育デアル(拍手)學校ニ於テモ理論
ノ詰込ミノミデアツテ、實際ニハ何ノ役ニモ
ソレニ付テ御意見トシテハ色々アリマシタ
ガ、此ノ點ニ付テ私ハ日本ノ航空政策トシ
テハ、ドウシテモ海洋航空政策ヲ執ルベキ
デアルト思ヒマス、勿論大陸ニ於ケル航空
ガ重大デアルコトハ私ガ申上ダクテモ分
シマシテ、海國日本ノ名ヲ世界ニ轟カシ、
帆船時代カラ汽船ノ時代ニ移リ(モウ時間
ガナイゾ)ト呼フ者アリ)マダ時間ハアル、
シマシテ、海國日本ノ名ヲ世界ニ轟カシ、
帆船時代カラ汽船ノ時代ニ移リ(モウ時間
ガナイゾ)ト呼フ者アリ)世界
運が發展致シタカト申シマスナラバ、是ハ
要スルニ我ガ國民ガ常ニ海ニ依ツテ鍛錬サ
レ、海ノ氣流ヲ知リ、航海術ヲ學ンデ來タ

カラデアリマス、此ノ點ニ於テ私ハ海洋航
空會社ハ先程カラ仰シヤツタヤウニ國策
會議会社デアリ、直グ役人ガ上カラ天降リニ來
ル、是ハモウ討論終結デアリマス、私ハ役
人ノ來ルコト必ズシモ惡イトハ申シマセヌ
ガ、要ハ其ノ役人ヲ以上申上ダタ最新技術
ヲ持ツ所ノ若キ「エンジニヤー」「インベン
チュア」ノ意見ヲ能クコナシテ行キ得ル、
眞ノ進歩的頭ノ者ヲソコニ据エナケレバナ
ラスト思フ、是ハ此ノ航空ニ關スル如キ、
日月歩ドコロデハナイ、一分ヲ爭フヤウ
ナ重大ナル問題ノ首腦部ニ、從何位勳等
ト云フヤウナ偉イ方々ダケデハ、立派ナ國
拔ケ出テ來タヤウナ法理論バカリデハ航
空策ハ立チマセヌ、又六法全書ノ中カラ
ソコデ私ハドウシテモ是等從業員或ハ「エ
キスピート」ノ意見ヲ反映スルヤウニ、法
律的ニモ之ヲ作ラナケレバナラヌト思フガ、
ソコデ私ハドウシテモ是等從業員或ハ「エ
キスピート」ノ意見ヲ尊重スル
ヤウナ意味ガ盛ラレテアルノデアルカ、ヤ
ハリ從來通リノ「マンネリズム」ノ中ニ此ノ
ノ點ニ對スル當局ノ御意見ヲ承リタイノデ
アリマス

最後ニ簡單ニ一言申上ゲル、航空事業ハ
私ガ言フマデモナク、唯輸送事業ダケデハ
アリマスガ、其處ラ邊デマダ時間ガアルノ
ニ、モウナイト餘り仰シヤイマスカラ、此
ノ程度デ打切りマス

ヨタデ中々獨リ立チガ出來テ居ナイ、常ニ
政府ノ方ノ補助ニ依ル外航空會社ノ立行ク
道ハナイノデス、ソコデ是レハ突飛ナ考ノ
ヤウデアリマスケレドモ、航空機製造事業
ト輸送事業ト云フモノヲ一ツニシテ、同ジ
會社デヤルヤウニシタナラバ、ドンナモノ
デアラウカト考ヘル、サウスルコトニ依ツ
テソレガ榮養源トナル、一方デ儲ケタモノ
ガ榮養源トナツテコツチニ來ル、現ニ獨逸、
伊太利ニ於テモサウ云フコトヲヤツテ、非
常ニ發展ヲ見ツツアルヤウデアリマス、
英國及ビ佛蘭西ニ於テハ補助政策バカリヲ
執ツテ、國帑ヲ費スコトハ大キイノニモ拘
ラズ、民間航空力モ軍事航空力モ獨伊ニ抑
ヘ付ケラレテアノ「ズデーテン」問題ニ於テ
モ、或ハ奥地利ノ合併ニ於テモ、或ハ又「エ
チオビヤ」ノ戰爭ニ於テモ、何等手出シガ
出來ナカツタト云フノモ、其ノ航空政策ノ
一斑ガ窺ハレルト思フガ、之ニ對スル御意
リマスカラ日本ノ航空事業ヲ眞ニ發達セシ
ムル爲ニハ、所謂一緒ニヤラセルト云フコ
トガ必要デアルト思フガ、之ニ對スル御意
見ハ如何デアルカ、御尋致シマス

尙ホ最後ニ一言政府ニ申上ゲテ置キタイ
コトハ、會期ノ三分ノ二ヲ過ギタ今日ニ於
テ、斯ウ云フ重大法案ヲ議會ニ出サレルナ
ドト云フガ如キコトハ、甚ダ怠慢デアツタ
ト考ヘル、甚ダダラシガナイト考ヘルノデ
アリマス、是等ノ點ニモ注意ヲサレマシテ、
委員會等ニ於テモ極メテ詳細ナ資料ヲ早ク
提供サレマシテ、審議促進ニ努力セラレ
ル考ハナイカト云フ御意見モアリマシタガ、

コトヲ最後ニ希望致シマス（拍手）
（國務大臣鷹野季彦君登壇）
○國務大臣（鷹野季彦君）御答致シマス、
航空機乘員ノ養成ニ付キマシテハ、御承知
ノヤウニ十三年度ニ於テ既ニ五箇所ノ地方
度即チ十四年度ニ於テハ、更ニ五箇所ノ地
方養成所ヲ作リ、又一箇所ノ中央養成所ヲ作
ルコトニ運ンデ居リマス、尙ホ進ンデ明年
度即チ十四年度ニ於テハ、更ニ五箇所ノ地
方養成所ヲ作ルト云フコトニナツテ居リマ
ス、尙ホ今後モ年ヲ逐ウテ增加スルノデア
リマス、此ノ養成所ハ甲種工業學校程度ノ
モノデアリマシテ、其ノ上級生ニ對シテハ
飛行機操縦ノ技術ヲ學バセ、又一面ニ於キ
マシテハ飛行工業技術、即チ技術員養成ニ
充テルノデアリマス、其ノ高等ナ技術及び
航空關係ノ研究ハ、中央研究所ニ於テ之ヲ
致スノデアリマス、ソレニ付キマシテハ、
ソレ等ノ養成所ガ卒業生ヲ出スマデニハ相
當ノ日時ガアル關係カラ、目下臨時養成ヲ
ヤツテ居リマス、昨年ニ於テモ臨時養成數
十名ノ者ガ僅カ八箇月ノ練習ニ依ツテ宙返
カラ逆落マデ、何デモ出來ルヤウナ優秀ナ
者モアルノデアリマス

尙ホ「ラヂオ・ビーコン」其ノ他無線通信
關係ニ付キマシテハ、通信ノ關係ニ於テ十
分ニ練習ヲサセテアリマスガ、氣象ノ關係ニ
付キマシテハ、是モ亦豫備知識ハ興ヘマス
ガ、實際ハ文部省ノ方ノ關係ニ於テ考慮下
考ヘル、甚ダダラシガナイト考ヘルノデ
アリマス、是等ノ點ニモ注意ヲサレマシテ、
委員會等ニ於テモ極メテ詳細ナ資料ヲ早ク
提供サレマシテ、審議促進ニ努力セラレ
ル考ハナイカト云フ御意見モアリマシタガ、

コトヲ最後ニ希望致シマス（拍手）
（國務大臣鷹野季彦君登壇）
○國務大臣（鷹野季彦君）御答致シマス、
航空機乗員ノ養成ニ付キマシテハ、御承知
ノヤウニ十三年度ニ於テ既ニ五箇所ノ地方
度即チ十四年度ニ於テハ、更ニ五箇所ノ地
方養成所ヲ作ルト云フコトニナツテ居リマ
ス、尙ホ今後モ年ヲ逐ウテ增加スルノデア
リマス、此ノ養成所ハ甲種工業學校程度ノ
モノデアリマシテ、其ノ上級生ニ對シテハ
飛行機操縦ノ技術ヲ學バセ、又一面ニ於キ
マシテハ飛行工業技術、即チ技術員養成ニ
充テルノデアリマス、其ノ高等ナ技術及び
航空關係ノ研究ハ、中央研究所ニ於テ之ヲ
致スノデアリマス、ソレニ付キマシテハ、
ソレ等ノ養成所ガ卒業生ヲ出スマデニハ相
當ノ日時ガアル關係カラ、目下臨時養成ヲ
ヤツテ居リマス、昨年ニ於テモ臨時養成數
十名ノ者ガ僅カ八箇月ノ練習ニ依ツテ宙返
カラ逆落マデ、何デモ出來ルヤウナ優秀ナ
者モアルノデアリマス

尙ホ「ラヂオ・ビーコン」其ノ他無線通信
關係ニ付キマシテハ、通信ノ關係ニ於テ十
分ニ練習ヲサセテアリマスガ、氣象ノ關係ニ
付キマシテハ、是モ亦豫備知識ハ興ヘマス
ガ、實際ハ文部省ノ方ノ關係ニ於テ考慮下
考ヘル、甚ダダラシガナイト考ヘルノデ
アリマス、是等ノ點ニモ注意ヲサレマシテ、
委員會等ニ於テモ極メテ詳細ナ資料ヲ早ク
提供サレマシテ、審議促進ニ努力セラレ
ル考ハナイカト云フ御意見モアリマシタガ、

是ハ固ヨリ國策會社ニ於キマシテモ十分其
テ居リマスシ、當局ニ於テモ十分監督ヲ考ヘ
シタイト考ヘテ居ル次第アリマス
海洋ノ航空ヲ發達サセテハドウカト云
フ御意見ハ、洵ニ御同感デアリマシテ、我
國ノヤウナ四面海ヲ以テ環ラシテ居リマス
地主ノ上カラ、南洋ニ、太平洋ニ、或ハ印
度洋ニ航空路ヲ開クト云フ上カラ、必要ナ
コトハ論ガナイノデアリマス

尙ホ御意見ノ中ニ此ノ飛行機ノ製造
業ト輸送業ヲ同ジ會社ガヤツテハ如
何デアルカ、即チ航空輸送ノ方ハ収益性
ガナイ、補助金ノミニ依ツテ運營サレ
ルモノデアルカラ、製造ノ仕事ヲシテ、其
ノ収益ヲ以テ之ヲ補フト云フ方法ハ如何デ
アルカト云フノハ、一應御尤ノ御意見ト考
ヘマスケレドモ、是ハ別ニ分ケテ置ク方ガ
宜シイト考ヘテ居リマス、ト申シマスノ
ハ、自己ノ造ツタモノハヤハリ自分で使用
シタクナルノデアリマス、自己ノ會社ニ於
テ優秀機ヲ造ツテ之ヲ使用スル、自己ノ造
ツタモノハ何デモ優秀ダト考ヘル弊モ起リ
易イノデアリマスカラ、製造會社ヲ多數ニ
置キ、其ノ多數ノ製造會社カラ優秀機ヲ選
拔シテ飛行ニ用フルト云フ方ガ宜シイト考
ヘテ居ルナヤウ次第アリマス、尙ホ詳細
ノコトハ他ノ機會ニ於テ御答ヲ致スコトニ
致シマス（拍手）

（政府委員小柳牧衛君登壇）
○政府委員小柳牧衛君登壇
○副議長（金光庸夫君）是ニテ質疑ハ終了

致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諸リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出國際電氣通信株式會社法中改正法律案委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程

第四、船員保險法案ノ第一讀會ヲ開キマス——厚生大臣廣瀬久忠君

第五條 保険料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及

療養費、傷病手當金、廢疾手當金又ハ死亡手當金ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキ、養老年金、廢疾年金、脱退手當金又ハ第三十六條、第三十七條、第四十二條若ハ第四十九條ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クル權利ハ五年ヲ超過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條 船員保險ニ關スル書類ニハ印紙ヲ課セズ

第八條 行政官廳又ハ保険給付ヲ受クベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第九條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依キ被保險者ヲ雇傭スル船舶所有者ヲシテ其ノ雇傭スル者ノ異動及報酬ニ關シ報告ヲ爲サシメ、文書ヲ提示セシメ其ノ他船員保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 船舶ガ滅失又ハ沈没シタル際現ニ其ノ船舶ニ乘組ム被保險者又ハ其ノ船舶ニ乗組中被保險者ノ資格ヲ喪失シ引續キ船舶内ニ在ル者ガ滅失又ハ沈没ノ日ヨリ三月間其ノ生死分明ナラザルトキハ本法ノ適用ニ付テハ其ノ期間満了ノ日ニ死亡シタルモノト推定ス

第十二條 保険料ヲ滯納スル者アルトキハ船舶ハ滅失シタルモノト推定ス

第一項ノ規定ハ被保險者又ハ船舶ニ乗組中被保險者ノ資格ヲ喪失シ引續キ船舶内ニ在ル者ガ船舶航行中行方不明ト爲リタル場合ニ於テ三月間生死分明ナラザルトキニ之ヲ準用ス

第十三條 保険料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他のニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十四條 保険料其ノ他本法ニ依ル徵收金ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

第十五條 國、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ所有ニ屬スル船舶ニ乘組ム船員ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十六條 本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第二章 被保險者

第十七條 船員法第一條ニ規定スル帝國臣民タル船員ニシテ本法施行地ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニ乘組ムモノハ船員保險ノ被保險者トス但シ左ニ掲タル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 船舶所有者ニ雇傭セラレザル者

前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ノ請求ヲ爲シタルトキハ市町村ハ市町村

第十八條 被保險者ハ船舶ニ乘組ミタル

テハ行政官廳ハ徵收金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ交付スベシ

第十九條 船舶ガ滅失又ハ沈没シタル際現ニ其ノ船舶ニ乘組ム被保險者又ハ其ノ船舶ニ乗組中被保險者ノ資格ヲ喪失シ引續キ船舶内ニ在ル者ガ滅失又ハ沈没ノ日ヨリ三月間其ノ生死分明ナラザルトキハ本法ノ適用ニ付テハ其の期間満了ノ日ニ死亡シタルモノト推定ス

第二十條 保険料ヲ滯納スル者アルトキハ船舶ハ滅失シタルモノト推定ス

第一項ノ規定ハ被保險者又ハ船舶ニ乗組中被保險者ノ資格ヲ喪失シ引續キ船舶内ニ在ル者ガ船舶航行中行方不明ト爲リタル場合ニ於テ三月間生死分明ナラザルトキニ之ヲ準用ス

第二條 船員保險ハ政府之ヲ管掌ス

第三條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對象トシテ船舶所有者ヨリ受クル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂爲スモノトス

第四條 報酬ノ額ニ基キ保険料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リテ之ヲ算定ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令中船舶所有者トアルハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ船舶管理人、船舶貸借ノ

日、前條各號ノ規定ニ該當セザルニ至

リタル日又ハ日本ノ國籍ヲ取得シタル

日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第十九條 被保險者ハ死亡シタル日、船

舶ニ乗組マザルニ至リタル日、第十七

條各號ノ規定ノ一ニ該當スルニ至リタ

ル日又ハ日本ノ國籍ヲ失ヒタル日ノ翌

日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實

アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當ス

ルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資

格ヲ喪失ス

第二十條 十年以上十五年未滿被保險者

タリシ者ガ被保險者タラザルニ至リタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得但シ其ノ者ガ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル被保險者ニ對シテハ老齡又ハ脫退ニ關スル保險給付ニ限り之ヲ爲スモノトス

第二十一條 前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ第十七條ノ規定ニ依ル被保險者タ

リシ期間ト前條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間ト合算シテ十五年ニ達シタルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

第十九條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル被

保險者死亡シタル場合及日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 保險給付

第一節 總則

第二十二條 被保險者タリシ期間ハ被保險者ノ資格ヲ取得シタル月ヨリ之ヲ起

算シ其ノ資格ヲ喪失シタル月ノ前月ヲ半トトシテ之ヲ計算ス

十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ月ハ

ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保險者タリシ期間ニ加算ス

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後ニ其ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給付ヲ爲ス場合ニ於テハ前後ノ被保險者

タリシ期間ハ之ヲ合算ス但シ脫退手當金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ計算ノ基礎ト爲リタル期間ハ之ヲ合算セズ

前項但書ノ規定ハ第四十九條ノ規定ニ依リ差額ノ支給ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一条 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二条 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十三条 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四条 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十五条 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十六条 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十七条 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八条 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十条 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一条 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ保險給付ヲ受クベキ者ガ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第二十六條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ但シ養老年金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第二十八條 保險給付又傷病手當金

第二十九條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條 治療ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ保險給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ

第三十三条 第二項ノ規定ハ治療ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得

第三十四条 第二項ノ規定ハ治療ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得

第三十五条 第二項ノ規定ハ治療ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得

第三十六条 第二項ノ規定ハ治療ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得

第三十七条 第二項ノ規定ハ治療ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得

第三十八条 第二項ノ規定ハ治療ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 第二項ノ規定ハ治療ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得

第四十条 第二項ノ規定ハ治療ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 第二項ノ規定ハ治療ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得

第四十二条 第二項ノ規定ハ治療ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得

第四十三条 第二項ノ規定ハ治療ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得

第四十四条 第二項ノ規定ハ治療ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得

令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第三十條 被保險者タリシ者左ノ各號ノ者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利度ニ於テ保險給付ヲ受クベキ者ガ第三

險者ノ資格ヲ取得シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ資格ヲ喪失シタル月ノ前月ヲ半トシテ之ヲ計算ス

十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ月ハ

ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保險者タリシ期間ニ加算ス

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後ニ其ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給付付

付ヲ受クルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ其

ノ期間ニ加算ス

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後ニ其

ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給付付

付ヲ受クルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ其

ノ期間ニ加算ス

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後ニ其

ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給付付

付ヲ受クルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ其

ノ期間ニ加算ス

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後ニ其

ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給付付

付ヲ受クルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ其

間ヲ經過スルニ至リタルトキハ之ヲ支給セズ

第三十三條 船員法第十七條又ハ第二十

九條ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ扶助又ハ手當ノ支給ヲ受クル被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ疾病又ハ負傷ニ關

シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ベカリシ期間經過後療養ノ給付又ハ傷病手當金ノ支給ヲ開始ス

第三節 養老年金

第三十四條 十五年以上被保險者タリシ者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル後五十歳ヲ超エタルトキ又ハ五十歳ヲ超エ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養老年金ヲ支給ス

第三十五條 養老年金ノ額ハ被保險者タリシ期間十五年以上十六年未満ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間十五年以上一年ヲ増ス每ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一一相当スル金額ヲ加ヘタル金額トス

被保險者タリシ期間四十年ヲ超ユル者ニ支給スペキ養老年金ノ額ハ之ヲ被保險者タリシ期間四十年トシテ計算ス

第三十六條 養老年金ノ支給ヲ受ケガ死亡シタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ満タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第三十七條 十五年以上被保險者タリシ者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ガ

シテ死亡シタル場合ニ於テハカリシ養老年

金ノ五年分ニ相當スル金額ヲ一時金ト

シテ其ノ遺族ニ支給ス

第三十八條 傷病手當金又ハ船員法第十

七條若ハ第二十九條ノ規定ニ依リ船舶

所有者ヨリ手當ノ支給ヲ受クル者ニハ

命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ベキ期間養老年金ノ支給ヲ停止ス

第三十九條 養老年金ノ支給ヲ受クル者

被保險者ト爲リタルトキハ其ノ月ヨリ

養老年金ノ支給ヲ停止ス

前項ノ規定ニ依リ養老年金ノ支給ヲ停止セラレタル被保險者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ前後ノ被保險者

改定ス

前項ノ規定ニ依リ養老年金ノ額ヲ改定

スル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル

金額トス

第四十二條 癡疾年金ノ支給ヲ受クル者

ガ死亡シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ依ル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

一 被保險者タリシ期間ガ十五年未満

ナル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル

金額ヨリ少キトキハ從前ノ養老年金ノ額ヲ以テ改定養老年金ノ額トス

第四十三條 養老年金及癡疾手當金

ニ支給スペキ養老年金ノ額ハ之ヲ被保

險者タリシ期間四十年トシテ計算ス

第三十六條 養老年金ノ支給ヲ受クル者

ガ死亡シタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ満タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

其ノ程度ニ應ジ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄癡疾年金ヲ支給シ又ハ一時金トシテ癡疾手當金ヲ支給ス

第三十七條 養老年金及癡疾年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ満タザルトキハ其ノ差額

第四十四條 癡疾年金ヲ受クル權利ヲ有

スル者ガ癡疾年金ヲ受クル程度ノ癡疾

ノ狀態ニ該當セザルニ至リタルトキハ爾後癡疾年金ヲ支給セズ

第四十五條 養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ癡疾手當金ヲ支給セズ

第五節 脫退手當金

第四十六條 三年以上十五年未満被保險

者タリシ者ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ被保險者ト爲

トキハ脫退手當金ヲ支給ス但シ其ノ者ガ癡疾手當金ヲ受クル權利ヲ有スルトキハ一年六月ヲ經過セザル場合ト雖モ

之ヲ支給ス

第四十七條 脱退手當金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル但シ癡疾手當金ヲ受クル者ニ支給スペキ額ハ癡疾手當金ノ額ト合算シテ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ十三月分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 被保險者タリシ期間三年以上四年

未滿ナル者ニ對シテハ被保險者タリ

シ全期間ノ平均報酬月額ノ一月半分

ニ相當スル金額

一 被保險者タリシ期間四年以上九年未満ナル者ニ對シテハ其ノ期間三年以上一年ヲ増ス毎ニ前號ノ金額ニ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ半月分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額

三 被保險者タリシ期間九年以上ナル者ニ對シテハ其ノ期間八年以上一年ヲ増ス每ニ前號ノ規定ニ依リ其ノ期間八年以上九年未満ノ者ノ支給ヲ受クベキ金額ニ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ一月分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額

第四十八條 瘦疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ脱落手當金ヲ支給セズ

第四十九條 瘦疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ第四十四條ノ規定ニ依リ瘦疾年金ノ支給ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル瘦疾年金ノ總額ガ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脱退手當金ノ額ニ満タザルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第六節 死亡手當金

第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ三年以上被保險者タリシトキハ其ノ遺族ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ三月分ニ相當スル死亡手當ヲ支給ス但シ其ノ金額ガ百圓ニ満タザルトキハ之ヲ百圓トス

二 被保險者タリシ期間四年以上九年未満ナル者ニ對シテハ其ノ期間三年以上一年ヲ増ス毎ニ前號ノ金額ニ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ半月分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル

三 被保險者タリシ者ニシテ療養ノ給付ヲ受クルモノガ死亡シタルトキ

一 被保險者が死亡シタルトキ
二 被保險者タリシ者ガ其ノ資格喪失後三月以内ニ死亡シタルトキ
三 被保險者タリシ者ニシテ療養ノ給付ヲ受クルモノガ死亡シタルトキ

第七節 保險給付ノ制限

第五十一條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ自己ノ故意ニ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生ゼシメタルトキハ療養ノ給付又ハ傷病手當金、瘦疾年金、瘦疾手當金若ハ死亡手當金ノ支給ヲ爲サズ

第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ノ支給ヲ受クベキ者ガ被保險者又ハ被保險者タリシ者ヲ故意ニ死ニ致シタルトキハ其ノ者ニ對シテハ支給ヲ爲サズ

此ノ場合ニ於テ後順位者アルトキハ其ノ者ニ支給ヲ爲ス

第五十二條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ鬪争、泥醉若ハ著シキ不行跡ニ因リ、故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ又ハ

正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハザルニ因リ事故ヲ生ゼシメタル

トキハ傷病手當金、瘦疾年金又ハ瘦疾手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十三條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ三年以上被保險者タリシトキハ其ノ遺族ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ三月分ニ相當スル死亡手當ヲ支給ス但シ其ノ金額ガ百圓ニ満タザルトキハ之ヲ百圓トス

第五十四條 正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハザル者ニ對シテハ傷病手當金ノ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十五条 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保険給付ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期

間ヲ定メ保険給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトヲ得

第五十六条 療養ノ給付又ハ傷病手當金若ハ瘦疾年金ノ支給ヲ受クル者ニ付必

要アリト認ムルトキハ診斷ヲ行フコトヲ得

第五十七条 養老年金又ハ瘦疾年金ヲ受クル者ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ身分關係ノ異動及瘦疾狀態ノ繼續ノ有無ニ關シ其ノ者ヲシテ必要ナル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ書類ヲ提出セザル者ニ對シテハ養老年金又ハ瘦疾年金ノ支給ヲ一時差止ムルコトヲ得

第四章 費用ノ負擔

第五十八条 國庫ハ療養ノ給付及傷病手當金ヲ除クノ外保険給付ニ要スル費用ノ五分ノ一ヲ負擔ス

國庫ハ前項ニ規定スル費用ノ外毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ船員保險事業ノ事務ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔ス

第五十九條 政府ハ船員保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保険料ヲ徵收ス

保険料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十条 被保險者及被保險者ヲ雇傭スル船舶所有者ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第六十一條 船舶所有者ハ其ノ雇傭スル被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲ納付ス

被保險者ノ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル義務ヲ負フ

被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

當金ノ支給ヲ爲サズ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

ハ一部又ハ傷病手當金、瘦疾年金若ハ瘦疾手當金ノ全部若ハ一部ノ支給ヲ爲サザルコトヲ得

第五十七條 養老年金又ハ瘦疾年金ヲ受

クル者ニ付必要アリト認ムルトキハ其

ノ身分關係ノ異動及瘦疾狀態ノ繼續ノ

有無ニ關シ其ノ者ヲシテ必要ナル書類

ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ書類ヲ提出セザル者

ニ對シテハ養老年金又ハ瘦疾年金ノ支

給ヲ一時差止ムルコトヲ得

第四章 費用ノ負擔

第五十八条 國庫ハ療養ノ給付及傷病手當金ヲ除クノ外保険給付ニ要スル費用ノ五分ノ一ヲ負擔ス

國庫ハ前項ニ規定スル費用ノ外毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ船員保險事業ノ事務ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔ス

第五十九條 政府ハ船員保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保険料ヲ徵收ス

保険料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十条 被保險者及被保險者ヲ雇傭スル船舶所有者ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第六十一條 船舶所有者ハ其ノ雇傭スル被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲ納付ス

被保險者ノ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル義務ヲ負フ

被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六十二條 船舶所有者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スペキ保険料ヲ被保險者ニ支拂フベキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第五章 審査ノ請求、訴願及訴訟

第六十三條 保険給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次船員保險審査會ニ審查ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ第二次船員保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十四條 保険料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第十二条ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十五條 保険料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ關シ訴願ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ第二次船員保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ

第六十六條 本法ニ規定スルモノノ外船員保險審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ、此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條

第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第百五十八條第二項及第百五十九條ノ規定ヲ準用ス

第六章 罰則

第六十八條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ爲サザル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條 船舶所有者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第七十條 第六十八條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七章 雜則

第七十一條 本法ヲ朝鮮又ハ臺灣ニ施行スル場合ニ於テ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條 關東州船員令ニ依ル船員タリシ者ガ被保險者ト爲リタル場合又ハ被保險者タリシ者ガ關東州船員令ニ依ル船員ト爲リタル場合ノ保険給付ニ關シテハ、勅令ヲ以テ別段ノ定ム

○國務大臣（廣瀬久忠君）只今議題トナリマシタ船員保險法案ノ提出ノ理由ヲ説明致シテモ、寔ニ急務デアルト言ハナケレバナシマス、抑、海運業ハ、産業ノ發展、資源ノ開發、貿易ノ隆昌、國際收支ノ改善等ノ諸點ヨリ觀察致シマシテ、我ガ國力ノ伸張上重要ナル地位ヲ占ムルバカリデナク、一朝有事ニ際シマシテハ、四面環海ノ我國ニ於テハ、重大ナル軍事的任務ニ服スルモノデアリマシテ、之ヲ国防上ノ見地ヨリ致シマシテモ、其ノ重要性ガ一層認識セラレルノヨリ見マシテモ、將又現下ノ時局ニ鑑ミマシテモ、寔ニ急務デアルト言ハナケレバナラナイノデアリマス

以上ノ理由ニ依リマシテ、今回政府ハ船員ノ老後ニ於ケル生活ノ安定ヲ圖リ、優秀ナル船員ヲシテ安シジテ永ク其ノ職務ニ從事セシメ、併セテ其ノ疾病傷痍竝ニ癡疾ニ對スル保護ヲナス爲、船員保險法案ヲ立案シテアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アランコトヲ希望致シマス

○副議長（金光庸夫君）質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——米津亮君

〔米津亮君登壇〕

○米津亮君 我ガ日本ハ海國デアリマス、

附 則
本法施行ノ期日ハ保険給付及費用ノ負擔ニ關スル規定竝ニ其ノ他ノ規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

其ノ不自由ナル海上生活ニ依ル精神上又ハ經濟上ノ苦痛及ビ退職後ニ於ケル生活不安等、陸上勤務者ニ見ルコトノ出來ナイ幾多ノ不利不便ヲ伴フコトヲ免レナインデアリマス、隨テ勤モスレバ陸上勤務ノ職業ニ轉向セントスル傾向ヲ示シテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ現象ハ我國海運業ノ隆昌ヲ期十五年間ニ於テ船舶ニ乘組ミタル期間ト被保險者タリシ期間ト合算シ十五年以降ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テ同日前十五年間ニ於テ船舶ニ乘組ミタル期間ト被保險者タリシ者ハ其ノ者ニ對スル脱落手當金ノ支給條件及其ノ額ニ付テハ第四十六條及第四十七條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ムヲ爲スコトヲ得

〔國務大臣廣瀬久忠君登壇〕
○國務大臣廣瀬久忠君登壇

ヨリ見マシテモ、將又現下ノ時局ニ鑑ミマシテモ、寔ニ急務デアルト言ハナケレバナラナイノデアリマス

以上ノ理由ニ依リマシテ、今回政府ハ船員ノ老後ニ於ケル生活ノ安定ヲ圖リ、優秀ナル船員ヲシテ安シジテ永ク其ノ職務ニ從事セシメ、併セテ其ノ疾病傷痍竝ニ癡疾ニ對スル保護ヲナス爲、船員保險法案ヲ立案シテアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アランコトヲ希望致シマス

○副議長（金光庸夫君）質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——米津亮君

〔米津亮君登壇〕

○米津亮君 我ガ日本ハ海國デアリマス、

畏多イ話デアリマスガ、皇孫ガ天ノ磐船ニ
御乗リニナツテ降臨ナサレマシタ時カラ、
海ト船トハ大和民族ニ取ツテ離ルベカラザ
ル關係ニアルノデアリマス、然ルニ今日我
國ニ於テ、甚ダ殘念デハアリマスルガ、朝
野ノ各方面ニ於テ海事思想ノ普及ガ極メテ
足ラナイ、隨テ只今上程サレタ法案ニ對シ
マシテモ、吾々ノ立場カラ見マシテ、認識
不足或ハ誤解ノアルコトヲ遺憾トスル次第
デアリマシテ、私ハ許サレタル時間内ニ於
キマシテ、其ノ主ナル點ニ付テ質問ヲ致シマ
シテ、詳シイコトハ他ノ機會ニ譲リタイト思ヒ
ヒマスカラ、少シク御清聽ヲ願ヒタイト思ヒ

第一ノ質疑ハ、本案ヲ提出シタ厚生大臣
ニ對シマシテ、此ノ法案ハ勿論其ノ性質力
ラ見マシテ、社會政策的ナ意味カラ御出シ
ニナツタコトニ於テハ、何等疑ナキ所デア
リマスルガ、同時ニ船員ノ特殊性ト云フコ
トカラ考ヘル時ニ、是ハ海運國策ノ立場カ
ラ出サレタ意味ガ多分ニ舍マレテ居ルト思
フノデアリマガドウデアルカ、此ノ點デ
アリマス、此ノ質問ヲスルニ當リマシテ、
聊カ海員ノ特殊性ニ付テ御尋シタイト思フ
ノデアリマス、海員ハ御承知ノ通り船ニ乘
ツテ居ルカラ海員デアリマス、陸上ニ居ツ
テハ海員ト云フ資格ハ殆ドナイト言ウテ差
得ナイ、人間ノ生活ノ本義カラ云ツテ、生
活シ得ザル所ニ生活シテ居ルコトガ海員ノ
特殊性ノ第一デアリマス、次ニ海員ハ女房

子供ヲ携ヘテ船ニハ乘レナイノデアリマ
ス、単身船ニ乘ツテ居ルト云フ其ノ生活
ガ、海員ノ特殊性デアリマス、私十數年海

員ヲシタ經驗ヲ持ツテ居ルノデアリマスル
ト、是ハ親父デアルト云フコトハ分リマス、
所ガ船ガ港ニ歸ツテ來マシテ家庭ニ行キマ
スト、子供ハビツクリシテ是ハ俺ノ親父デ
ナイト言ウテ、中々抱カレヨウトシナイン
デアリマス、茲ニ所謂海員タル所ノ使命ノ
裏ニ潛ンデ居ル所ノ人生ノ悲哀ガアルノデ
アリマス(拍手)海員ハ船ニ乘ツテ居リマス、
唯船ニ乘ツテ遊ンデ居ルノハ是ハ船客デア
リマシテ、海員ハ勞働ヲシテ居ルノデア
リマス、勞働ヲシテ居ル海員ガ船ニ乘ツテ
居ルト云フコトハ、即チ住シテ居ル所ト仕
事ヲスル所ガ同ジ場所ニアルト云フコトデ
アリマス、陸上ノ勞働者ニアレバ工場へ行
ソテ一日八時間乃至十時間労イテ、儲テ其
ノ後ハ許サレタル自分ノ自由ノ時間デアリ
マス、所ガ海員ハ船ニ乘ツテ居ルカラ、ソ
コニ勞働時間ハアリマスルガ、イツ何時時
化が來ルカ分ラヌ、イツ何時非常時ガ起ツ
テ來ルカ分ラヌ、船ハ常ニ動搖シテ居ル、
海ノ上ニ漂ツテ居ルカラ、イツ何時デモ、
寝テ居ル時デモ起サレテ、船舶及ビ積荷ノ
保護ヲシナケレバナラナイト云フ立場ニア
トハ、私ガ多ク言フ必要ハナイ、而モ一方

他災害補償ニ關スル規定等ガアリマスル
ガ、海員ニ於テハ唯僅ニ明治三十何年カニ
程申上ガタヤウナ海員ノ生活ハ、此ノ船員
種ノ場合ヲ規定シテ居リマスケレドモ、先

制定サレ、昨年改正サレタ船員法一ツアル
ト云フ狀態ニアリマス、一方海員ハ所謂無

官ノ外交使節デアリマス、即チ或ル場合ニ
於テハ一國ヲ代表シテ、海外ニ於テ我ガ國

民ノ爲ニ國民使節ノ役ヲ盡スデアラウ重大
ナル任務ヲ與ヘラレテ居ル、ソレハ船舶ガ

然性カラ、當然海員ガ國民ヲ代表シ得ル立

場ニ立ツテ居ルノデアル、以テ如何ニ海員
ガ重大ナル國民的使節ヲ帶ビテ居ルカト云

「バランス」ガ非常ニ重要ニ見ラレテ、其ノ
フコトハ之ヲ以テモ分ルト思フ、更ニ經濟

的ノ問題カラ云ヒマスト、今日海外收支ノ
運ノ原動力デアリマシテ、今日ノ如ク工業

國デアル日本ガ、ソレニ要スル原料ヲ海外

カラ持ツテ來ルニハ、ドウシテモ船ニ依ラ
ニ立チ、或ハ持場々ニ立ツテ、身ヲ敵彈

ノ中ニ曝シテ効イテ居ル關係上、非常ナル
犠牲者ヲ出シテ居リマス、其ノ數何百名ニ

達シテ居リマス、以テ如何ニ船員ガ今度ノ
事變ニ於テ非常ナ貢獻ヲシテ居ルカト云フ

コトガ是デ分ル、東亞永遠ノ平和ガ一朝ニ
シテ來ルト云フ豫想ハ出來マセヌ、隨テ船

員ガ公用船乗組員トナツテ我ガ軍國ノ爲ニ
奉ズルト云フ機會ハ、尙ホ未來ニ瓦ツテ相

當續ケラレルモノト吾々ハ覺悟シテ居リマ
ス、此ノ一點ダケヲ以テ見テモ、大正十一

年以來海員ガ毎年々々要望シテ居ツタ船員

保險法ガ、漸ク本日茲ニ出テ來タト云フコ

トハ、既ニ遲キニ過ギルノデハナイカト云

フコトヲ私共ハ考ヘル(拍手)而モ船員ハ船員トシテノミ成功シ得ル教育ヲ受ケテ居リマス、隨テ船員ガ船ヲ離レルト、俗ニ言フ所謂陸ニ上ツタ河童デアリマシテ、中々他ノ職業ニ轉ズルト云フ融通ガ利カナイノデアリマス、陸ニ上ツタ船員程取り柄ノナイ者ハナイノデアリマス、是ハ其ノ教育或ハ多年ノ經驗訓練ト云フモノガ、海上ダケニ限ラレテ居ルト云フ現實ガ、斯ノ如キ結果ヲ招クノデアリマス、併シナガラ海運産業ヲ以テ立國シテ居ル日本カラ見テハ、海員ガ陸上ニ轉業スルコトハ好マシクナイコトデアリマス、即チ優秀ナル海員ヲ成ベク陸上ニ轉業セシメナイデ、之ヲ保持スルト云フコトガ今日最大ノ急務デアリマス、船員保険法ハ恐ラク此ノ一點ノミカラ見テモ、重要ナル立案ノ動機ガ其處ニアルト考ヘルノデアリマス、以上ノ見地カラ、此ノ船員保険法ナルモノハ單ニ社會政策的ナ意味デナシニ、以上申上ゲタ各點カラ見テ、優秀ナル船員ヲ保持シ、優秀ナル船舶ヲ操縦セシメル爲ニ必要デアル、彼ノ「ロイド・ジヨージ」ハ世界大戰ノ時ニ、此ノ大戰ニ勝ツ條件トシテ、第一ニ船デアル、第二ニモ船デアル、第三ニモ船デアルト喝破シタノデアルコトハ當然デアリマス、併シナガラ優秀船ハ或ハ半年或ハ一年デ出來マスガ、優秀ナル船員ハ半年ヤ一年ヤ二年ヤ三年ヤ速成ハ出來ナイノデアリマス、此ノ優秀ナル

船員ヲ保持シ、且ツ彼等ヲ鼓舞激勵スル爲ニ、此ノ船員保険法ナルモノガ生レテ來タト思フノデアリマスルガ、厚生大臣ノ御意見ヲ伺ヒマス
第二ノ質疑ハ、第一條ノ保険給付ノ行爲ニ於テ家族ニ對スル特給付ヲ省イタ理由ヲ御伺シタイ、家族ニ給付ハ先程申上げマシタ船員ノ生活環境、條件、サウ云フコトカラ言ツテ、家族ニ其ノ給付ヲ及ボスペキモノデ少クトモ療養ノ給付位ハ及ボスペキモノデアルト考ヘマスガ、厚生大臣ハドウ云フ御考ヲ持ツテ居リマスカ

第三ノ質疑ハ極メテ重大ナル質疑デアリマス、是ハ敢テ海員ノ立場カラノミデナク、船舶所有者ノ立場カラモ極メテ重要デアリマス、本法ニ於テハ第十七條ニ於キマシテ、此ノ保険法ニ包含サレル被保險者ハ、本法ノ施行地ニ船籍ヲ有スル船舶ノ乗組員ト云ハ茲ニ明確ニハ現ハレテ居リマセヌガ、吾々ノ解釋スル所デ申シマスルナラバ、所謂内地デアツテ、臺灣、朝鮮及ビ關東州ハ之ニ含マレテ居ラナイト考ヘテ居ルノデアリマス、幸ニ含マレテ居ルナラバ洵ニ結構デアリマスルガ、第七十一條、第七十二條ノ規定ヲ見マスルト、含マレテ居ツタ時ニ掛ケタモガト云フト、役人ガ其ノ繩張リヲ固執シテ、各、行政機關ヲ握ツテ離サナイ(ヒヤー)ト拍手)此ノ點ニ付テ私年來其ノ弊害ヲ懇ヘ、カト云フト、至急此ノ弊害ヲ改正スル爲ニ關係各省ハ協議スベシト言ツテ居ルノデアリマスガ、未ダニ其ノ實ガ舉ツテ居ラナイ、此ノ行政機構ノ改革ガ出來ズシテ何ノ日満「ブロック」ガ實現スルカ、何ノ東亞協同體ガ實現スルノ點ニ付テ厚生大臣ハドウ御考デアルカ、更ニ若シ含マレテ居ラナイモノトスルナラバ、本法ノ施行ハ昭和十五年デアリマシテ、一年間ノ準備期間ガアルノデアリマスカラ、

此ノ準備期間ノ間ニ於テ、拓務省或ハ對滿事務局、或ハ其ノ他ノ關係省ト御相談ニナシテ、此ノ船員保険法一本建ヲ以テ、是等ノ所謂外地ニ船籍ヲ有スル船舶ノ乗組員ニモ適用スルモノデアルカドウカ、之ヲ厚生大臣ニ御伺シマス(拍手)元來日本ノ行政ニ於テ極メテ遺憾デアルト云フ點ハ、内地外地ノ行政機構ガ區々デアツテ一貫シテ居ラナイ、今日日満支ノ經濟「ブロック」ガ唱ヘラレ、所謂東亞協同體ナルモノガ必要トセラアルト考ヘマスガ、厚生大臣ハドウ云フ御考ヲ持ツテ居ルニモ拘ラズ、サウ云フ事業ヲ運用スル所ノ所謂行政機關ハ皆割據主義デアリマス(ヒヤー)一ツノ船員法デモ、日本ニ船員法ガアル、臺灣ニモ船員令ガアル、朝鮮ニモ船員令ガアル、關東州ニモ船員令ガアル、而モ其ノ内容ハ餘リ變リガナイ、然レドモ關東州ニ船籍ヲ有ツテ居ル船ノ所有者ハ、日本ノ船員法デ縛ラレズシテ、關東州ノ船員令デ縛ラレル、是ハ何故デアルカト云フト、役人ガ其ノ繩張リヲ固執シテ、各、行政機關ヲ握ツテ離サナイ(ヒヤー)ト拍手)此ノ點ニ付テ私年來其ノ弊害ヲ懇ヘ、カト云フト、至急此ノ弊害ヲ改正スル爲ニ關係各省ハ協議スベシト言ツテ居ルノデアリマスガ、未ダニ其ノ實ガ舉ツテ居ラナイ、此ノ行政機構ノ改革ガ出來ズシテ何ノ日満「ブロック」ガ實現スルカ、何ノ東亞協同體ガ實現スルノ點ニ付テ厚生大臣ハドウ御考デアルカ、幸ニ含マレテ居ラナイモノトスルナラバ、本法ノ施行ハ昭和十五年デアリマスカラ、一年間ノ準備期間ガアルノデアリマスカラ、ノ御意意ヲ伺ヒタイト思ヒマス
第四ノ質疑ハ、本法ノ第二十八條ノ二項ニ於キマシテ、標準報酬年額千八百圓以上ノ高級船員ヲ療養給付及び傷害手當金カラ

之ヲ除外シタル理由ヲ厚生大臣ニ伺ヒタイ
第五ノ質疑ハ、保険制度調査會ニ於キマ
シテハ、療養ノ給付及ビ傷病手當金ハ、船
員法ノ規定ニ依ツテ、船主ガ支出スベキ期
限ガ終ツテカラ、一年間之ヲ見ルト云フコ
トニナツテ居ルノヲ、本法ニ依ツテハ六箇
月ニナツテ居リマス、其ノ理由ヲ厚生大臣
ニ御尋フ致シマス

第六ノ質疑ハ、本法第五十八條ニ依リマ
シテ、保険制度調査會ニ於テハ、長期給付
ニ對シテ國庫ノ負擔金三分ノ一トナツテ居
ツタノヲ、本法ニ依リマスト五分ノ一ニナ
ツテ居リマス、其ノ理由ヲ御伺シタイ

第七ノ質疑ハ、船員ガ先程申上ゲタ生活
狀態及ビ過激ナ勞働等ノ關係カラ、非常ニ
年ヲ取り易イノアリマス、陸上ニ於テハ
五十歳ニ於テ尙ホ効ケルノニ、船員ハ四十
五歳デ効ケナイ、是ハ私此處ニ浩瀚ナル統
計ヲ持ツテ居リマスガ、時間ガアリマセヌ
カラ委員會ニ讓リマシテ、統計ハ發表致シ
マセヌガ、少クトモ船員ノ平均壽命ハ非常
ニ低イ、此ノ點カラ言ヒマシテ、本法ニ五
十歳トナツテ居ルノヲ、四十五歳ニ切下ゲ
ル御意思ガアルカナイカ

第八ノ質疑ハ、本法ヲ運用スル上ニ於テ、
遞信省トノ關係、即チ遞信省ノ協力ト提携
ヲ求メル御意思デアルカドウカ、此ノ點ハ
本法第九條ニ於キマシテ、行政官廳ハ船舶
所有者ニ對シテ各種ノ情報ヲ提供スベキコ
トヲ命令シ、其ノ命令ヲ忘リタル者ハ第六
十八條ニ依ツテ罰金百圓ヲ課スト云フコト

ニナツテ居リマス、然ルニ遞信省所屬ノ各地
ニ於ケル遞信局ノ海事部ニ於キマシテハ、
此ノ船員保険ヲ運用スル爲ニ必要デアル所
ノ雇入、雇止、或ハ何丸ニ何某ガ何年乗ツ
テ居ツタト云フ資料ハ常ニ集ツテ居ル、此
ノ遞信省ノ遞信局ノ海事部ニ情報ヲ求ムレ
バ即座ニ集マルノデアリマスガ、之ヲ避ケ
ルガ如クニ私解釋シテ居リマスガ、避ケザ
レバ洵ニ結構デアルガ、即チ二重、三重ノ
手間ヲ臣民ニ取ラセズニ、斯ノ如キ機關ヲ
利用サレル御意思デアルカドウカ厚生大臣
ニ御伺シタイ、尙ホ此ノ點ニ付テハ遞信大
臣ハ之ニ御協力サレル御考デアルカドウカ
ト云フコトヲ御尋シタイト思フノデアリマ
ス

以上甚ダ簡單デアリマスガ、八點ニ亘リ
マシテ船員保険法ノ質疑ヲ致シタ譯デアリ
マス、何卒御明快ナル御答辯ヲ賜リタイト
思ヒマス

〔國務大臣廣瀬久忠君登壇〕

○國務大臣(廣瀬久忠君) 御答ヲ致シマ
ス、第一ニ此ノ船員保険ノ制度ヲ設ケタ趣
旨デアリマスガ、之ニ付キマシテハ御話ノヤ
ウニ、海員ノ我國ニ非常ニ必要ナルモノデ
アルコト、茲ニ其ノ特殊ノ性質ヲ持ツテ居
ルコト、十分ニ之ヲ認メマシテ、唯單ニ社
會政策的ノ見地バカリデナク、海運國策ト
云フ點ニモ非常ニ重キヲ置イテ此ノ制度ヲ
設ケタ譯デアリマス、ソレカラ次ニ醫療給
付ニ關スル御質問デアリマシタガ、之ヲ解
釋マダナゼ及ボサナイカト云フ御質問デア

ニナツテ居リマスノデ、此ノ際ハ家族ノ醫療
ニ於ケル遞信局ノ海事部ニ於キマシテハ、
モ主ナル點ハ養老年金デアル、廢疾年金デ
アルト云フヤウナ、海員ノ特殊性ニ重キヲ
置イテ居リマスノデ、此ノ際ハ家族ノ醫療
給付ハ之ヲ致サナイコトニ致シマシタ、將
來ノ運用ヲ待ツテ又研究ヲ致シタイト思ヒ
マス

ソレカラ其ノ次ニ内地外地ノ關係ニ付テ
ノ御質問デアリマス、此ノ點ニ付キマシテ
ハ外地ノ當局ト十分ニ協議ヲ重ネマシテ、
臺灣朝鮮ニ本法ヲ適用スル考デ居ルノデ
アリマス、關東州ニ付テハ、是ハ租借地ノコ
トデモアリマスルノデ、本法ト内容ヲ同ウ
スル所ノ勅令ヲ出シマシテ、運用上ニ支障
ノナイヤウニ、内外衝突ノ起ラナイヤウニ
致ス積リデ居リマス、ソレカラ其ノ次ニ高
級船員ニ對スル療養ノ給付ヲ廢メテ居ル、
是ハ年收千八百圓以上ノ者ニ付キマシテハ、
社會保險ノ對象トスルノハ如何カト思ヒマ
ス、是ハ自ラ療養ヲシテ貰フト云フ積リデ
除イタ譯デアリマス

次ニ社會保險調査會ニ於ケル長期給付ニ
對スル國庫ノ負擔金ガ多カツタガ、今回ハ
コトデアリマスガ、是ハ國ノ財政其ノ他、他
ノ方面トノ色々ノ權衡等モ考慮シマシテ、
先づ五分ノ一ガ適當デアルト判斷ヲ致シタ
譯デアリマス

次ニ養老年金ノ開始時期ニ付テ、政府案
〇國務大臣(廣瀬久忠君) 御答ヲ一ツ落シ
マシタカラ附加ヘテ置キマス、療養ノ給付

申サレタノデアリマスガ、是ハヤハリ政府
案ノ如ク五十歳ガ適當デアルト思ヒマス、
四十五歳ニ引下ゲルノハ早過ギルト吾々ハ

考ヘルノデアリマス

最後ニ本法ノ運用ニ付テノ遞信省トノ關係
デアリマスガ、是ハモウ遞信省トハ密接
ナル連絡ヲ取り、十分ニ行政上ノ關聯ヲ持
テ施行セナケレバナラヌト思ツテ居リマ
ス、サウ致シマシテ民間ニ迷惑ノ掛ラナイ
ヤウニ、十分ナ連絡ヲ取ツテ圓滿ナル施行
ヲ致ス積リデアリマス

〔療養給付ノ問題ハドウシタ〕ト呼ブ
者アリ)

〔國務大臣鹽野季彥君登壇〕

○國務大臣(鹽野季彥君) 私ニ對シテ御尋
ノ點ハ二點デアリマシタ、最後ノ御尋デア
リマシタ本法實施ニ當ツテ之ニ協力スルヤ
否ヤト云フ點ニ付キマシテハ、固ヨリ必要
ナル事項ニ付キマシテハ遞信省ニ於キマシ
テモ十分ニ協力致ス積リデアリマス、又他
ノ一點デアリマスル内地外地ノ海運行政ノ
統一ノ問題デアリマスルガ、此ノ問題ニ付キ
マシテハ、統一スベシトノ強キ要望ハ屢々承
認シテ居ルノデアリマスガ、政府部内ニ於キマシ
テモ色々議論ガアリマシテ、從來此ノ問題ニ
付テハ種々研究ヲ重ネ、又之ニ對シテ努力
致シテ居ルノデアリマスガ、將來篤ト考慮
ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

〔國務大臣廣瀬久忠君登壇〕

○國務大臣(廣瀬久忠君) 御答ヲ一ツ落シ
マシタカラ附加ヘテ置キマス、療養ノ給付

ニ關シマシテ、短期給付ヲ六箇月ニシタ、ハドウ云フ譯カト云フ御質問アリマシタ、是ハ他ノ社會保險ニ於ケル給付トノ權衡上、一年マデモ延長シ得ルト云フ途ヲ開イテ居ルノデアリマス

〔政府委員寺田市正君登壇〕
○政府委員(寺田市正君) 拓務大臣ニ對スル御質問ニ一應私ヨリ御答辯ヲ申上ゲマス、本法ノ施行地トシマシテハ、米窪君ノ御見解ノ通り直チニ朝鮮及ビ臺灣ハ尙マレテ居ラナイノデアリマスケレドモ、本法ノ性質ニ鑑ミマシテ、勅令ヲ以テ之ヲ朝鮮及ビ臺灣ニ施行スルノデアリマス、本法ノ施行ト同時ニ之ヲ實施致シマシテ、此ノ制度ノ完璧ヲ期シタイ所存デゴザイマス、御諒承ヲ願ヒマス

〔政府委員原邦道君登壇〕
○政府委員(原邦道君) 關東州ニ於キマスル關係ハ、只今厚生大臣カラ御述ノ通リデアリマシテ、勅令ヲ以テ是ト同ジ内容ノ規定ヲ致シマス、隨ヒマシテ御心配ノ關東州内地ノ汽船會社船員ガ、不平等ナ取扱ニナラヌヤウニ致ス考デアリマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十五及ビ第十六ハ便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第十五、海運組合法案、日程第十六、造船事業法案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——遞信大臣鹽野季彥君

第三條 海運組合ノ組合員タルコトヲ得ル海運業者ハ内地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル者トス

第四條 海運組合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ政府ノ認可ヲ受ケ外地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル海運業者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

第五條 海運組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

第六條 海運組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過怠ヲ行フコトヲ得ズ

第七條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得

第八條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ之ヲ爲ス

第九條 海運業ノ統制ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ハ豫メ組合員タルベキ資格ヲ定メ其ノ資格ヲ有スル者ニ對シ海運組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

第十條 海運組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請スベシル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請スベシル

第十一條 海運組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得

險法案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミ

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

第二條 海運業者ハ其ノ事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲海運組合ヲ設立スルコトヲ得

第三條 会員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ヲ以テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得

第四條 組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得

第五條 組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得

第六條 組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得

第一條 本法ニ於テ海運業トハ左ニ掲グ
一 船舶ニ依リ人又ハ物ヲ運送スル事業
二 船舶ノ貸渡(期間傭船ヲ含ム)ヲ爲致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮詢致シマス

第三條 船舶ニ依ル人若ハ物ノ運送ニ關スル伸立業又ハ船舶ノ貸渡(期間傭船ヲ含ム)若ハ賣買ニ關スル伸立業

第六條 海運組合ヲ設立セントスルトキ

○服部崎市君 本案ハ政府提出職員健康保

以テ之ヲ爲ス

第十條 前條第二項ノ規定ニ依ル認可申

請アリタル場合ニ於テ定款其ノ他必要

ナル事項ニシテ著シク不相當ト認ムル

モノアルトキハ政府ハ之ニ變更ヲ加ヘ

テ認可ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ニ依ル認可申請ナキ

トキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ

關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 海運組合ハ設立ノ認可アリタ

ル時又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ定款

ノ作成アリタル時成立ス

第十二條 第九條第一項又ハ第十條第二

項ノ規定ニ依ル海運組合成立シタルト

キハ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ハ

其ノ組合員組合員トス

第十三條 政府第十條第二項ノ規定ニ依

リ定款ヲ作成シタルトキハ海運組合ノ

理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滞ナク組合員總會ヲ招

集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ收

支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決ス

ベシ

第十四條 政府ハ海運業ノ統制ヲ圖ル爲

必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル

所ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員タル

資格ヲ有スル者ヲシテ海運組合ノ組合

員タラシムルコトヲ得

第十五條 海運組合ノ定款ニハ左ノ事項

ヲ記載スベシ

ヲ經ベシ

一 定款ノ變更

二 収支豫算及經費ノ分賦收入方法

三 業務報告及收支決算ノ承認

四 第二十條第一項ノ規程ノ制定及變

更退

五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脫

離

六 解散

七 事業ノ執行ニ關スル規定

八 會議ニ關スル規定

九 組合員ノ權利義務及經費ノ分擔ニ

十 會計及財產ニ關スル規定

十一 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定

メタルトキハ其ノ期間又ハ事由

クベシ

第十六條 海運組合ニハ理事及監事ヲ置

ヲ受クルニ非ザルバ其ノ效力ヲ生ゼズ

監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス

理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス

監事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ

組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テ

ハ監事組合ヲ代表ス

理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行

フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ

得ズ

第十七條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定

ム所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

ルコトヲ得

第二十一條 海運業ノ經營ニ關スル弊害

合ニ對シ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコ

トヲ得

ヲ豫防シ若ハ矯正ズル爲又ハ其ノ健全
ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルト
キハ政府ハ海運組合ニ對シ必要ナル事
業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得
第二十二條 海運業ノ經營ニ關スル弊害
ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ其ノ健全
ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルト
キハ政府ハ海運組合ノ組合員ニ對シ又
ハ組合員及組合員ニ非ザルモ組合員タ
ル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ統
制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得
第十九條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ
議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依
ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セシ
ムルコトヲ得

第十九條 總會ノ議決ハ定款ノ定ムル所
ニ依リ出席シタル組合員ノ議決權ノ過
半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第十七條第一
項第一號、第二號及第四號乃至第六號
ニ掲タル事項ノ議決ハ總組合員ノ半數
以上ニシテ議決權總數ノ半數以上ニ當
ル組合員出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二
以上ノ多數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
第二十條 海運組合ハ組合員間ニ於ケル
事業ノ統制ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關
スル規程ヲ定ムベシ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運組
合ノ規程ノ變更ヲ命ズルコ

トヲ得

第二十一條 海運業ノ經營ニ關スル弊害

合ニ對シ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコ

トヲ得

第二十一條 海運組合ハ左ノ事由ニ因リ
テ解散ス

一 存立ノ期間ノ満了其ノ他定款ニ定

メタル事由ノ發生

二 總會ノ決議

三 破產

四 政府ノ解散命令

第二十六條 海運組合ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

海運組合聯合會ハ他ノ海運組合聯合會又ハ海運組合ト其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲更ニ海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

海運組合聯合會ハ法人トス

第二十七條 海運組合聯合會ヲ設立セん

員タルベキ資格ヲ有スル組合又ハ聯合會ノ中會員タラントスル者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ、第二十九條ニ

於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依リ海運組合聯合會ノ設立ヲ命ぜラレタ

ルトキハ其ノ組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ之ヲ爲ス

ニ依リ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必

要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ

認可ヲ受クベシ
第二十八條 創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス

第二十九條ニ於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依ル海運組合聯合會ニ付テ

ハ前二項ノ規定ニ拘ラズ創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席シタル創立委員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス
第二十九條 第四條、第五條、第九條第一項及第十條乃至第二十五條ノ規定ハ第三十條 海運組合及海運組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ登記スペキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
第三十一條 海運組合及海運組合聯合會ノ清算ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十二條 海運組合及海運組合聯合會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ
第三十三條 民法第五十一條第二項、第十五條、第五十九條第三號第四號、第六十條乃至第六十四條及第六十六條ノ規定ハ海運組合及海運組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第三十六條 海運組合又ハ海運組合聯合會ノ理事、監事又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ要求シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

本條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ
第三十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ海運組合ノ罰金ニ處ス

又ハ海運組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ

第五十二條第二項、第五十四條、第五十五條、第五十九條第三號第四號、第六十條乃至第六十四條及第六十六條ノ規定ハ海運組合及海運組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ民法第六十二條中五日ト

本條ノ罪ハ重要肥料業統制法」ノ上ニ「海運組合法」ヲ加フ

第三十九條 第三十條及第三十一條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ於テハ之ニ違反シタル者ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

ル規定ヲ設クルコトヲ得

第四十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム登錄稅法第十九條第七號中「又ハ肥料製造業組合」ノ上ニ「海運組合、海運組合聯合會」ヲ、「又ハ重要肥料業統制法」ノ上ニ「海運組合法」ヲ加フ
造船事業法案

造船事業法

第一條 本法ニ於テ造船事業トハ命令ノ定ムル設備ヲ備フル者ノ爲ス船舶ノ製造又ハ修繕ノ事業ヲ謂フ

前項ノ事業ヲ營ム者ノ爲ス船體、船舶用機關若ハ艦裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕ハ之ヲ其ノ事業

ノ一部ト看做ス

第二條 造船事業ヲ營マントスル者ハ政

ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

三 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

令又ハ處分ニ從ハザルトキ

四 本法ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置カザルトキ又ハ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セザルトキ

二 本法ニ依リ政府ノ徵スル報告ヲ爲サズ又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他政府ノ命

府ノ許可ヲ受クベシ

第三條 前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社又ハ有限會社ニシテ其ノ株主又ハ

社員ノ半數以上、取締役半數以上、資本ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ

其ノ效力ヲ失フ

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル會社(以下造船會社ト稱ス)ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

造船會社前一項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第二條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 造船會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ譲渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

造船會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クル

第六條 造船事業ハ土地收用法第二條ノ

キ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社又ハ有限會社ニシテ其ノ株主又ハ

社員ノ半數以上、取締役半數以上、資本ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

ニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第六條 造船事業ハ土地收用法第二條ノ

土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

業トシ同法ヲ適用ス

第七條 造船會社ハ其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ニ充ツル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ毎決算期ノ利益ノ一部ヲ積立ツベシ

第八條 株式會社タル造船會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル純財產額ガ拂込ミタル株金額ニ満タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

ユルコトヲ得ズ

第十二條 政府ハ船體、船舶用機關若ハ艦裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付其ノ規格ヲ定ムルコトヲ得船舶及船舶舊社債償還ノ爲ニスル社債ノ募集ニ付

テハ其ノ舊社債ノ額ハ社債ノ總額中ニ之ヲ算入セズ此ノ場合ニ於テハ拂込ノ期日、若シ數回ニ分チテ拂込ヲ爲サン

ムルトキハ第一回拂込ノ期日ヨリ六月以内ニ舊社債ヲ償還スルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ

特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要

造船會社本邦ニ於テ未ダ製造セラレタルコトナキ船體、船舶用機關若

ハ艦裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ

製造ヲ爲ス場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ船體、船舶用機關若ハ艦裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニハ本邦ニ於テ製造セラレタル物ヲ使用スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十條 政府ハ造船會社ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ船體、船舶用機關若ハ艦裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニハ本邦ニ於テ製造セラレタル物ヲ使用スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十一條 政府ハ造船事業ノ維持ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ船舶ノ製造ヲ爲ス造船會社又ハ船舶ノ製造ノ注文ヲ爲ス者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付スルコトヲ得

第十二條 政府ハ船體、船舶用機關若ハ艦裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付其ノ規格ヲ定ムルコトヲ得船舶及船舶舊社債償還ノ爲ニスル社債ノ募集ニ付

テハ其ノ舊社債ノ額ハ社債ノ總額中ニ之ヲ算入セズ此ノ場合ニ於テハ拂込ノ期日、若シ數回ニ分チテ拂込ヲ爲サン

ムルトキハ第一回拂込ノ期日ヨリ六月以内ニ舊社債ヲ償還スルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付

造船會社ハ前項ノ規定ニ依リ規格ヲ定メタルモノニ付テハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外規格ニ適合スルモノニ非ザレバ之ヲ製造シ又ハ船舶ニ使用スルコトヲ得ズ

ハ修繕料ノ變更ヲ命ジ又ハ此等ノ物ノ供給ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ造船會社ニ對シ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得

二 設備ノ新設、增設又ハ改良用機關若ハ艦裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付

ハ附屬品ノ製造又ハ修繕三 船舶ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設

前項ノ命令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條 政府ハ第十二條第一項ノ規格ノ決定、第十四條若ハ前條第一項第一號ノ命令又ハ前條第二項ノ補償金額ノ決定ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外造船事業委員會ノ議ヲ經ベシ

造船事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 造船會社ハ其ノ事業ノ改良發達ヲ圖ル爲造船組合ヲ設立スルコトヲ得

造船事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 造船組合ハ左ノ事業ヲ行フコ

造船組合ハ法人トス

第十九條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ造船會社ニ對シ船舶、船體、

船舶用機關若ハ艦裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付製造若ハ販賣ノ價格又

ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クル

造船會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クル

造船會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クル

官報號外 昭和十四年三月十二日 衆議院議事速記録第二十四號 海運組合法案外一件 第一讀會 第一讀會 五七一

トヲ得
一 組合員ノ事業ニ必要ナル物ノ取得、
保有及供給並ニ組合員ノ事業ヲ爲ニ
スル共同施設

二 組合員間ニ於ケル事業ノ統制

三 組合員ノ事業ニ關スル指導、研究
及調査

四 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目
的ヲ達スルニ必要ナル事業

第十九條 造船組合ハ定款ノ定ムル所ニ
造船組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業
ヲ行フコトヲ得ズ

第二十條 造船組合ヲ設立セントスルト

キハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ
組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分
ノ二以上ヲ以テ創立總會ヲ開キ定款其
ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ
政府ノ認可ヲ受クベシ

組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ
有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ル
コト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由ア
ルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ
開クコトヲ得

造船組合ハ第一項ノ認可アリタル時成
立ス

第二十一條 造船組合ノ定款ニハ左ノ事
項ヲ記載スベシ

一 目的
二 名稱

三 地區
四 事務所ノ所在地

五 組合員タル資格ニ關スル規定

六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

七 役員ニ關スル規定

八 事業ノ執行ニ關スル規定

九 會議ニ關スル規定

十 組合員ノ出資及責任ニ關スル規定

十一 組合員ノ権利義務及經費ノ分擔

十二 會計及財產ニ關スル規定

十三 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定
ニ關スル規定

第十二條 造船組合ニハ理事及監事ヲ
置クベシ

理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス
監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス

理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ

組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テ
ハ監事組合ヲ代表ス

理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行
フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超エルコトヲ
得ズ

理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ政府ハ
假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシム
ルコトヲ得

第二十五條 總會ノ議決ハ定款ノ定ムル
所ニ依リ出席シタル組合員ノ議決權ノ
過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第二十三條
第一項第一號、第二號、第四號、第五號
及第七號ニ掲グル事項ノ議決ハ總組合
員ノ半數以上ニシテ議決權總數ノ半數
以上ニ當ル組合員出席シ其ノ議決權ノ
三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ爲スコ
トヲ要ス

第二十六條 組合員ハ出資一口以上ヲ有
スベシ

組合員ノ有スベキ出資口數ハ五十口ヲ
超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル
トキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加
スルコトヲ得

第二十七條 組合員ノ責任ハ第十九條ノ
一定款ノ變更

二 支出豫算及經費ノ分賦收入方法
三 業務報告及收入決算ノ承認

四 第二十八條第一項ノ規程ノ制定及
變更

五 造船組合聯合會ノ設立、加入及脫
退ノ金額ヲ限度トシテ組合ノ債權者ニ
對シ責任ヲ負擔スルモノト爲ストヲ
得

六 役員ノ選任及解任

七 合併及解散

前項第一號、第四號、第六號及第七號
ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受
クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十四條 組合員ハ總會ニ於テ各一個
ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ
依リ一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セ
シムルコトヲ得

第二十五條 造船組合ハ組合員間ニ於ケ
ル事業ノ統制ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ
關スル規程ヲ定ムベシ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ造船組
合ニ對シ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコ
トヲ得

第二十九條 造船事業ノ健全ナル發達ヲ
圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ
造船組合ニ對シ必要ナル事業ヲ行フベ
キコトヲ命ズルコトヲ得

第三十條 造船事業ノ健全ナル發達ヲ
圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ
造船組合ノ組合員ニ對シ其ノ組合ノ統制
ニ從フベキコトヲ命ジ又ハ命令ノ定ム
ル所ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員タ
ル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合ノ組
合員タラシムルコトヲ得

第三十一條 政府ハ必要アリト認ムルト
キハ造船組合ニ對シ定款、收支豫算又
ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ズル
コトヲ得

第三十二條 造船組合ノ事業ノ繼續ヲ困
難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ

法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 總會ノ決議ノ取消
二 役員ノ解任
三 事業ノ停止

四 解散

第三十三條 造船組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 存立ノ期間ノ満了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生
二 總會ノ決議
三 合併
四 破産
五 政府ノ解散命令

第三十四條 造船組合ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲造船組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

造船組合聯合會ハ他ノ造船組合聯合會又ハ造船組合ト其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲更ニ造船組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

造船組合聯合會ハ法人トス

第三十五條 造船組合聯合會ヲ設立セントルトキハ會員タルベキ資格ヲ有スル組合又ハ聯合會ノ中會員タラントスル者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第三十六條 第十八條、第十九條、第二十條第三項、第二十一條乃至第二十三條ノ規定ハ造船組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第三十七條 造船組合及造船組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スペキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十八條 造船組合及造船組合聯合會ニハ所得稅及營業収益稅ヲ課セバ

第三十九條 民法第五十一條第二項、第五十二條第二項、第五十四條、第五十五條、第五十九條第三號第四號、第六十一條乃至第六十四條及第六十六條ノ規定ハ造船組合及造船組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第四十條 本法ニ規定スルモノノ外造船組合及造船組合聯合會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 政府ハ造船會社、造船組合又ハ造船組合聯合會ヲシテ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ造船會社、造船組合又ハ造船組合聯合會ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スルコトヲ得

第四十二條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ、船舶、船舶用機器又ハ艦載品ノ製造又ハ修繕ヲ爲ス事業ニシテ第一條ノ造

第四十四條 造船會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五十條第一項ノ規定ニ違反シ事業ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタルトキ本邦ニ於テ製造セラレタルニ非ザル物ヲ使用シタルトキ

三 第十二條第二項ノ規定ニ違反シ規格ニ適合セザルモノヲ製造シ又ハ船舶ニ使用シタルトキ

四 第十四條又ハ第十五條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ

五 第三十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ統制ニ從ハザルトキ

第四十五條 造船會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四十一條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

二 第四十一条第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第三十五條 造船組合聯合會ヲ設立セントルトキハ會員タルベキ資格ヲ有スル組合又ハ聯合會ノ中會員タラントスル者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第四十六條 造船事業ヲ營ム者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第四十三條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十七條 第四十三條乃至第四十五條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十八條 造船組合又ハ造船組合聯合會ノ理事、監事又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處斯前項ノ場合ニ於テ收受シタルトキハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

本條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第四十九條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下の罰金ニ處ス

第五十条 造船會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監查役ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ違反シ準備金ノ積立ヲ爲サズ又ハ之ヲ同條ニ規定スル以外ノ目的ニ使用シタルトキ

二 第八條ノ規定ニ違反シ社債ヲ募集

シ又ハ舊社債ノ償還ヲ爲サザルトキ
第五十一條 左ノ場合ニ於テハ造船組合
又ハ造船組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ
五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ
爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 本法ニ依リ政府ノ徵ズル報告ヲ爲
サズ又ハ本法ニ依ル政府ノ命令若ハ
處分ニ從ハザルトキ

三 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタル
トキ

四 本法ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置
カザルトキ又ハ其ノ書類ニ記載スベ
キ事項ヲ記載セザルトキ

第五十二條 第三十七條及第四十條ノ規
定ニ基キテ發スル勅令ニ於テハ之ニ違
反シタル者ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス
ル規定ヲ設クルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但
シ第三條中有限會社ニ關スル規定ハ有限
會社法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ際現ニ造船事業ヲ營ム者又ハ
其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日
ヨリ一年ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其
ノ事業ヲ營ムコトヲ得
前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ第二條ノ
許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ

對シ許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項

ニ同ジ

登錄稅法第十九條第七號中「貿易組合中
央會」ノ下ニ「造船組合、造船組合聯合
會」ヲ、「貿易組合法」ノ下ニ「造船事業
法」ヲ加フ

〔國務大臣鹽野季彥君登壇〕

○國務大臣（鹽野季彥君） 只今議題トナ
リマシタ海運組合法案及ビ造船事業法案提
案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、我國海運並
ニ造船事業ガ、經濟上ニ於キマシテモ將又
國防上ニ於キマシテモ、極メテ重要ナル使
命ヲ有シ、其ノ消長ガ國運ノ隆替ニ至大ノ
關係ヲ有スルコトハ、茲ニ申上ダルマデモナイ所デアリマス、政府ハ夙ニ此ノ點ニ留
意致シマシテ、之ガ振興ニ努メ來ツタノデ
アリマスガ、幸ニシテ斯業ハ逐年著シキ進
歩發達ヲ遂ゲ、今ヤ我國ハ名實共ニ世界ニ
於ケル有數ノ海運國タル地位ヲ確立致シテ
居ル次第デアリマス、然ルニ今次事變ニ伴
フ内外諸情勢ノ推移ニ鑑ミマスル時ハ、我
ガ國運ノ進展ニ順應シテ、更ニ益、斯業ノ充
實強化ヲ圖ルノ緊要ナルヲ痛感スルノデア
リマス、即チ速ニ優秀船舶ノ建造ヲ促進シ
テ、我ガ航權ノ伸張ヲ圖ラシムルト共ニ、
海上交通運輸ヲ適正ニ調整シ、諸般ノ產業
政策遂行上遺憾ナキヲ期セシムルノ必要ガ
アルノデアリマス、之ガ爲先ツ海運業者ヲ
シテ鞏固ニシテ規律アル組合機構ヲ整備セ
シメ、事變下ニ於ケル業界ノ指導竝ニ統制

物ノ處置ニ困難ヲ致シテ居ルコトハ、

ト云アコトガナケレバ或ハ之ヲ外國航路ニ引上げ

テ、國際貨借ニ裨益スルト云フダケノ

心構ヘヲ必要トスルノデアリマス、又

據ヲ有シテ居ルモノハ之ヲ除外シテ居ルノ

デアリマス、若シ斯ノ如キ計畫ニ依ツテ海

航路ヲ併合統一スルノミデアリマシテ、大

陸汽船ノ如キ、朝鮮郵船ノ如キ、外地ニ根

地ニ根據ヲ有シテ居リマス九會社ノ支那

巴ナラヌノデアリマス（拍手）然ルニ對支海

沿岸、長江一帶ニ瓦ツテ日本ノ航權ヲ確立

スル爲ニハ、現在日支ノ間ヲ運營シテ居ル

ハ、ドウ云フヤウニナツテ居リマスカ、支那

○小林房之助君（小林房之助君登壇）

マス、順次之ヲ許シマス——小林房之助君

〔小林房之助君登壇〕

マス、
シマシテ、海運政策ニ付テ四五點ニ瓦ツテ

質疑ヲ致シタク思フデアリマス、事變ニ際

シテ國家ニ徵用致シマシタル船舶ノ配船運

航ニ關シテハ、圓滑ニ之ガ運用ヲ圖ツテ、

徒ニ船腹ヲ遊バセテ置クト云フコトガアツ

テハナラヌノデアリマス、若シ船腹ヲ遊バ
セテ置クガ如キ餘裕ガアリマシタナラバ、

此ノ國策會社ノ航路ト、此ノ國策會社ニ統

一サレナカツタ大連汽船、朝鮮郵船ノ航路

潤達ナル對外的發展ヲ遂ゲシムルヤウ努メ
シムルト共ニ、他面造船事業ニ付キマシテ
ハ、適切ナル保護監督ヲ加ヘテ、事業經營
ノ基礎ヲ強靱ナラシメ、能フ限リ優秀經濟
船ヲ低廉ニ供給セシムルヤウ指導スルコト
ハ、極メテ緊要デアルト思フノデアリマス（拍手）
アリマス、仍テ是等ノ方策ノ實現ヲ期スル
爲、茲ニ海運組合法案並ニ造船事業法案ヲ
提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上
速ニ御協賛アランコトヲ希望致シマス

○副議長（金光廣夫君） 質疑ノ通告ガアリ
マス、順次之ヲ許シマス——小林房之助君
〔小林房之助君登壇〕

○副議長（金光廣夫君） 質疑ノ通告ガアリ
マス、順次之ヲ許シマス——小林房之助君
〔小林房之助君登壇〕

○小林房之助君 私ハ只今ノ議題ニ關聯致
シマシテ、海運政策ニ付テ四五點ニ瓦ツテ
質疑ヲ致シタク思フデアリマス、事變ニ際
シテ國家ニ徵用致シマシタル船舶ノ配船運
航ニ關シテハ、圓滑ニ之ガ運用ヲ圖ツテ、
徒ニ船腹ヲ遊バセテ置クト云フコトガアツ
テハナラヌノデアリマス、若シ船腹ヲ遊バ
セテ置クガ如キ餘裕ガアリマシタナラバ、
此ノ國策會社ノ航路ト、此ノ國策會社ニ統
一サレナカツタ大連汽船、朝鮮郵船ノ航路
トハ、當然茲ニ並行航路トシテ競争致サナ
ケレバナラヌコトニナルノデアリマス、無
用ノ競争ガ茲ニ惹起サレル結果ニナルノデ
アリマス、何故ニ大連汽船ト朝鮮郵船トハ
吾々ノ屢々耳ニスル所デアリマス、當局ハ徵
用船ノ配船運航ノ狀態並ニ埠頭ノ狀況ニ鑑
國策會社ニ併合統一サルルコトニ反對スル

ノデアリマスカ、關東軍ハ大連汽船ノ之ニ併合サレルコトニ何故ニ反対スルノデアリマスカ、朝鮮總督府ハ何故ニ朝鮮郵船ノ之ニ統合セラレルコトニ反対スルノデアリマスカ、私ハ其ノ詳細ニ付テハ委員會ニ於テ御尋致シタイト思ヒマスガ、若シ之ニ反對スル考へ方ガ割據主義的思想ニ基イテ居ルモノデアルト致シマスナラバ、海運國策遂行上大ナル障礙ト言ハネバナヌノデアリマス(拍手)斯クシテ支那ニ對スル海運國策ノデアルト致シマスナラバ、海運國策遂行上大ナル障礙ト言ハネバナヌノデアリマス(拍手)斯クシテ支那ニ對スル海運國策會社ハ未ダ出來ナリ、若シ出來上リマシテモ、支那ノ航路ノ全體的統一ノナイ不具ナル國策會社ガ設立セラレテ、併行航路方互ニ牆ニ闘グノ醜態ヲ暴露致シマスナラバ、是ハ實ニ經濟的海上制霸ノ癌腫デアリマシテ、何メ日ニカ航權伸張ノ實ヲ擧ガルコトガ出来マセウカ、更ニ又滿鐵系統ニ於テハ、大同ノ石炭、龍煙ノ鐵礦或ハ鹽等ノ運輸ヲ目標ト致シマシテ、別個ニ海運會社ヲ計畫シテ居ルト云フコトデアリマス、或ハ又北支交通會社ハ鐵道ノ經營カラ觸手ヲ延バシテ、同ノ石炭、龍煙ノ鐵礦或ハ鹽等ノ運輸ヲ目標ト致シマシテ、別個ニ海運會社ヲ計畫シテ居ルト云フコトデアリマス、或ハ又北支交通會社ハ鐵道ノ經營カラ觸手ヲ延バシテ、國策會社ガ設立セラレタ場合ハ、當然本質上之ニ統制セラレナケレバナラヌモノト考ヘルノデアリマス、今日ハ拙速ヲ尊ビマデアリマス、吾々ハサウ云フヤウナ閑葛藤ニアラウガ、其ノ所在ノ如キ官僚繩張リ争ヒノ閑葛藤ニアラウガ、其ノ所在ノ如キ官僚繩張リ争ヒノ閑葛藤ニアラウガ、其ノ所在ノ如キ官僚繩張リ争ヒノ閑葛藤ニアラウガ、其ノ所在ノ如キ官僚繩張リ争ヒノ閑葛藤ニアラウガ、其ノ所在ノ如キ官僚繩張リ争ヒノ閑葛藤ニアラウガ、其ノ所在ノ如キ官僚繩張リ争ヒノ閑葛藤ニアラウガ、其ノ所在ノ如

ク致サナケレバナラヌノデアリマス、有力ナル外國ノ海運、殊ニ英國ハ虎視耽々トシテ、我ガ日本ノ間隙ニ乘ゼント致シテ居ルノデアリマス、政府ハ斷乎トシテ國策ノ大乘的見地ニ立ツテ、速ニ是等ノ亂脈ヲ調整シテ、支那ノ航路ヲ打ツテ一丸トシタル對支海運國策會社ノ設立ヲ促進致サナケレバナリマセヌ(拍手)以上諸點ニ對スル政府ノ所信茲ニ具體策ハ如何デアリマスカ第三點ハ揚子江ハ何時頃開放セラル御見込デアリマスカ、揚子江ガ開放セラレマシタ曉ニ於テ、此ノ長江筋ニ配船サルベキ小型船ハ漸クニシテ三十隻程度位デアラウト云フコトハ、或ル専門家ノ推定デアリマス、萬一斯ノ如キ小規模ナルモノノデアツタナラバ、揚子江上ニ於ケル日本ノ商船ト云フモノハ寥々デアツテ、「ユニオンデヤック」ノ旗ノミガ長江ニ翻ツテ横行躊躇スルト云フ結果ニ相成リマスナラバ、是レ日本ノ航權ノ喪失デアリ、幾多ノ尊キ犠牲ヲ拂ウテ今邁進シツツアル新秩序ノ建設モ、終ニ黃梁一炊ノ夢ニ過ギナイノデアリマス(拍手)由來我國海運ノ支那沿岸及ビ内河方面ニ於ケル實力ハ振ツテ居リマセヌ、僅ニ事變前ノ此ノ方面ニ活動致シテ居リマシタ英國ノ船舶ハ、長江航行ノ停止ト支那沿岸封鎖ニ此ノ方面ニ於ケル英國ノ航權ハ、百年ニ瓦ル

益デアリマシテ、長江筋ガ一タビ一般商船ス、然ルヲ相應シカラザル滿洲國ノ主張ニ立チアルコトハ、國策ノ遂行上甚ダ遺憾至極ノコトト言ハナケレバナリマセヌ、政府ノ所信ヲ伺ヒタイノデアリマス(拍手)ガ航權ヲ確保スル計算ガアリマスカ、其ノ抱懷スル具體策ハ如何デアリマスカ、政府ノ所信ヲ伺ヒタイノデアリマス(拍手)第四ハ日本海ニ於ケル航路ノ統一デアリマス、日本海ニ於ケル航路モ亦未ダ統一サレテ居リマセヌ、日本海海運會社ノ設立ハ如何相成ツテ居ルノデアリマスカ、日本海航路ノ統一ヲ圖リ、日滿ノ連絡ヲ一層緊密ニスルコトハ、今日特ニ急ナルモノガアルノデアリマス、然ルニ朝鮮總督府ハ朝鮮郵船ノ「ローカルライン」ノ除外ヲ主張致シテ居ルノデアリマスガ、ソレト共ニ又ソレヨリモ滿洲國側ガ日本、滿洲ト半々ノ出資ヲシテ、共同經營ヲ爲サントスル主張ガ會社設立ヲ遲延セシメテ居ル原因デアリマス、ノ必要ナシト思フ、若シ其ノ必要アリトセバ其ノ理由ヲ承リタイ、日本海ノ航權ハ日本之ヲ獨占シテ居レバ宜シイノデアリマス、

居レバソレデ宜シイノデアリマス、ソレガ却テ滿洲ノ爲デアリ、日本ノ爲デアリマス、然ルヲ相應シカラザル滿洲國ノ主張ニ立チアルコトハ、國策ノ遂行上甚ダ遺憾至極ノコトト言ハナケレバナリマセヌ、政府ノ所信ヲ伺ヒタイノデアリマス(拍手)日本海運ニ依存スル可ナリトノ建前ヲ以テ、急速ニ日本單獨デ日本海航路統一ノ海運會社ノ設立ヲ促進スル意思ガアリマスカ、明快ナル御答辯ヲ求メマス、島帝國タル日本ハ海運ヲ離レテ生命ハアリマセヌ、海運ヲ閑却シテ日滿支ノ協同體ハ存在致サナイノデアリマス、今ヤ五百万噸以上ノ船舶ヲ擁シ、兩三年ナラズシテ七百万噸ニモ達セントスル勢力ヲ保有シテ居ル我ガ海運ハ、假令其ノ噸數ニ於テハ米國ニ讓ルト雖モ、實力ニ於テハ米國ヲ凌イデ、英國海運トノ桔抗爭霸ハ愈、深刻トナルベキ運命ニアルノミナラズ、全世界ノ海洋ニ進出スベキ必然的使命ハ、現實ニ各國トノ海運爭霸ヲ招來セナケレバナラヌノデアリマス、而モ國際收支ノ改善及ビ物資輸入力増大ノ必要ヲ痛感セラル最近ノ狀態ニアリマシテハ、近キ將來三億圓ニモ上ルベキ外貨獲得ノ手段トシテ、一層重大ナル任務ヲ有スル我ガ海運ノ發展躍進ノ爲ニ、現在ノ管船局ヲ擴大強化シテ、政府自ラ強力ナル統制機構ノ上ニ立チタル内外地ヲ通ズル海運行政ノ徹底的統一ト、海運國策ノ一元的強化ヲ期スルノ必要アリト信ズルノデアリマス(拍手)今日

ト擔保ニ重キヲ置キマスルガ故ニ、小會社、小船主ハ事實上是ガ適用ヲ受ケナイノガ現在ノ實情デアリマス、政府ハ此點ニ關シテ如何ニ之ヲ運用セラレントスルノデアリマスルカ、殊ニ現下我國ノ海運界ノ發展ニ對シテハ、新人ノ出現ニ期待スル所大ナルモノガアルノデアリマス、第二、第三ノ岩崎彌太郎ノ現ハレンコトヲ希望シテ居ルモノデアリマス、隨テ之ニ對スル新ナル道ヲ開キ、政府ハ大ニ新人ノ活動ヲ助成スルニアラズンバ、本法制定ノ根本精神ハ半バ失ハレタルモノト言ハナケレバナラヌノデアリマス、政府ハ今次支那事變ニ當り、我ガ大陸軍ノ大陸輸送ニ關シ、一隻ノ外國船ノ力モ借リズシテ、遂ニ戰局ヲ徹底的ニ有利ニ導キタルハ、無論大會社ノ努力モ認メマスルガ、又其ノ背後ニ常ニ政府ヨリ迫害セラレ、冷眼視セラレ、一金ノ補助モ得ズシテ獨力奮闘シツツ、遂ニ我國ヲシテ世界第三位ノ海運國タラシムルニ與ツテ貢獻致シタル、即チ是等ノ小會社、小船主ノ結合セル力ノ最モ大ナルモノデアルコトヲ、政府當局ハ深ク認識セラレマシテ、是等ノ保護助成ニ全力ヲ盡ストハ、政府ノ當然ナル責任デアリ、又義務ナリト信ズルモノデアリマスルガ（拍手）此ノ點ニ關スル政府ノ御所見如何デアリマスルカ、御伺致シタイノデアリマス、即チ政府ハ總動員法第一條ノ趣旨ニ基キマシテ、船舶金融法案ニ於テ、本事業ノ必要性ト海外正貨獲得ノ國家的大局ヨリ、是等ノ小船主ニ對シテハ擔保無クトモ

貸出し出來ルヤウ、對人信用ヲ擴張スル意思ガナイノデアリマスルカ、此ノ點御伺致シタイノデアリマス
次ニ此ノ法案ハ新造船ノミニ對シテ金融スルト云フ案デアリマスルガ、政府ハ現在運航シテ居ル船舶ニ對シテモ、其ノ必要アルモノニ對シテハ、之ヲ適用スル御意思ガナイノデアリマスルカ、即チ是モ前ニ述べマシタ如ク、海運國策ノ趣旨ヲ貫ク意味ニ於キマシテモ、亦本法ノ根本趣旨カラ申シマシテモ、運航船舶ニ對スル金融ヲ考ヘテヤルト云フコトハ、必然ノ問題ト思フノデアリマス、然ルニ現在紐育又ハ歐洲航路デリタインノデアリマス
次ニ造船事業法ニ關スル問題デアリマスルガ、我國造船技術ハ英米其ノ他各國何レノ海運國ヨリモ優レテ居ルノデアリマシテ、決シテ遙色ナイモノデアルト云フコトヲ私ハ固ク信ズルノデアリマス、今後本法ノ制定ニ依リマシテ、國內造船業ガ安定シ、健全ナル發達ヲ遂グモノデアルト云フコトヲ信ズル者デアリマス、唯此ノ法案ヲ見マスルト、第十二條以下ニ於テ船舶ノ規格ヲ定ヌタモノガアルノデアリマスルガ、是ハ如何ナル意味デアリマスルカ、聞ク所ニ依リマスレバ、政府ハ標準型船ニ付テ大體ノ成案ガアルト云フコトデアリマシテ、既ニ二三ノ新聞ニモ現ハレテ居ルノデアリマス、即チ政府ハ總動員法第一條ノ趣旨ニ基キマシテ、船舶金融法案ニ於テ、本事業ノ必要性ト海外正貨獲得ノ國家的大局ヨリ、是等ノ小船主ニ對シテハ擔保無クトモ

申上ゲルマデモナク標準型船ハ經濟的ニハ有利デアリ、造船所トシテハ非常ニ助カルノデアリマスケレドモ、技術ノ方面ヨリ申シマスレバ、例ヘバ遠洋航路ニ使用スル所ノ貨物船九千噸型ハ、標準型ニ依リマスルガ、之ニ對スル政府ノ御所見ヲ承リタインノデアリマス
ハ十六七浬ノ速力デ走ツテ居ル、即チ此ノ優秀船ニ依ツテ外國船ト競争致シマシテ、優秀ナル成績ヲ擧ゲテ居ルノデアリマス、然ルニ今後此ノ標準型船ニ建造セラルコトニナリマスルト、即チ退歩スルコトナリマシテ、對外競爭力ヲ減ズルノミナラズ、今後我國ハ進歩セル船舶ガ出來ナイコトニハナラナイノデアルカ、此ノ點ニ關シテ政府ノ御答辯ヲ煩ハシタイノデアリマス、私ハ此ノ規格ノ統一、即チ標準型船ノ設定ハ、經濟的ニハ宜シイト思フノデアリマスケレドモ、技術的ニ又質的ニハ缺陷アリト信ズルノデアリマシテ、今後我國造船業ノ健全ナル發達ヲ切望スル爲ニ御伺致シテ置キタノデアリマス
最後ニ海運組合法ニ關シテ一言御尋ヲ致シタイノデアリマス、本法ノ制定ニ依リマシテ海運業者ハ強制的ニ加入セラルコトニナルノデアリマスルカラ、此ノ際一言御付キマシテハ、曩ニ提案致シテアリマス船舶金融シツツアル現狀デアリマスガ、更ニ大型船ノミナラズ、中小型船ニ對シテモ金融スルコトニ致シタイト考ヘテ居リマス

第三點ノ既存ノ船舶ニ對スル金融ニ付キマシテハ、曩ニ提案致シテアリマス船舶金融ニ關スル法律案ガアリマシテ、既存ノ船舶ヲ抵當トシテ新船建造ノ資金ニ致サセ、且ツ其ノ全額マデ貸付ケ得ルコトニ致シタルノデアリマス、將來之ヲ擴張スルカ否カニ付キマシテハ研究スルコトニ致シマスガ、無擔保デ小船主ニ貸付ヲ爲スベキカ否カニ

付キマシテハ、是ハ考究ヲ要スル點ガ多々
アルト考ヘマスカラ、篤ト調査スルコトニ
致シタイト存ジマス

第四點ノ船船ノ規格ヲ統一スル點ニ付テ
ノ御質疑デアリマシタガ、目下遞信當局ニ

於キマシテ考ヘテ居ル所ハ、不定期ノ貨物
船ニ付テ數種ノ標準型ヲ定メマシテ、船舶
建造上ノ據ルベキ標準ヲ示シタモノニアリ

マス、勿論遞信省ト致シマシテ、ドノ船ヲモ皆
一樣ニ同一ナ型ニシロト云フコトハ不合理
デアルト云フコトヲ存ジテ居リマス、唯前申シ
マシタ不定期ノ貨物船ノヤウナモノニ付キ
マシテハ標準型ヲ示シタ方ガ、其ノ建造ノ

上ニ安價ニシテ便利デハナイカト云フコトヲ
考ヘテ居ルノデアリマス、勿論此ノ標準型
ハ永久ニ變ヘナイト云フ趣意ノモノデハア
リマセヌ、將來新シキ技術ヲ採入レマシテ
之ヲ改正致シテ行クコトハ、是非致サナケ
レバナラナイノデアリマス、隨テ此ノ規格
統一ノ爲ニ技術ノ進歩ヲ阻碍スルト云フヤ
ウナコトガアツテハナラヌト考ヘテ居リマ
スカラ、今後ニ於キマシテモ、技術的ニ優
秀ノモノタラシメルコトニ大イニ努力スル
考デ居リマス

最後ニ海運組合ノ議決權ガ一人ニ付キ二
個以上トアルガ、ドウ云フ規定デアルノカ
ト云フ御尋ニアリマシタガ、現在ノ狀態ニ
於テハ、極メテ大キナ船主モアリマス、又
極メテ小ナル船主モアリマス、我國海運ノ
實情ニ鑑ミマシテ、斯様ニ規定スルコトガ
適當デアルト認メマシタ爲デアリマス、是

ガ運用ニ當リマシテハ、固ヨリ大船主又ハ
小船主ノ何レニ對シテモ、正當ナル意思ガ
反映シテ適當ニ處置セラレルヤウニ指導監
督ヲ致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス
(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 是ニテ質疑ハ終了
致シマシタ——各案ノ審査ヲ付託スベキ委
員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 日程第十五及ビ第十六ノ兩
案ハ一括シテ政府提出船舶建造融資補給及
損失補償法案委員ニ併セ付託セラレンコト
ヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——是ニ
テ本日ノ議事日程ハ終了致シマシタ、次會
ノ議事日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、
本日ハ是ニテ散會致シマス

午後五時二十一分散會

正誤
衆議院議事速記録第二十三號中

五〇九	四	二五二六	皇太后宮
五〇九	四	一二三	太夫
三一		約二倍	約十倍
割		約三倍	約三倍
正		正	正
誤		誤	誤
行		行	行
段		段	段
頁		頁	頁